

越タルモノト善三郎兩名同行シ來リ告ルニ該事件ハ下關大豐ナル
モノ思テ離ニテ報スル意ニ出ルモノニシテ余程事實相違ノ廉アル
云々ヲ直話シ次号ニ取消シ吳ルヘキ旨依頼セシニヨリ同八十號ニ
取消シタリ就テハ己レノ事ニ之レナキハ明瞭ニ知リナカラ告發ス
ル理由ハナキモノトス

第五條

假令己レノ事ニ近シト想像スルモ文ノ結局ヲ待テ告發スル當然ナ
リ抑文ナルモノハ初メ孝貞忠義ナルモ局ヲ結フニ至リ不忠不孝ト
ナルアリ又前編ニ惡シ様ニ書キタルモ後編ニ至リ善心ヨリ起リシ
モノ等之レ文作ノ一體ナルハ言ヲ竣タス然ルチ未タ文ノ局ヲ結ハ
サルノミナラス己レノ事ニ之レナキヲ知リナカラ告發スルハ粗忽
ノ甚シキモノト云フヘシ

第六條

該事件ニヨリ今般長崎裁判所福岡支廳ニテハ未タ口供ニ伏罪ノ明
文アラサルヲ宣告アリシハ不當ノ裁判ナリト不服トスル所以ナリ
右ノ理由ナルヲ以テ此段上告仕候也

大審院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ

上告人加藤一郎植木園ニカ請求スル處ハ左ノ條件ナリトス

第一條

メサマシ新聞第七十九号欄内第五項ニ記載セシ事件ニ付被害人ニ
アラサル淺原善三郎カ己レノコトヲ譏毀セラレシモノト其想像ヲ以
テ告訴ナシタレト該文中決テ譏毀ノ意ハ之レナキトノコト

第二條

淺原善三郎カ鷺ノ字ヲ以テ虛言ノ文字ト誤認シタルモノトノコト

第三條

該新聞紙中記載スル事件ハ他人ノ事ニシテ後編ヲ出サントスル際
其他人ヲ他所へ迎ニ行キシモノト淺原善三郎兩名同行シ來リ事實
相違ノ廉アルヲ告ルニ依リ則チ後編ニ取消シタレハ善三郎ハ己レ
ノ事ニアラサルハ明瞭ニ知リナカラ之レヲ告發スルノ理由ハナキ
モノトストノ

第四條

口供ニ伏罪ノ明文ナキヲ宣告アリシハ不服ナリトノ

辨明

加藤一郎植木園ニ於テハメサマシ新聞第七十九號欄内第五項ニ
記載セシ事件ニ付云々該文中決テ讒毀ノ意ハ之レナキ旨申立ルト
雖モ前文ニ掲タル園ニカ福岡縣警察署ニ於テナシタル口供中晦日

二月アル世ノ中云々ト掲載シ右文中善三郎方屋號並ニ苗字ヲ見易
カラシメン爲君カト淺ハラノ文字ニ環点ヲ付シ云々トアリテ又該
新聞紙第五項ノ文ヲ閱スルニ同文中(柳町ナル君カ代トカ是レモ鷺
ヲハ寶トスル家ニ居ナカラ淺ハカニホノマニハラカラ云々妻子ヲ
捨テ家ヲ脱出云々トアリ而シテ現ニ右君カト淺ハラノ文字ニハ果
シテ其環点ヲ付シアルヲ見レハ善三郎カ屋號並ニ其苗字ヲ指的シ
掲載シタルハ明白ナルモノナリトス然レハ即チ該文柳町ナル以下
鷺ヲハ寶トスル又ハ妻子ヲ捨テ家ヲ脱出ス等ノ辭ハニ至リテハ讒
毀ノ最モ甚クシキモノト謂フヘク而シテ其事タル必ス皆之レヲ善
三郎カ事ニ指的ニ專ラ其同人ヲ讒毀セシメタルモ亦明白ナルモノ
ナリトス何トナレハ該文意柳町ナル文辭以下君カ代ヨリ淺ハラニ
繋リ仍ホ又其以下ニ及ヒ始終連絡斷ヘサルモノニシテ而シテ其全

文中別ニ被害者トスヘキ人ノ氏名更ニ其見ルヘキモノ無之モノナ
レハナリ故ニ其記載セシ事件ニ付云々該文中決テ讒毀ノ意ハ之レ
ナキトノ申立ハ事實ニ背戾シタル不條理ノ申立ニシテ相立サルノ
申立ナリトス

第二條

鷺ノ字ヲ以テ淺原善三郎カ虚言ノ文字ト誤認シタル者トノ旨申立
レモ抑モ虚言ヲウソト云フハ一般ノ通言ナレハ該新聞紙第五項ニ
記載シアル鷺ノ字ニ於ル現ニ其側ハヲウソノ二字平假名ヲ付シア
リ依テ之レヲ其既ニ第一條ニモ辨明セシ如ク右同第五項中柳町ナ
ルヨリ以下ノ文意始終連絡斷ヘサルト殊ニ同文中(妻子ヲ捨テ家ヲ
脱出云々等甚シキ讒毀ノ辭ハアルトニ参照シ以テ之レヲ推スニ其
事實則チ右鷺ノ字ハ虚言ヲウソト云フノ通言ニ當テ之レヲ記載シ

善三郎其虚言ヲ賣トスル家ニ居ナカラ云々ト則チ右同人ヲ指的シ
讒毀セシヲタルハ自ラ明瞭ナルモノナレハ善三郎カ敢テ其之レヲ
誤認セシニアラサルモ亦自ラ明瞭タルモノナリトス

第三條

該新聞紙中記載スル事件ハ他人ノ事ニシテ後編ヲ出サントスル際
其他人ヲ他所ヘ迎ニ行キシモノト淺原善三郎兩名同行シ來リ事實
相違ノ廉アルヲ告ルニ依リ云々善三郎ハ己レノ事ニアラサルハ明
瞭ニ知リナカラ之レヲ告發スルノ理由ハナキモノトストノ旨申立レ
レ既ニ第一條ニモ辨明スル如ク該新聞紙第五項ノ全文中別ニ被害
者トスヘキ人ノ氏名更ニ其見ルヘキモノ之レナク又其他人ヲ他所
ヘ迎ニ立越シタルモノト善三郎兩名同行シ來リ事實相違ノ廉ヲ告
シトアル其善三郎外壹名トスルハ果シテ何人ナリシトナルヤ若シ

又其事ヲシテ眞ニ實ナルモノトセハ豈ニ其之レヲ初メニ警察署ニ於テ申出セサルヘキノ理アラシヤ必ス其之レヲ申出セサルヲ得サル筈ナリトス然ルニ前文ニ掲クル一郎及ヒ園ニカ福岡縣警察署ニ於テナシタル口供中更ニ其事ヲ以テ申出シタルノ廉アルナク他ニ亦其事一トシテ其証左ノ見ルヘキモノアルナク唯右一郎等カ今更之レヲ其自陳スル迄ノコトニ止マルモノナリ然ルニ善三郎ニ於テハ該新聞紙第五項ノ事ニ付既ニ其告發ナシタルモノナレハ善三郎カ己レノ事ニアラサルヲ了知アリシニ無之ヲハ明瞭タルモノナリトス夫如此既ニ善三郎カ己レノ事ニアラサルヲ了知アリシニ無之ヲハ明瞭タルモノナル故ニ假令該新聞紙第五項ノ文ヲ其次號ニハ之レヲ取消タルモノトスルモ善三郎ニ於テハ一日一記以テ公布スル處ノ新聞紙上ニ付現ニ己レノ榮譽ヲ妨害スルノコトヲ掲載シアリテ

既ニ之レヲ以テ一旦發兌及ハシタル上ハ豈其次號於テ取消ノ有無等ニ關係スヘキノ理アラシヤ直ニ其告發ヲナスヘキ當然ノ筈ナルニ付善三郎カ右次號ノ取消シニ關係セス直ニ其告發ヲナシタルハ固ヨリ相當ノコトナリトス

第四條

口供ニ伏罪ノ明文ナキヲ宣告アリシハ不服ナリトノ旨申立レトモ該新聞紙第五項ノ文面一見シテ其善三郎ヲ譏毀シタルノ確証判然相顯ハレ而シテ其事既ニ被害者ナル右善三郎ヨリ告訴ナシタル上ハ一郎園ニカ口供ニ付其伏罪ノ明文ナシト雖モ裁判官ニ於テハ明治九年六月十日太政官第八十六號布告改定律例第三百十八條改正凡ソ罪ヲ斷スルハ証ニ依ルトアルニ依リ直ニ其裁判ヲ降スハ當然ノ筈ナリトス故ニ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ一郎園ニカ科ヲ斷シ譏

謗律第五條並新聞條例第七條ニ據リ一郎ハ仮編輯長ナルヲ以テ首
ヲ以テ論シ罰金五圓五拾錢園二ハ筆者ナルヲ以テ從テ以テ論シ罰
金五圓申付ルト申渡シタルハ不適當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十二年七月四日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ
加藤一郎植木園ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキヲ以テ上
告狀却下スルモノ也

第四百八十八號

○判文(竊盜再犯ノ件)明治十二年十月十五日上告
明治十二年十一月十一日判決

大坂府東區相生町平民

笹田虎吉

明治十二年九月
十四年四月生

右虎吉カ明治十二年九月三十日大坂裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供
左ノ如シ

自分犯罪ノ際前書警察署ニ於テ申立タル通相違無之候事

右盜取候金饅頭代積共合金五拾錢相成候旨承知仕候事

明治十二年九月十四日外兩度大坂府長堀橋筋警察署及ヒ高麗橋警察
署并ニ警察本署ニ於テ吟味ヲ受ケシ供狀ヲ閱スルニ左ノ如シ

長堀橋筋警察署ニテ爲セシ口供 明治十二年
九月十四日

明治十二年八月三十日大坂裁判所ニ於テ拘摸ノ科ニ依リ懲役五
十日ニ處セラル可キ處幼年ナルヲ以テ収賍金壹圓貳拾五錢ニ處
セラル

自分儀前顯御處刑相受爾後實父佐助ノ養育相受ケ候所素ヨリ怠情
〔原〕ノ生質ニテ父ノ教戒ニ堪兼明治十二年九月八日實家立出處々

漂泊罷在糊口ニ差迫候折柄同九月十三日午後一時頃府下西成郡難波村字千日前ニ於テ其節姓名不存堺縣下河内國澁川郡正覺寺村亡由平三男南野留吉ニ出會ヒ俱々遊歩ノ末深更ニ及ヒ宿泊スヘキ先キモ無之不得止西成郡西高津村生國魂神社脇新道土取場草中ニ打臥翌明治十二年九月十四日尙又留吉同道ニテ徘徊中午後二時頃府下南區難波新地壹番町路傍ニ茶繻子張蝙蝠傘一本差置キ有之ヲ見受不斗惡心ヲ生シ留吉ヘ該品盜取ヘキ旨相咄候所右傘留吉盜取候ニ付俱々何方ヘカ持行賣拂フヘク積ニテ西成郡難波村字千日前通行ノ際御召捕御拘引ノ上取調ヲ蒙リ有体申上恐入候事

高麗橋警察署ニテ爲セシ口供
明治十二年九月十二日

一自分儀明治十二年九月十二日犯罪有之大坂府長堀橋警察署ニ於テ父佐助ヘ責付中逃亡致所々徘徊罷在候所退々貧窮ニ差迫リ候ニ

リ尙亦盜心ヲ生シ明治十二年九月十六日午後六時頃西成郡難波村字千日前通行人住所姓名不知年齡廿年頃男腰提ケ胴亂中ノ金貳拾錢掏摸候事

一明治十二年九月十九日午前十時頃南區西櫓町十番地其節姓名不知相生安兵衛方店先ニ有之銅貨八錢盜取候事

一明治十二年九月十九日午後七時頃南區心齋橋筋一丁目三番地其節姓名不知速水幾之助方店先ニ有之饅頭拾盜取候事

一明治十二年九月廿日午後六時頃南區心齋橋筋一丁目鱈谷角ニ出シ店其節住所姓名不知同區大寶寺町中ノ丁十四番地辻川安兵衛方店先ニ有之金拾錢盜取候事

一右盜取候賍金三拾八錢悉皆當座ニ費用致候處明治十二年九月廿二日南區難波新地五番丁通行罷在候處捕縛相成候事

警察本署ニテ爲セシ口供 明治十二年九月廿五日

問 汝本文ニ云フ速水幾之助方ニテハ饅頭ノ外ニ銅貨拾錢盜取タル

コアルヤ

答 然リ

前書高麗橋署并本署ニ於テ供述ノ通相違無之候事

右ノ口供ニ依リ明治十二年十月八日大坂裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十二年九月十四日以後數金品ヲ竊取スル贓金七拾五錢ノ科竊盜律ニ依リ懲役五十日再犯ニ係ルト雖モ年十五以下ナルヲ以テ律例第四拾八條ニ依リ加等セスシテ實斷シ懲役五十日責付内逃走スルコヨリ律例第二百九十七條ニ照シ本罪ニ一等ヲ加ヘ懲役六十日ノ處逃走罪ハ尙老少〔原〕癡疾収贖例ニ依ルヘキヲ以テ懲役

六十日ノ収贖金壹圓五拾錢律例第七十四條ニ照シ半數ヲ科シ重ニ從ヒ實斷ノ懲役五十日申付ル

但現在スル贓品ハ取上尙贓金賠償ノ爲メ資力限追徴ス

大坂裁判所檢事小菅榮脩ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年十月十五日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要領左ノ如シ

笹田虎吉儀竊盜再犯ノ罪狀有之明治十二年九月廿二日責付ノ上及公訴審問中逃走シ仍ホ竊盜及ヒ拘摸罪ヲ犯シタルニ付同月廿七日右犯罪ヲモ公訴候處明治十二年十月八日別紙宣告書通例第四十八條及ヒ例第七十四條ニ依リ斷決セリ其例第四拾八條ニ依リ處分シタルハ相當ニ候得共例第二百九十七條ノ罪ハ現在處斷スル所ノ罪ニ加ナル所ニシテ虎吉ハ幼年ナルモ再犯ニ依リ實斷ノ處分ニナル

モノナレハ即チ其罪ニ加フルチ相當ト存候然ルチ例第七十四條實斷収贖並發スル例ニ依リ斷決シタルハ裁判法律ニ違フモノト存シ一件書類相添上告候也

大審院檢事和田八之進ハ明治十二年十月二十八日ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メシテ左ノ如シ

該犯ハ竊盜再犯ニ係ルモ年十五以下ナルヲ以テ例第四十八條ニ依リ唯其本罪ヲ實斷シ其責付中逃走セシハ實斷ス可キ本罪ニ加等ス可キ者ナルニ大坂裁判所於テ例第七十四條實斷収贖並發スル例ニ擬斷セシハ小菅檢事意見ノ通不當ノ裁判ト考量ス

右書類差進候條御判決有之度候也

大審院ニ於テ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

笹田虎吉カ明治十二年九月十四日以來大坂府南區難波新地一番町路傍外四ヶ所ニ於テ金錢物品ヲ竊取シ又ハ通行人ノ金錢ヲ掏摸セシハ年十五以下ナリト雖モ再犯ニ係ルヲ以テ改定律例第四十八條凡老小及癡疾者懲役終身以下ヲ犯ス者例ニ照シテ収贖スルノ後云々若シ盜罪賭博等加等ス可キ再犯ニ係ル者ハ但加等ノ罪ヲ宥メ本罪ヲ實斷シテ再ヒ収贖スルヲ聽サス云々トアルニ照シ仍ホ責付中逃走スルヲ以テ改定律例第二百九十七條凡犯人責付内ニ逃走スル者ハ本罪ニ一等ヲ加フ云々トアルニ依リ一等ヲ加ヘ處分スヘキモノトス然ルチ大坂裁判所ニ於テ逃走罪ハ老小癡疾収贖例ニ依ルヘキヲ以テ懲役六十日ノ収贖金壹圓五拾錢律例第七十四條ニ照シ半數ヲ科シ重ニ從ヒ實斷ノ懲役五十日ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

六〇四

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十二年十月八日大坂裁判所ニ於テ笹田虎吉ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

笹田 虎吉

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ竊盜再犯ト雖モ年十五以下ナルヲ以テ改定律例第四十八條ニ照シ贓金壹圓以下懲役五十日ノ處責付中逃走スルヲ以テ改定律例第二百九十七條ニ依リ本罪ニ一等ヲ加ヘ懲役六十日
第四百八十九號

○判文(翻)ノ件 明治十二年九月十日 上告
明治十二年十一月十一日 判決

鹿兒島縣日向國臼杵郡

川内名村平民

渡部 幸太郎

明治十二年九月
四十二年

大分縣豊後國南海郡

霞ヶ浦平民

松下 文次郎

明治十二年九月
三十九年八月

大分縣豊後國南海郡

長良村平民

長田 吉太郎

明治十二年九月
四十九年

七〇四

右幸太郎外二名カ明治十二年九月八日熊本裁判所管内佐伯區裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左ノ如シ

渡部幸太郎口供

私ハ明治十二年舊五月十日南海部郡堤内村平民當時姓不知柳川常太郎方ニ於テ戸主常太郎留主中當時姓名不知長田吉太郎ノ發意ニ同シ吉太郎外二人ト金錢ヲ賭ケ博戯ヲナシ續テ明治十二年舊五月十四日迄滞在ノ處松下文次郎等ト飲酒ノ末文次郎ハ長田吉太郎ト互ニ鬪毆セシテ引分ケントスル折柄如何ナル拍子ニヤ私兼テ痛所アル前ノ下齒ヲ手痛ク文次郎ヨリ股^{本ノ}儘打セラレタルヨリ攪ミ掛ラントスル内由藏ナル者ヨリ押止ラレ文次郎ハ逃出スヲ追掛ケ途中ニ有合フ杉板ヲ以テ文次郎ノ左足ヲ打タル次第ハ明治十二年八月廿五日大分縣佐伯警察署警部ノ面前ニ於テ摺印ナシタル口供通聊カ相違無之候事

松下文次郎口供

私ハ明治十二年舊五月十日堤内村平民柳川常太郎方へ止宿中長良村平民長田吉太郎外二名ノ者直ニ來合セ吉太郎ノ發意ニ同シ金錢ヲ賭ケ博戯ヲナシ續テ明治十二年舊五月十四日迄同家ニ止宿シ居ル處戸主常太郎弟佐吉ハ酒樽ヲ携へ立歸リ吉太郎等ト飲酒之末囊キニ錢賭ケ賭博ヲシタル際平田彌八ヨリ請取ルヘキ金圓有之ニ付彌八ヨリ衣類預ケ置キタルヲ持出テ金策致スヘキ存念ニテ持出ントスルニ吉太郎ヨリ申スニハ彌八ハ當家ニ於テ宿料モ未ダ拂ハサル事故其内壹枚丈殘シ置クヘント申スニ付此衣物ハ自分へ可拂金子之代リニ預タル品ナレハ持出ントスルニ吉太郎ハ自分ノ髪ヲ攪ミタルヨリ右手ヲ振り廻ハシタル處幸太郎モ自分へ攪ミ掛リ互ニ捻子合フ内自分吉太郎ノ左ノ鬢髮ヲ引拔キ拳ヲ以テ手強ク前齒ヲ打ナ^{其時ハ}造意ニテ打ナシカ承知セス又吉太郎ヨリ毛髮ヲ引キ拔

シ其内由藏ヨリ引分ラレ駈出シタル處幸太郎ハ駈付ケ杉板ヲ以テ
自分ノ左足ヲ毆打セラレシ次第ハ明治十二年八月廿五日大分縣佐
伯警察署警部之面前ニ於テ摺印ナシタル口供之通り聊カ相違無之
候事

長田吉太郎口供

私ハ明治十二年舊五月十日堤内村平民柳川常太郎方へ罷越シ姓不
知幸太郎外二名ト自分ノ發意ニテ金錢ヲ賭ケ博戯ヲナシ續テ明治
十二年舊五月十四日戸主常太郎弟佐吉等ト飲酒セシ末松下文次郎
ナル者兼テ平田彌八ヨリ預リ居ル衣物ヲ持出サントスルニ付彌八
ハ當家へモ宿料未タ不拂シテ居ル事ナレハ其内壹枚殘シ置クヘシ
ト申向タルモ不聞入駈出サントスルヲ自分引戻シ互ニ鬚髮ヲ摺ミ
捻テ合フ内由藏ヨリ引分ケラレ其際自分文次郎ノ鬚髮ヲ引拔キ自分

ハ左ノ鬚髮ヲ文次郎ヨリ引拔カレタル次第ハ明治十二年八月廿五
日大分縣佐伯警察署警部ノ面前ニ於テ摺印ナシタル口供ノ通り聊
カ相違無之候事

右ノ口供ニ依リ明治十二年九月八日熊本裁判所管内佐伯區裁判所ニ
於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

渡部幸太郎宣告書

其方儀審問ヲ遂ル處明治十二年六月廿九日南海部郡堤内村平民柳
川常太郎宅ニ於テ當時姓不知長田吉太郎外二名ト金錢ヲ賭ケ博戯
ヲナシ尙又明治十二年七月三日松下文次郎等ト飲酒ノ末文次郎ハ
吉太郎ト鬪毆セシヲ引分ケントシ文次郎ヨリ前齒ヲ毆打セラレシ
ヲ怒リ文次郎ヲ追駈ケ途中ニ有合杉板ヲ以テ文次郎ノ左足ヲ毆打
セシ次第ハ明治十二年八月廿五日大分縣佐伯警察署警部ノ面前ニ

於テ摺印ナシタル口供ノ通り聊カ相違無之旨申立被害人松下文次郎賭博組合人長田吉太郎等ノ供述ト符合スルコ付名例律二罪俱發以重論條ニ依リ右二罪ノ内一ノ重キ賭博罪ヲ以テ論シ懲役八十日杖ニ換ヘ杖八十申付ル

但シ所持スル骨子ハ取揚ル

松下文次郎宣告書

其方儀審問ヲ遂ル處明治十二年六月廿九日南海部郡堤内村平民柳川常太郎宅ニ於テ長良村平民長田吉太郎外二名ノ者ト金錢ヲ賭ケ博戲ヲナシ尙又明治十二年七月三日吉太郎等ト飲酒ノ末吹浦平民平田彌八ヨリ返金ノ代リニ預リ居ル衣類ヲ金策ノ爲メ持出サントスルヲ彌八ハ常太郎方ニ止宿シ宿料未タ拂ハサルヲ以テ吉太郎ヨリ衣類ノ内壹枚殘シ置クヘシト云モ其謂レナシトテ持出ントスル

ヲ吉太郎ハ頭髮ヲ摺ミタルヨリ吉太郎ノ左鬢ヲ引抜キタル次第ハ明治十二年八月廿五日大分縣佐伯警察署警部ノ面前ニ於テ摺印ナシタル口供ノ通り聊カ相違無之旨申立被害人吉太郎及ヒ賭博組合人渡邊^{原ノ}幸太郎等ノ口供ト符合スルニ付名例律二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ賭博罪ヲ以テ論シ懲役八十日杖ニ換ヘ杖八十申付ル

長田吉太郎宣告書

其方儀審問ヲ遂ル處明治十二年六月廿九日南海部郡堤内村平民柳川常太郎宅ニ於テ當時姓不知渡邊^{原ノ}幸太郎外二名ト金錢ヲ賭ケ博戲ヲナシ尙又明治十二年七月三日同所ニ於テ松下文次郎等ト飲酒ノ末文次郎カ兼テ平田彌八ナル者ヨリ預リ居ル衣類ヲ持出ントスルヲ押止ントシ互ニ捻合遂ニ文次郎ノ鬢髮ヲ引抜キタル次第ハ

明治十二年八月廿五日大分縣佐伯警察署警部ノ面前ニ於テ摺印ナシタル口供ノ通り聊カ相違無之旨申立被害人文次郎賭博組合人渡邊(原ノ)幸太郎等ノ供述ト符合スルニ名例律二罪俱發以重論條ニ依リ右二罪ノ内一ノ重キ賭博罪ヲ以テ論シ懲役八十日杖ニ換ヘ杖八十申付ル

但シ博具ハ取揚ル

大分縣十等警部後藤尙政ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年九月十日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告書ノ要領左ノ如シ

渡部幸太郎松下文次郎長田吉太郎三名ノ者共闘毆罪犯ニ依リ闘毆條瓦石棍棒ヲ以テ人ヲ毆キ傷ヲ成スモノニ該ル見込ヲ以テ熊本裁判所佐伯區裁判所へ及求刑候處明治十二年九月八日名例律二罪俱

發以重論條ニ依リ處斷相成タリ該犯ノ如キハ固ヨリ賭博犯ヨリ起リタル闘毆罪ニ係ルト雖モ其賭博罪ニ於ル時日經過シタル既往ノ犯罪ニシテ見獲ニ據ラサルモノニ付獨リ闘毆律ノ見込ヲ以テ求刑ニ及ヒタル處賭博罪ニ依リ處斷相成リタルハ不當ノ裁判ト見込候ニ付及上告候也

大審院詰兼務檢事長岸良兼養ハ明治十二年十月六日ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メヨリ左ノ如シ

該犯共闘毆罪ノ原由ハ賭博上ヨリ起ルト云フモ其賭博ノ擧タル既往ニ係リ見獲ニ據ラサル者ニ付獨リ闘毆罪ノ問ヒ渡部幸太郎ニ於テ木板ヲ以テ人ノ左足ヲ毆キ皮膚赤色ヲ帶ヒ腫起スルハ闘毆律瓦石棍棒等ヲ以テ人ヲ毆キ傷ヲ成ス者ニ問擬シ松下文次郎長田吉太郎ニ於テ互ニ髮ヲ抜キト見認ム方寸以内又文次郎ハ拳ヲ以テ齒ヲ打ツ者

各同律内手足ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成サ、ル者ニ擬シ所斷スヘキ者トス然ルニ熊本裁判所管内佐伯區裁判所ニ於テ二罪俱發以重論條ニ依リ現行犯ニ非サル賭博罪ヲ問ヒタルハ大分縣警部後藤尙政意見ノ通不當ノ裁判ト考量ス

右書類差進候條御判決有之度候也

大審院ニ於テ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

前ニ掲クル幸太郎カ口供ニ明治十二年舊五月十日南海部郡堤内村平民當時姓不知柳川常太郎方ニ於テ戶主常太郎留守中當時姓名不知長田吉太郎ノ發意ニ同シ吉太郎外二人ト金錢ヲ賭ケ博戯ヲナシトアリテ文次郎及吉太郎ノ口供モ同様ナルヲ見レハ幸太郎等カ賭博セシハ明治十二年陰曆五月十日ノヲナリトス幸太郎外二名ノ者

二十五日大分縣佐伯警察署ニ於テ爲シタル口供ヲ閱ス而シテ右幸太郎カ口供ノ續キニ明治十二年舊五月十四日迄滞在ノ處松下文次郎等ト飲酒ノ末文次郎ハ長田吉太郎ト互ニ鬪毆セシヲ引分ケントスル折柄云々トアリテ又文次郎及ヒ吉太郎ノ口供モ同様ナルコ據レハ幸太郎等カ鬪毆セシハ明治十二年陰曆五月十四日ノヲニシテ賭博ヲ爲シタルハ鬪毆セシヨリ三日前ノヲ而シテ文次郎カ下直見分署ニ告訴セシハ鬪毆ノヲニ止マリ賭博ノヲニ及ハサルノミナラス賭具モ亦他ノ審問中呈供シタルモノナレハ見在發覺セシ賭博罪ニアラストス左スレハ幸太郎外二名カ罪ヲ斷スルハ鬪毆律鬪毆條凡鬪毆手足ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成シ及ヒ瓦石槌棒ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成サ、ル者ハ笞三十傷ヲ成ス者ハ笞四十トアルニ照シ相當ノ處分ヲナシ而シテ賭博ノ擧ハ見獲ニ非ラサルヲ以テ罪ヲ問フヘ

キモノニアラスト然ルヲ熊本裁判所管内佐伯區裁判所ニ於テ賭博ノ罪ト闘毆ノ罪併發セシモノトシテ名例律二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ賭博罪ヲ以テ論シ懲役八十日杖ニ換ヘ杖八十ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十二年九月八日熊本裁判所管内佐伯區裁判所ニ於テ渡部幸太郎外二名ノ者ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

渡部 幸太郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ杉板ヲ以テ文次郎ヲ毆テ傷ヲ成ス者闘毆律闘毆條瓦石棍棒等ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成ス者ニ問擬シ

懲役四十日

松下文次郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ吉太郎カ鬢髮ヲ引拔ク科闘毆律闘毆條手足ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成ス者ニ問擬シ

懲役三十日

長田 吉太郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ文次郎カ鬢髮ヲ引拔ク科闘毆律闘毆條手足ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成ス者ニ問擬シ

懲役三十日

第四百九十號

○判文詐欺取財ノ件 明治十年八月二十五日上告
明治十二年十一月十二日判決

兵庫縣攝津國八部郡神

戸榮町六丁目平民

太田忠三郎

明治十年八月
四十二年五月

右忠三郎カ明治十年八月八日神戸裁判所ニ於テ爲シタル口供左ノ如シ

自分ハ貿易商ニテ專ハラ石炭等取扱候處明治十年二月以來兼テ取引罷在候石炭般戎丸金吉丸大幸丸住壽丸歡聲丸外ニ始テ取引セシ吉祥丸明德丸ト都合七艘着致シ右石炭ハ三菱會社又ハ廻漕會社へ賣込三菱會社ヨリハ代金七百八拾圓余受取り廻漕會社ヨリハ五百五拾圓ノ内四百圓受取り殘ル百五拾圓ハ同社ヨリ直ニ吉祥丸へ渡シ貫ヒタリ

右三菱會社ヨリ受取タル代金ノ内六百圓ハ其以前石炭取引致シ滞リニ相成タル住徳丸住寶丸へ繰替相渡シ百七拾圓ハ大幸丸へ相渡

シ又廻漕會社ヨリ受取タル内貳百圓ハ歡聲丸へ相渡シ四拾圓ハ人足賃ニ相渡シ六拾七圓ハ川北五百藏へ相拂殘金ハ自分費用ニ致シ候右ニ付戎丸拂高四百圓ハカリノ所一金モ不相拂金吉丸ハ八拾圓位ノ所是亦同斷大幸丸ハ三百四拾圓ノ所百九拾圓相渡シ住壽丸ハ四百三拾圓程ノ内八拾圓相渡シ歡聲丸ハ貳百拾六七圓ノ内貳百圓相渡シ吉祥丸ハ三百貳拾圓ノ内百五拾圓相渡シ明德丸ハ凡ソ百八拾圓ノ所一金モ不相拂候事

右石炭賣買ノ仕方ハ船頭ヨリ直段ヲ取極メ自分ハ口錢ト人足賃ヲ掛ケ夫レヲ賣リ直ト定メ自分ヨリ他へ賣込金子引取り口錢人足賃差引船頭ト取極メタル直段ノ金子船頭へ引渡ス儀ニ有之候就テハ買人ニヨリ口錢ヲ増減シ商賣ヲ働キ候ニ付船頭ヨリハ多クハ手取り何程ト談判致シ候ニ付口錢並人足賃トモ如何程相掛リ候ハ船頭

ニハ心得不申候事

前顯申立タル通千圓余ノ滯金有之何分繰廻シノ手段モ無之困迫ノ余リ川北五百造へ内談ニ及ヒ候處同人申聞ケ候ニハ何トカ致方モ可有之渡邊正吉ハ自分ノ同國人ニテ曾テ代言ヲ致セシ者ニ付同人へ篤ト相談可致トテ右正吉ヲ五百造宅へ呼寄セ件ノ始末相話シ候處正吉ニ於テモ何レカ取扱ヒ可申旨承諾シテ相別レタリ右川北五百造ナル者ハ自分福原町勢陽樓娼妓ニトリ「キヌ」ヲ受出候節口繼致シ吳レ候ヨリ入懇ニ相成候者ニ有之候事

滯金ハ借財証書ニシテ一時勘辨致シ貫ヒ度積ニテ仲解相頼ニ候處明德丸吉祥丸住壽丸ニテモ代書人代言人等相頼ニ候由ニテ渡邊正吉宅ニ打寄り種々示談ヲ遂ケ候へモ何分相整ヒ不申旨五百造正吉申聞ケ候ニ付此上ハ手段モ無之ニ付一時身ヲ隠シ凡ソ三十日モ他

所ニ潜伏致シ候ハ、先方ニテモ致方無之ヨリ遂ニ尋常貸金証文ニ熟談可致ニ付ソウスルニ如カスト三人談合致シ候事

自身ヲ隠シ候ニハ幸ヒ大和ノ毘沙門伊勢太神宮へ參詣可致ト存居リ候ニ付其方へ向ケ出掛可申伊勢ノ津ニハ川北清七郎トテ五百造ノ兄有之ニ付同人へ五百造ヨリ書面差出シ同所ニテ披見候筈ニ約束致シ候事

渡邊正吉川北五百造ヨリ猶申聞ケ候ハ今度身ヲ隠候ニ付テハ妻ニ「モ」キヌニモ申聞ケ間敷女ハ兎角口走ルモノニ付若シ船頭共へ行先相分リ候テハ宜シカラサル旨申ニ付然ラハ大坂へ立越シ候上妻へ文通可致且「キヌ」へハ暇差出シ打棄テ候様見セ掛ケ不申候テハ都合悪キ由ニ付是又暇狀相認メ金三圓相添へ大坂ヨリ郵便ニテ差送り申候妻へノ文通ハ石炭ノ渡金調達セサルヨリ暫ラシ東京へ出テ金

調致シ來リ候ニ付船頭衆へ宜シク申聞ケ又御届ケモ致シ吳レ候云々ノ趣相認メ候事

五百造正吉自分三人ノ間ニテ時々文通不致候テハ不相成然ルニ本名ニテ往復候テハ船頭へ相知レ示談モ相整ヒ申間敷ニ付自分ハ小西久兵衛五百造ハ深江春之介正吉ハ竹中市兵衛ト相唱ヒ又ハ自分下村五兵衛ト相認メ候トモ有之候事

自分伊勢津へ參リ川北清七郎方へ立寄り候處五百造ヨリ書面到來致シ居リ明德丸ヨリ訴出テラレタル旨承リ驚入申候夫ヨリ西京へ罷越候處へ渡邊正吉尋來リ外船ハ示談相整ヒ候へモ我丸明德丸ハ未ク片付不申尤相濟候上ハ手紙ニテ報知可致旨申聞ケ立別カレ候事

明治十年三月十六日附自分宛川北五百造ヨリ受取り候貳拾五圓ノ

証文ハ同人へ「キヌ」預ケ置キ候雜用ニテ拾圓石炭一件依頼ノ雜用ニテ拾五圓相渡シ候受取ニ有之候事

明治十年二月二十五日付川北五百造へ差入候金百圓借用ノ証書ハ其實借用致シ候ニハ無之石炭一件依頼候ニ付テハ夫々入用モ可相渡等ノ處自身ヲ隱シ候後ニ至リ万一船頭ヨリ訴出身代分散等致サレ候テハ五百造方へ可相拂金子モ無之様相成候ニ付如何ナルト出來候トモ諸道具丈ハ跡へ殘リ候様取巧ニ申候然ルニ五百造儀只証書ノミニテハ船頭方承知致ス間敷ニ付讓渡証書ト点数書ト相添候様中ニ付其通り相認メ相渡シ且夫々返リ証取置キ候事

自分ニハ建家屋敷トモ所持無之榮町通六丁目居宅ハ橋本藤左衛門借家四丁目ノ扣家ハ石本喜兵衛ノ借家ニ有之候事

明德丸ヨリ訴ヘラレ自分警察署へ拘留中示談相整ヒ右出入ハ相濟

候事

右ノ口供ニ依リ明治十年八月十七日神戸裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明德丸船頭三桝榮助へ渡スヘキ石炭代金ヲ取込其踪跡ヲ隠シ猶覺知セラレシテ恐レ僞名ヲ以テ文書ヲ往復シ且家財ヲ抵賣セラレシトテ慮リ右抵當ノ僞証書ヲ作クリ人ニ託スル等數罪ノ内一ノ重キ私用スヘカラサルノ金員ヲ擅ニ費耗スル罪金百七拾餘圓ノ科賊盜律詐欺取財條人ノ財物ヲ冒認シテ己カ物トナスト云フニ依リ懲役十年ニ處スヘキ處一等ヲ減シ懲役七年申付ル

忠三郎ニ於テハ右ノ裁判ニ服セス明治十年八月二十五日大審院ニ差出シタル上告狀ノ要領左ノ如シ

明治十年八月十七日僞名ノ交通及ヒ僞証ヲ作り人ニ依頼シ且又明

德丸船頭三桝榮助へ渡ス可キ石炭代金百七拾圓余取込詐欺律ニ依テ懲役七年申付ラレタリ右三ヶ條ノ中僞名僞証二ヶ條ハ相違無キヲ以テ承服シタレモ石炭代金百七拾圓餘取込タル儀ハ無之様心得ルニ付上告ス自分儀ハ石炭商法ヲ致シ居ルニ付石炭商船自分方へ多分積登リ之ヲ買受三菱會社並廻漕會社其外蒸氣船ニ賣渡シ居リ然ル處明治十年三月上旬原告人明德丸三桝榮助ヨリ買受タル節モ十艘余來リ居ル處其内七艘分買受ケ即三菱會社並ニ廻漕會社へ賣渡シ代金夫々内金相渡シ且亦右廻漕會社へ賣渡セシ分ハ右明德丸歡聲丸金吉丸蛭子丸都合四艘ニテ渡スヘキ代金合五百圓余ノ處右會社ヨリ明治十年三月十二日内金受取リタルニ付右四艘ノ内歡聲丸德平船へ翌十三日内金貳百圓ヲ相渡シ殘金三百圓余ハ早速金調致シ皆金相渡シ出帆爲致タリ此金貳百圓ハ凡金高割ニテ蛭子丸へ

拾八圓金吉丸へ三拾貳圓明德丸へ七拾圓歡聲丸へ八拾圓都合貳百圓〔原ノ〕夫々相渡シ名々請取書ヲ取置被下ト徳平船へ頼置シ處十五日ニ至リ金不廻リニ付川北五百藏渡邊正吉ト申者ニ右歡聲丸へ内金貳百圓相渡シタル儀ヲ噺シ置殘金日延ノ示談依頼致シ置自分儀ハ三月十六日午後大坂安治川廻漕會社へ殘金受取旁吉祥丸庄次郎船ノ船主へ示談ニ上阪シ翌十七日右明德丸榮助儀歡聲丸へ渡シ有ル内金貳百圓ヲ割符致ス可クト偽リ則歡聲丸ヨリ右榮助へ受取夫ヨリ榮助儀自分方ノ金錢渡シ帳竊ニ取出シ金貳百圓ノ受取ヲ書キ調印致シ置キ右金貳百圓ヲ自己ノ船へ持歸リ翌十八日ニ至リ歡聲丸ヨリ右明德丸へ内金貳百圓割符可致趣ニテ相渡シタル義皆々へ相咄スニ付明德丸へ直様割賦致ス様申遣ヒシ處榮助儀申様ハ歡聲丸ヨリ割賦金受取リシ覺へ無之太田忠三郎ヨリ金貳百圓直ニ受取

夫ニ付テハ忠三郎方ノ金錢渡帳一見致シ吳レル様申答ルコ付皆ノ衆ヨリ一見致サレシ處相違無ク金貳百圓ノ受取ヲ書キ調印致シ有ル間夫レニ付皆々ヨリ不當ナリ明德丸榮助皆金ヲ受取リテモ金百七拾圓餘ノ處へ金貳百圓偽リ取ルニ付一統ニ面會致サレ引合ノ通割賦致スナラハ其儘相濟シ可申割賦致サ、ルニ於テハ其次第ヲ警視所へ訴出可ク旨掛合ニ及ハレルニ付其意ニ恐レ割賦致シタリ然ル處其後三四日モ過テ右明德丸榮助儀右割賦金七拾圓余受取置ナカラ皆金百七拾圓余取込ミ旨訴出タルハ原告人ノ相違トモ相心得居リ然ル處自分儀當五月十九日捕ラレ拘留ニナリ警視所役人池長某呼出シニテ訊問ニ相成リ其方儀此度明德丸榮助ノ石炭代金取込ノ次第明白ニ申上ル様申付ラレニ付自分ニ於テ取込タル儀一切覺へ無之ト申上シ處榮助ノ訴書ヲ以テ訊問セラレ自分商法ノ取

引ノ次第聞取下サレト申タレ其方ヨリ申上ルニ及ハス此方ヨリ尋シ次第答ヨト申サレ自分實情聞取リニハ相成ラヌ其後糺問掛ヘ廻サレ糺問判事ノ呼出シニ相成警視所ノ口書ヲ以テ訊問セラレ自分商法ノ次第申述シタレ其聞取ニ相成ラヌシテ口書ニ相成夫ヲ以テ處分ニ相成リシ様相心得依之不伏ナリ尤殘金百圓余モ自分拘留セラレシ後妻并親類ノ者ヨリ皆金相渡ス間右明德丸榮助儀歸國致シタリ何卒自分商法取引ノ次第一度訊問セラレシテ願フ

大審院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ

上告ノ主点

第一 裁判官カ石炭賣買ノ手續ヲ審明セスシテ裁判シタルニ付不服ナリトノ事

第二 告訴人三桝榮助ニ於テハ既ニ受取タル割賦金ヲ控除セスシ

テ訴出タルトノ事

辨明

第一條

忠三郎カ上告ニ自分儀ハ石炭商法ヲ致シ居ルニ付石炭商船自分方ヘ多分積登リ之ヲ買受三菱會社并廻漕會社其外蒸氣船ヘ賣渡シ居ルト申立ルヲ以テ忠三郎カ神戸裁判所ニ於テ爲シタル口供ヲ閱スルニ右石炭賣買ノ仕方ハ船頭ヨリ直段ヲ取極メ自分ハ口錢ト人足賃ヲ掛ケ夫レヲ賣リ直ト定メ自分ヨリ他ヘ賣込金子引取リ口錢人足賃差引船頭ト取極メタル直段ノ金子船頭ヘ引渡ス義ニ有之就テハ買人ニヨリ口錢ヲ増減シ商賣ヲ働クニ付船頭ヨリハ多クハ手取り何程ト談判致スニ付口錢并人足賃如何程相掛ルモ船頭ニハ心得不申トアリ此供述ニ依テ觀レハ忠三郎ニ於テハ荷主ナル船頭ヨリ

石炭ヲ買取リ而シテ後忠三郎カ他人へ賣込ム順序ナレハ其荷主ト
 賣買ノ契約ナシタル者ハ忠三郎ナリトス然ルキハ忠三郎ハ買取
 人ニシテ仲買人ニ非サル者トス故ニ忠三郎カ荷主ヨリ石炭ヲ買取
 リ而シテ之ヲ會社へ賣込ミタレハ荷主ナル船頭ト忠三郎ヨリ買取
 ヲル會社トハ直チニ賣買ノ契約ヲ爲シタルコトニ非ストス若シ忠三
 郎ハ買取人ニ非ス仲買人ナリト看做スキハ石炭ヲ買取タル會社ヨ
 リ荷主へ對シ金子ヲ拂出シタルモ忠三郎カ半途ニシテ之ヲ費用シ
 タルキハ荷主ニ於テ金子ヲ受取ラサル中ハ會社ハ之ヲ荷主ニ償フ
 へキ義務アリ故ニ荷主榮助ニ於テ若シ忠三郎ト賣買セシニ非スシ
 テ會社ト賣買セシナラハ會社ニ對シ直ニ價ヲ求ムへキ條理ナルチ
 然ラスシテ忠三郎ニ對シ告訴セシチ以テ觀レハ則忠三郎トノ賣買
 タルチ認許セシチ証スへキナリ然ラハ則忠三郎ハ榮助ニ對シ賣買

上ノ負債者ニシテ會社ヨリ榮助ニ拂入ル所ノ金子ヲ中間ニ在テ己
 レニ冒認セシ者ト論スへキコトニ非ストス
 然リト雖モ忠三郎ニ於テハ榮助ニ代金ヲ拂渡スコトヲ爲シ得サルニ
 ヨリ逃亡シテ其跡ヲ晦シ且家産引當ノ證書ヲ詐爲セシ等ノ事跡ハ
 終ニ榮助ヲ詐欺セシ者ナリト論セサルチ得ス依テ忠三郎カ罪ヲ論
 スルニハ賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ并ニ
 贓ニ計へ竊盜ニ準シテ論ストアルニ依ルへキ者ナリトス而シテ忠
 三郎ハ吟味中代價ヲ辨償シタルチ以テ情法ヲ酌量シテ減等スへキ
 者ナリトス

第二條

忠三郎カ上告中ニ明治十年三月十二日內金廻漕會社ヨリ受取タル
 ニ付右四艘明德丸歡聲丸金吉丸蛭子丸ノ内歡聲丸德平船へ翌十三

日內金貳百圓ヲ相渡シ云々明德丸榮助義右割賦金七拾圓余受取置
ナカラ皆金百七拾圓余取込ニ旨訴出タルハ原告人ノ相違トモ相
必得居リト申立ルニ因リ忠三郎カ口書ヲ閱スルニ歡聲丸ハ二百拾
六七圓ノ内貳百圓相渡シ中明德丸ハ凡百八拾圓ノ處一金モ不相拂
候事トアリテ榮助カ割賦金ヲ受取シ旨ノ申供ヲ見ス然トイヘ忠
三郎カ船頭ヘ拂金濟方ノ仲解ヲ倚賴シタル渡邊正吉カ明治十年七
月十四日ノ口供ヲ閱スルニ要旨左ノ如シ

四月下旬ノ頃云々其已前明德丸ヘ七拾圓分配ニ及候ヘ受取不
差出警察所ヘハ全金取込ノ次第訴上置候由承リ候ニ付受取書爲
差出可申存候ヘモ自分ヨリ訴出候筋無之候間忠三郎妻ヨリ委任
狀ヲ受クヘク存シ其後忠三郎ヘ申聞候處忠三郎委任狀難相渡旨
申候間然ル上ハ當件ニ携リ兼候故今日ヨリ相斷候旨申聞候

又告訴人三桝榮助カ明治十年六月二十二日ニ申立タル口供ノ要旨
左ノ如シ

其内渡邊正吉ト申者有之忠三郎取込ノ次第ハ引受示談可致旨申
聞船頭一同談判ノ末忠三郎義前船ノ石炭ニテ三菱會社ヨリ受取
候分並回漕會社ヨリ受取候分共遣拂ノ行先相糺候ヨリ回漕會社
ヨリ受取候内金貳百圓歡聲丸ニテ竊カニ受取候由相分リ候ニ付
右金ハ自分船ノ代金ニ付引受可申旨申出候ヘモ外船頭共引分可
申旨申張リ何分落付不申ニ付三月十九日不得止警察所ヘ訴上忠
三郎取込ノ次第御吟味願上候十二項

忠三郎身ヲ隱シ候後船頭仲間ニテ有金配分致シ自分ヘハ七拾圓
七拾錢六厘配當ニ相成候是ハ四月中場比ニ有之候十五項
右正吉榮助兩人カ申立ニ依テ觀ルモ榮助カ割賦金ヲ受取タル日限

ハ未タ分明ナラスト雖モ榮助カ告訴セサル前忠三郎ヨリ歡聲丸へ渡シタル貳百圓ヲ榮助カ悉皆受取ヘキカ或ハ船頭中割賦スヘキカノ爭論ハ已ニ起リ居シハ明瞭ナルモノナリトス然ル時ハ榮助カ石炭代總額金百七拾八圓三拾四錢五厘ヲ掲ケテ忠三郎ニ詐取セラレタリトシ告訴ヲ爲スト雖モ後ニ割賦ニナシテ受取タル金額ハ曾テ忠三郎カ出シ置シ貳百圓ノ内ナルヲ承知セシ上告訴シタルニ付忠三郎カ罪ヲ論スルニハ其告訴狀ニ掲ケタル金高百七拾八圓三拾四錢五厘ノ内割賦金七拾圓七拾錢六厘ヲ削除シ金百七圓六拾三錢九厘ヲ以テ贓ニ計ヘ罪ヲ科スヘキナリトス然ルニ神戶裁判所ニ於テハ榮助カ告訴シタル金額ヲ以テ罪ヲ科シタルハ審理ヲ尽サ、ル不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十年八月十七日神戶裁判所ニ於テ太田忠三郎ニ人ノ財物ヲ冒認シテ己カ物トナスト云フニ依リ懲役十年ニ處スヘキ處一等ヲ減シ懲役七年申付ルト裁判申渡シタル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ平翻スルヲ左ノ如シ

太田忠三郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ詐欺贓金百七圓余ノ科賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シトアルニ依リ懲役五年ノ處輕減スヘキ事情アルヲ以テ一等ヲ減シ

懲役三年

第四百九十一号

○判文持兇器強盜ノ件明治十二年九月廿六日上告
明治十二年十一月十二日判決

神奈川縣橫濱區眞砂町

壹丁目五番地平民

中住竹次郎

明治十二年八月
四十二年九月

右竹次郎カ明治十二年八月廿一日横濱裁判所ニ於テ審問ヲ受ケタル口供左ノ如シ

一明治九年九月十二日東京裁判所ニ於テ盜贓タル情ヲ知り典賣ノ牙保ヲ爲シ又ハ贓金ト知テ貰受ケ其上責付中逃走スル等ノ科
 ニ依リ懲役八十日ノ處口供甘結後滯獄三十日以外五十五日過ルヲ以テ其經過スル日數ヲ除去シ懲役二十五日ニ處セラル

一明治十一年十一月六日横濱裁判所於テ金圓借用証書ニ抵當品ヲ重複ニ記載シ又ハ其抵當品ヲ擅ニ賣却スル罪ハ自首スルヲ以テ其罪ヲ免スト雖モ責付中擅ニ他管ニ出ル科ニ依リ違式輕ニ問

ヒ答一十ノ續罪金七拾五錢申付ラル

一自分儀横濱羽衣町壹丁目ニ住居罷在候砌即チ明治十年十二月廿四日ノ夜九時頃向側居住山田金三郎相越シ知ル人中村卯之助自分ニ面會致シ度由申聞ルニ付金三郎方ニ赴キ卯之助ニ面會セシ處同人囊キニ自分方止宿中ノ食料滯金四圓八拾錢有之處八拾錢ハ勘辨致シ吳ル様中ニ付金四圓受取ルヤ否自分ニ可拂金子ハ別ニ差出ニ付右金ヲ以テ嘗テ同人ヨリ横濱福富町根本萬右衛門方ニ質入レ置キタル衣類貳枚受戻シ來リ吳ル様依頼ニ付即質受ノ上卯之助ニ相渡シ而テ前書食料金及催促タル處實ハ持合金無之由以外ノ返答ニ付質受ケ渡シタル衣類并同人着シ居ル繻絆共談判ノ上受取自分着用ノ衣類ト着換自宅ニ立戻リ其夜十時ノ瀛車ニテ東京表ニ赴キ然ルニ卯之助ヨリ受取リタル衣類ハ損所モ有之而已ナラス自身体

ニ合ハサルヨリ同所麴町三丁目坂井半兵衛方へ不殘質入致シ其代
金ヲ以テ囊キニ質入セシ衣類ヲ受戻シ着用罷在候處卯之助ヨリ受
取タル衣類ハ明治十年十二月廿一日ノ夜卯之助俱々兇器ヲ携ヒ濱
濱羽衣町壹丁目中山安次郎宅へ押入奪取タル品ニテ其他明治十年
十二月廿四日ノ夜同所壽町壹丁目武川ヨシ方へ押入金子奪取タル
旨卯之助ヨリ自首致シタル赴ニテ同人ト御突合ノ上再應御審問有
之候得共右体ノ及所業候儀ハ決シテ無之候事

一明治十二年二月九日警察官ニテ御調ヲ受ケ拇印致シタル口供ハ
相違ノ廉有之段申立候得共強テ拇印セヨトノ仰ニ隨ヒ事實相違ノ
口供ニ拇印仕候義ニ有之候事
右之通相違不申上候以上

明治十二年九月十七日横濱裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀兇器ヲ携へ強盜ヲ致シタル覺へナシト云ト雖モ黨類中村卯
之助及ヒ被害人武川惟明中山安次郎妻ヨシノ証言並ニ明治十二年
二月九日警察官ニ於テ拇印シタル口供ニ依リ中村卯之助俱々兇器
ヲ携へ中山安次郎方外一ヶ所へ押入り金圓衣類奪取タル者ト認定
ス因テ右科改定律例第二百二十七條中改正條款ニ照シ懲役終身申付
ル

中住竹次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年九月二十六
日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

明治十二年二月四日探偵係御出張御引立相成檻倉へ御勾置即日檢
事審庭へ御呼出御掛渡邊警部殿ニテ其方並中村卯之助俱々兇器ヲ
携へ明治十年十二月廿一日同廿四日兩日自分儀同町中山安次郎外
壹ヶ所宅へ押入物品奪取タル段卯之助自首セシヨリ右始末無相

違可申述様御沙汰ヲ蒙リ毫頭〔原ノ〕覺無之實ニ驚入跡形モナキ儀ニ候ハ、其段御答申上歸繼仕夫ヨリ日々御召出御尋問相成ト雖モ何分前述ノ通更ニ覺無御坐然ルニ同月九日引續キ御召出ノ上卯之助口供並自分前科〔不正品取扱自首懲役〕等ノ儀御讀聞ケ相成拇印可致様御沙汰ニ付卯之助申口等ニ依リ拇印仕候儀ハ不服ナルヨリ御斷申上タル處卯之助儀ハ先非悔悟ヨリ自首セシ者ニ付彼ニチイテ最早相違ノ筋無之段御沙汰ニヨリ自分申上候ニハ同人儀ハ外ニ惡事相働未タ包藏セシ廉判然承知仕居候故更ニ彼改心ヨリ前顯自首セシトハ思慮難仕自分ニ對シ遺恨等ハ無之筈ニ候ニ共何歟其邊ヨリ跡形ナキ儀申上自分ヲ罪ニ陷ノヲ謀候儀ニ愚考仕候依テ尙御取糺ヲ蒙リ度様相願候ハ、其儀ハ此方於テ取糺候間兎モ角此書面ニ拇印可致仮令拇印シタリト雖モ後日ノ証ニハ不相立調濟東京警視

第三方面ヨリ依頼ノ儀モ有之ヨリ彼地ニ相廻候條〔東京御用ノ儀ハ常州ニテ數ケ所〕へ押入タル由〔若不服ノ廉有之候ハ、販港ノ上可申立杯御沙汰ニ付自分尤不存件〕何心ナク拇印候處其後東京ニモ御廻シ不相成直ニ糺問掛ニ御引渡尙前條御取調其末卯之助對談被仰付則卯之助申口ニハ自分俱々強盜相働キ候ト申立候耳ニテ何ノ確証モ無之自分儀ハ召使ノ者共并同町山田金三郎成者前顯明治十年十二月二十一日同廿四日ノ始末委曲相辨居候者共故彼等御取糺相成ル上ハ始末明瞭ニヨリ其段申上候ハ、惡事無之口供御讀聞ケニヨリ自分拇印仕候一前顯明治十年十二月廿一日同廿四日ノ始末タルヤ卯之助儀ハ曩キニ自分子分ニ致置退テ不都合ノ儀有之放逐致候處尙明治十年十月頃罷越云々止宿料壹ヶ月金貳圓ニ取極止宿爲致置候内十二月ニ至最早三ヶ月ニモ及候ニ共宿料ヲ初取替金等〔金四圓〕不相拂ヨリ催

促及候ハ、明十九日迄猶豫致貫度旨申居其朝ニ至リ家出ノ儘販宅
 不致廿一日夜九時過ニ至リ野毛町楠前蕎麥屋ヨリ自分ニ參リ吳候
 様車夫体ノ者ヲシテ申越候付參見ルニ則卯之助ニテ云々無斷家出
 ノ段相詫着用ノ衣類二枚〔藍三筋縞紬袴裕黃〕典物ニ致貫ヒ度左候ハ、
 延滞ノ宿料相拂候旨申聞候間不正品トハ更ニ不存其意ニ任セ販宅
 掛ケ福富町二丁目根本萬右衛門方へ卯之助同道ニテ該品持參金三
 圓借リ遣シ豫テ約定通宿料等申受度段申聞候へハ明後廿三日迄猶
 豫致吳候様強テ相頼ニヨリ其儘打捨相別ノ候處期限ニ至リ何等不
 申越翌廿四日夜九時頃同町山田金三郎成者宅迄相運ヒ吳候様申來
 然ルニ豫テ現今出京ノ心組ニハ候へ共向前ノ儀ニ付不取敢相越
 ル處卯之助居合申聞候ニハ頃日ノ質物受戻方依頼ニヨリ取急中ト
 ハ乍申其意ニ應シ前顯万右衛門方ヨリ受戻來候テ兼テ延滞ノ宿料

及督促候ハ、彼是遁辭申述居ルニ付前物品其儘差押へ則衣類自分
 着用致シ販宅後直チニ出立同夜十時ノ瀛車ニテ出京府下麴町一丁
 目英國公使館ニ泊翌二十五日朝ニ至リ兼テ〔卯之助所持品ノ處宿
衣〕着用致來候衣類ヲ見ルニ所々ニ損シモ有之且大仕立ニテ自分不
 似合故同町壹丁目酒井半兵衛ナル者ハ從來ノ懇意ノ質渡世ニ付同
 人方へ罷越自分曩キニ預ケ置タル衣類ト該品ト入替其夜三番町水
 野鐵五郎宅へ泊リ諸用相整へ同月廿八日販港仕候事
 一今明治十二年三月中刑事課へ御引渡日不覺兩度御糺問有之ト雖
 モ前述ノ通申上其後八月廿一日尙御召出口供御讀聞セ搦印仕候付
 テハ九月十七日出獄ノ上黨類中村卯之助被害入武川惟明中山安次
 郎妻ノ証言警察官於テ搦印シタル口供ニヨリ懲役終身ニ處セラレ
 候處惡事ナシタル覺毛頭無之且被害人ノ証言等并警察官ニ於テナ

シタル拇印ハ渡邊警部ニ謀ラレタルヨリ斯ク御判決相成何トモ御
裁判不服ニ奉存候間此段奉告候也

大審院ニ於テ裁判スルノ左ノ如シ

上告ノ主点

上告人中住竹次郎カ請求スル所ハ左ノ條件ナリトス

中村卯之助ト申合強盜ヲ爲シタル覺無之明治十二年二月九日神奈
川縣警察所ニ於テ拇印ヲ爲シタルハ渡邊警部ニ謀ラレタリトノ事

辨明

中住竹次郎ハ中村卯之助ト申合強盜ヲ爲シタル覺無之ト申立ルニ
付竹次郎カ明治十二年二月九日神奈川縣警察所ニ於テ拇印セシ口
供及ヒ中村卯之助カ明治十二年二月二十二日同所ニ於テ爲シタル
口供ヲ閱スルニ左ノ如シ

中住竹次郎口供

一自分儀前條ノ通前文再度御處分受ケシ身分ニテ然ル處自分方
ハ曩キニ同居人ニ差置シ當時神奈川縣監獄署ニテ懲役終身御處
刑中ナル中村卯之助ニ於テ自分ト申合持兇器強盜相働候義ハ是
迄包藏罷在候旨自首仕候ニ付盜先御取調相成候處事主モ判然致
シ居候趣ヲ以テ自分ハ明治十二年二月三日横濱御裁判所詰警部
御審問所へ御拘引相成右中村卯之助ト申合抜刀ヲ携へ人家へ押
入金錢及衣類等奪取東京表へ持參リ質入致シ候義無之哉ノ旨御
取糺ニ付自分ニ於テハ更ニ右様ノ惡事ヲ相働キ衣類ヲ質入セシ
覺へ無之旨申上候事

一明治十二年二月四日中村卯之助へ突合御審問相成候節卯之助
ニ於テハ自分ト申合持兇器強盜ニケ所相働候義ニ相違無之右衣

類ハ東京表ニ質入相成居候義ヲモ卯之助ヨリ申立候へ共自分ニ於テハ質入セシ覺へ無之旨申上候ニ付東京表質入先御探索相成候處東京麴町二丁目質渡世坂井半兵衛方ニ質入致シ置候義ハ御探偵相成候旨被仰聞候ニ付右押隠シ居候始末左ニ申上候

一中村卯之助ハ東京府下巢鴨下町一丁目平民音吉兄ナル者ニテ自分馬丁ノ節子分ニ致シ置候處去ル明治三年十一月中右卯之助ハ自分方ヲ破門致シ吳候様任申禮狀ヲ取り破門セシ後明治十年十月中右中村卯之助ハ病氣ニテ他ニ便ルヘキ者モ無之由ニテ自分方へ便リ参リ候ニ付不便ニ存シ右様破門セシ者ニハ候得トモ最前子分ニセシ由縁モ有之余義ナシ自分方へ食客ニ差置候處自分ニ於テハ追々家事向不如意相成其日ノ話計方ニモ差問シ程ノ困究ニ差迫リシヨリ不圖盜心ヲ生シ卯之助ト竊ニ申合囊キニ自分

方同居人渡邊竹次郎ノ所持セシ古脇差一本有之ヲ取出シ卯之助ハ脇差ノ折身ヲ持参ニテ明治十年十二月廿一日午後七時頃横濱區羽衣町一丁目八番地平民中山安次郎居宅へ自分ハ淺黄手拭ニテ面部ヲ隠シ卯之助ト同行ニテ押入右安次郎ハ不在ニテ婦人而已三人居合卯之助ヨリ有合ノ金員貸吳ル様強聲ニ申威シ婦人ヨリ差出セシ金員其他其場ニ有之衣類等左ニ

- 一金貳圓六拾貳錢五厘
- 一結城紬藍鼠三筋縞男綿入 一枚
- 一黃八丈横立縞男下着綿入 一枚
- 一上田立縞胴着 一枚
- 一淺黄木綿縞絆 一枚

右品奪取卯之助ニ於テハ上田立縞胴着一枚ヲ持去リ候事

一明治十年十二月二十四日午後九時頃横濱區壽町一丁目四番地
質渡世武川ヨシ方エモ前同様卯之助ト同行ニテ兇器ヲ携ヘ面部
ヲ手拭ニテ包ミ隠シ金錢可差出旨卯之助ヨリ強聲ニ申威シ其場
ニ有合セシ左ノ

一金九圓五拾錢

右金奪取候内金五圓五拾錢ヲ卯之助ヨリ受取其余ハ卯之助ニ於
テ持去リ候事

一右中山安次郎方ニテ奪取候男綿入貳枚縞絆壹枚トモ三品ハ明
治十年十二月廿五日自分ニ於テ東京麴町二丁目十番地質渡世坂
井半兵衛方ヘ代金三圓七拾五錢ニ質入致シ候金員并盜金トモ不
殘費用致シ候事
右之通相違不申上候以上

中村卯之助口供

明治十一年五月九日横濱裁判所ニ於テ自分儀拔刀ヲ携本港翁町
二丁目森崎安五郎外一人宅ヘ押入金子衣類奪取其上同所壽町一
丁目中村政五郎宅ヘ押入ル節同家同居人北村與三郎ニ組付カレ
捕ハレ間敷ト所持ノ脇差ヲ振廻シ同人ニ疵負ス段右科ノ内改定
律例第二百二十七條中改正條款ニ照シ懲役終身ニ處セラレ候事
自分儀前條之通御處刑中明治十二年一月二十九日是迄包藏致シ
居候持兇器強盜相働候始末悔悟自首仕候廉御審問ニ付左ニ申上
候

自分儀曩キニ東京表ニテ若狹國青井村出生西川熊吉又ハ高橋熊
次郎トモ云中住竹次郎子分ニテ麻馬丁稼業中去ル明治三年十一
月中右竹次郎方破門相成候後自分ハ瘡毒相煩可使人モ無之前書

中住竹次郎ハ其時横濱羽衣町一丁目借店ニテ料理茶屋渡世罷在候ニ付竹次郎ハ最前子分ニ相成候由縁ニ有之明治十年十月中中住竹次郎方へ便リ参リ同人世話ニ相成居候處中住竹次郎ニ於テハ家業向不景氣ニテ追々困究ニ差迫リ負債多ニテ活計方モ難行立難澁ニ付是非トモ自分へ助力致シ吳候様被相歎シヨリ自分ニ於テ右様世話相成居リ候義ニテ氣ノ毒ニ存シ去リ迎素ヨリ自分ニ於テ助力可致資力モ無之竹次郎申スニ任セ無余儀持兇器強盜可相働ト申合竹次郎方ニ有合セシ古脇差二本ヲ取出シ竹次郎ト俱々携へ明治十年十二月廿一日午後第七時過頃トモ覺へ自分ハ風呂敷ニテ面体ヲ包ミ隠シ竹次郎ハ淺黄手拭ニテ頬冠リ致シ其時名前不存横濱羽衣町一丁目八番地平民中山安次郎居室へ竹次郎俱々拔刀ヲ携へ押入右安次郎ハ不在ニテ婦人而已三人居合

自分ハ安次郎母「スキ」及ヒ下婢ハ二人ヲ捕ラへ聲立候ハ、可切殺ト申威シ竹次郎ハ安次郎妻ヲ捕ラへ有合ノ金員貸吳候様申聞與ノ間へ引連レ金員並ニ衣類等左ニ

- 一金貳圓六拾貳錢五厘
- 一結城細藍鼠三筋綿男綿入 壹枚
- 一黄八丈横立綿男下着綿入 壹枚
- 一上田立縞胴着 壹枚
- 一淺黄木綿縞絆 壹枚

右品奪取逃去ル途中福富町二丁目地内ニテ竹次郎ヨリ自分ハ胴着一枚ヲ配分受ケ夫ヨリ野毛町楠木湯ノ向ニテ蕎麥渡世名前不存方二階ニテ竹次郎ト兩人ニテ酒三本ト鴨鍋一枚ナンハンニツト蕎麥二杯ヲ喰ヒ代價金貳拾九錢程竹次郎ヨリ相拂ヒ竹次郎ハ

右贓品ヲ持參ニテ東京表へ參リ候由ニ自分へハ申聞立別レ自分
ハ其比羽衣町一丁目燒芋渡世山田金三郎方通ヒ帳ニテ羽衣町一
丁目新道ノ質渡世谷德滿方へ代金五拾錢ニ質入致シ右德滿方ハ
其後身代限相成候事

明治十年十二月廿四日午後九時頃其時名前不存横濱壽町一丁目
四番地質渡世武川_{ニシ}方へ押入候節ハ中住竹次郎ハ風呂敷ヲ冠
リ面部ヲ隠シ自分ハ淺黃手拭ニテ頬冠リ致シ前同様銘々拔刀ヲ
携へ押入有合ノ金錢貸吳候様若シ聲立候ハ、可切殺ト申威シ候
處伴頭ヲシキ男狼狽致シ金員ヲ持テ奥間へ駈入シ際取落セシ左
ノ金

一金九圓五拾錢 但半圓札八圓其他取交金ナリ
右金ハ自分ニテ奪取其場ヲ竹次郎俱々逃去リ羽衣町一丁目借店

燒芋渡世山田金次郎方へ立寄リ竹次郎へハ半圓札ニテ金五圓配
分致シ其余ハ自分ニテ費用致シ候義ニテ右配分金ノ節山田金次
郎ト酒吞合候義ハ無之候事

自分儀是迄包藏セシ前書ニケ所ハ中住竹次郎ト申合兇器ヲ携へ
押入候儀ハ前顯ノ通先非後悔自首仕候節申殘シ候廉中住竹次郎
ヨリ告發ニヨリ御審問ニ付左ニ申上候

明治十一年一月廿六日午後第十時過頃自分一人立ニテ淺黃手拭
ニテ面部ヲ隠シ其時名前不存横濱尾上町二丁目十六番地質渡世
金井竹次郎方へ拔刀ヲ携へ押入後見人金井長藏夫婦へ金員貸吳
候様強談ニ及ヒ若シ聲立候ハ、可切殺ト申威シ帳場ニ有之候
一金拾九圓五拾錢

右奪取候義ハ中住竹次郎へモ相話シ同人方ニテ右金員ハ不殘費

用致シ候事

右之通聊相違不申上候以上

其レ口供ナルモノハ犯人ノ申立ル所チ其儘録取スルモノナレハ讀聞ノ節相違ノ廉アリト思量スル時ハ即時申立改正ヲ求ムヘキニ其儀ナク摺印シ且ツ該口供ト黨類中村卯之助ノ口供ト符合スル上ハ竹次郎カ神奈川縣警察署ニ於テ摺印セシ口供ハ眞實ノ白狀ナリトス因テ横濱裁判所ニ於テ竹次郎カ罪ヲ改定律例第二百二十七條中改正條款ニ照シ懲役終身申渡タルハ不適當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十二年九月十七日横濱裁判所ニ於テ中住竹次郎ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由無キニ因リ上告狀却下スルモノ也

第四百九十二號

○判文詐欺取財ノ件明治十二年五月十五日上告明治十二年十一月十三日判決

兵庫縣播磨國加西郡畑

村平民

藤岡 仲兵衛

明治十二年四月
滿五十三年

右仲兵衛カ明治十二年四月十五日兵庫縣姫路警察署ニ於テ吟味ヲ受ケシ口供左ノ如シ

自分元ハ商法人ニ有之候得共曩ニ身代限ヲ致シテヨリ少々農業相營候

右農業ハ自分ノ利益ノ爲ニ御坐候

自分文字ハ深シキコトハ出來不申候ヘ下下方一通ノ文通位ハ出來申

候

妻ハ十二ヶ年前ニ死去致シ其後ハ貫ヒ受不申候

子ハ六人有之三人ハ男子ニテ長男ハ松次郎ト申三拾二歳二男ハ分

家致シ藤岡牧太郎ト申二拾三歳ニ相成三男岩太郎ト申十歳ニテ自

分同居ノ者ニ候得共當時同國節東郡姫路鍛冶町ニ寄留致シ居候

兩親共ニ死亡致シ候

自分産所ハ矢張今ノ住所ニ御坐候

自分今度當御署へ自首致シタル譯ハ同村長谷川紋二郎外四名并田先

喜平ヨリ明治九年中自分身代限ノ御處分ヲ受ル節建家釀酒等ヲ隱

匿致シタル儀ヲ自首シタル旨大坂表ヨリ引取俸共ニ承リ候故右紋

二郎等カ家酒等ヲ隱匿セシト自首シタルハ不實ニテ決テ隱匿等致

サ、ル譯ニ付篤ト事實御聞取ヲ願度全ク自分ハ犯罪ヲ自首シタル

趣意ニ無之候事

自分元酒造致シ居タル間明治八年分村方貢租米ヲ爲替ニ取り猶近

村ニテ西谷村西大貫村南大貫村鍛冶屋村ヨリモ貢租米ヲ爲替ニ取

リ自分村方ノ分ハ上納ノ取扱ニ爲シ全ク自分ノ手元ニ納メタル譯

ニ有之外村方ノ分ハ相對上借受ノ姿ニテ都合五百石計ノ米ヲ自宅

ニ引入内貳百石計ハ酒造ニ用イ余ハ他ニ質入賣拂等致シ質入ノ分

モ流レト相成候事

右爲替ヲ取リシモ自分其頃戸長役勤務中ニ付村方へ貢租ノ儀ハ金

ナリトモ玄米ナリトモ都合ニ任セ上納致ス様申入候ニ付村方ハ米

ニテ納ムルカ都合宜シク悉ク玄米ニテ上納致スヨリ自分手元ニ於

テ爲替ト相成候事

右爲替ヲ取リタルニ付テハ同年ノ分ヲ翌九年一月ニ半數上納致シ

同年三月ニハ右殘額ノ又半分ヲ上納致ス管ニテ金策致シ候〜共其頃迄々疲弊ニ立至リ金調不成村方ノモノハ格別ニハ申迫リ不致候〜其他村分ハ日々居催促仕候ヨリ村方ノモノモ追々催促ヲ致處ニ相移リ何分自分ニハ金調モ出來不申依テ村方伍長安富嘉十郎長谷川紋二郎宮永伊平安富三右衛門増田甚五郎ノ五人〜斯ク大借ニ相成迎モ當坐返金ト申處ニハ立至ラサル故何卒村方並ニ他ノ分モ暫ラク猶豫致シ吳候様仲裁相頼ニ候處他村ノ分ハ對談行届カス迄々出訴ト申運ヒニ相成村方ノ分ハ仲裁ノ五人ヨリ金四百圓ヲ借受他ニ村方年番伍長木下佐一郎安富七十郎外伍長一同ヨリ三百圓ヲ借受テ都合七百圓ヲ借入レ村方ノ分上納ハ相濟故障無之ニ相成候事

右仲裁人安富嘉十郎外五人ヨリ金四百圓ヲ借用致スニ付テハ酒造

道具酒造藏諸建物悉皆ヲ賣端書ニ爲シ相渡シ候ニ付之ヲ嘉十郎外五人ノモノカ引當ニ各所有之耕地ヲ書入播磨國印南郡見土呂村大西甚一平方ニ於テ借用シ自分へ貸シ渡シ吳レ候事
年番伍長木下佐一郎安富七十郎外數名ヨリ金三百圓借用致スニ付テハ自分釀造ノ酒凡五拾石ヲ相渡シ置後又是テ自分カ周旋ヲ以テ賣捌キ金員村方へ相渡候事

西谷村爲替米ノ儀ハ金百圓ヲ差入殘金ハ年賦ト申スノ對談ニ相成候〜右百圓ノ金調出來致サ、ルヨリ破談ト相成候事
右破談ニハ相成候〜未タ訴ハ致シ居不申候事

右ノ次第ニテ自分村方ハ示談行届候〜共西谷村ヲ除ク外爲替セシ村方ハ對談行届カス出訴致シ他ノ債主ヨリモ訴へ出候事
右他ノ債主中多田常次郎 播磨國神東郡 田尻村ノ住 ヨリ明治九年四月十八日ノ

頃ニ貸金催促ノ儀ヲ元飾磨縣裁判所へ訴へラレ御掛土橋サノコテ
 四月二十八九日ノ對決ニテ自分ヨリ暫時ノ御猶豫願ヒ上原告多田
 常次郎へモ取継リ猶豫申入候へヒ同人モ聞入吳申サス官ノ上コモ
 四方ノ債主モアリ連々金調ノ出來ノコナラハ身代限ヲ仕テ仕舞へ
 ト申聞ラレ候ヨリ遂ニ其日身代限リノ受書差上ケ歸村致シ候事
 右身代限リヲ致ス様掛官ヨリ申聞ラレシモ裁決狀ヲ受ケタル儀ニ
 ハ無之候事

夫ヨリ原告ハ翌五月一日自分方ニ來リ財産附立同月九日頃ト覺へ
 点帳差上候事

右附立タル財産ハ漸ク三四圓程ノモノニ御座候事

其後身代限ノ御揭示モ滿期ニ相成候ニ付揭示ヲ同年ノ八月差入返
 上致シ候處追テ沙汰ヲスルトノコトニテ歸村致シ居候處同年ノ十月

頃ト心得自分一人ノ御呼出シ相成何カ御尋テノ儀モ有之ヤ忘
 却致シ候へ共追テ處分ニ及フト御達ニテ歸村致シ其後月日忘却同
 年中ニ再度原被共御呼出シ相成候末翌明治十年二月二十一日ノ頃
 財産糶賣ノ揭示ヲ受同月二十六七日ニ濟口書差掲候事

右身代限後ハ商法モ出來不申徴々ト農業相營居候内明治十年十二
 月中同村長谷川紋二郎外八名ヨリ自分並ニ姫路俵町中川瀬平へ係
 リ自分戸長勤務中村方借用金ノ儀ニ付御吟味願出テ高野殿御掛ニ
 テ中川瀬平ト共ニ度々御呼出シ御吟味ノ末原告ノ申口實際ニ違ヒ
 居候ヨリ願狀御却下相成候處紋二郎不服ノ趣ニテ直チニ本縣第四
 課へ訴へ出候ニヨリ明治十一年四月十日頃自分御呼出御糾問ノ末
 右一件ニ付不應爲ノ廉有之同年八月十日頃神戸裁判所ニ於テ答五
 十申付ラレ候事

右御處刑ヲ受ケ直ニ歸村致シ居候處右一件ニ付入費ノ爲メ播磨國加西郡王子村宮永多十郎ヨリ金五拾圓借用致シ返濟相延ヒ候ヨリ同年九月中右金員請求ノ訴ヲナシ自分金調ノ道ナク身代限ヲ以テ濟方致シ附立ノ際同村長谷川紋次郎外二人ヨリ自分名宛ノ金百圓ノ借用証一通ヲ財産外証文類ト附立候事

其後右証書ヲ紋次郎外二人ヨリ取殘シ証書ナリトシ取戻ノ儀ヲ飾磨區裁判所へ勸解願出明治十一年九月ノ七八日頃自分御呼出シ相成掛リ位田殿ニテ右証書ハ紋次郎外二人へ返スヘキモノ故直ニ返スヘクト御勸解有之自分ハ返スヘキ筋ニ無之既身代限リ財産中ニ加リ居戶長ノ封印モ有之返戻致スヲ出來難ク御答へ致シ候ヘト是非返戻スヘク旨申聞ラレ其後病氣ニテ返戻モ不致内四度ノ御拘引相成四度目御拘引ノ節掛リ位田殿御出勤無之樺島サンカ野中サン

ト御兩君ノ内ニテ右苦情ノアル次第ヲ申上候處然ラハ明後日出頭致セト申聞ラレ當姫路町宿所迄退取候事

右宿所ニ引取候上同年十月二日斯ク度々御拘引ニモ相成候テハ病氣モ寡リ隣家へ對シテモ面目モナク又此一件ハ跡ニ倅モアルモノナレハ何トカ取計モ致シ吳レヘクト存シ大坂表ニ立越シ同所天満砂町二十三屋ノ裏ノ西川又太郎方ニ出這入致シ大和國信貴山或ハ能勢ノ妙見宮等へモ籠リ等致有之願日ヲ送り明治十一年四月六日路用ノ金ニモツキ病氣モ快ヨロシク歸村致シ候事

一自分大坂表ヨリ歸宅致シ二男牧太郎ヨリ承リ候ハ、前ニ身代限リノ節長谷川紋次郎安富嘉十郎宮永伊平安富三右衛門増田甚五郎并ニ田先喜平等ヨリ同謀財産ヲ隱匿シタル旨ヲ自首シ御處分ニ相成タルニ就テハ自分モ當警察署ヨリ御呼出シ相成候由ニテ其事情

追々承り候ハ、全ク不實ノ自首ニシテ決テ財産等ヲ隠シ其事ヲ喜平始メ紋次郎等へ相謀リ候儀ハ毛頭無之ニ付其實上申致シ度ト存シ最初ニモ申上候通當御署へ罷出候處御拘留相成候事

右財産ヲ隠匿シタルニ無之証據ハ自分所有ノ酒造道具諸建物等ヲ嘉十郎ノ名宛ニテ賣端書ヲ相渡シ候ニ付紋二郎伊平甚五郎三右衛門申談シ各所有ノ耕地ヲ書入前ニモ申上候通大西甚平方ニテ金借シ自分へ貸渡シ呉タル儀ニテ自分ヨリ嘉十郎へ右酒造道具諸建物等ノ賣端書差入サレハ自分カ疲弊ノ中ニ素ニテ四百圓大金ヲ貸附ケ呉ル、理ハ更ニ無之ト存シ候事

右酒造道具並ニ諸建物賣渡シ端書ハ二通ニテ酒造道具賣渡シノ端書ハ當時ノ年月日ニ候へモ諸建物ノ端書ハ嘉十郎紋二郎等ト申談シ他ノ債主へ對シテモ我村計へ何モ彼モ差入タル様思ハレテモ不

都合ニ付前年賣渡シ置タル姿ニ致シ置候ニ付該証書ノ年月日ハ明治八年月日ハ不詳候へモ八年中ニ相成居候事

右日付ヲ偽ル段ハ相濟サル次第ニ付此儀ハ自首致シ候事

其後右嘉十郎へ賣渡ノ諸建家ノ端書証ハ居宅建家不殘ト書改メ候事

右端書ヲ書改メタル譯ハ元自分ヨリ嘉十郎へ宛賣渡セシヨニ相成居自分へ貸渡ス爲メ大西甚一平ヨリ金借致スニ付宮永伊平次等ハ耕地ヲ書入タルニ付嘉十郎ヨリ伊平次へハ藤岡仲兵衛居宅建家不殘居宅不殘テアツタカ建家不殘ト改メ候カハ放心仕候我等四名ノ内へ買請代金四百圓相渡シ候處聊相違無之然ル上ハ私シ名宛ノ賣渡ノ証書ヲ取置候へモ後日ニ至其元入用ノ節右五名割賦ヲ以テ速ニ相渡スト申返リ証相渡シ居候處元伊平次ニハ無証ニハ候へ共取

引上自分へ貳百圓餘モ返金致スヘキトニ相成候ヲ辨償モ不致嘉十郎等モ伊平次ハ不人情ノモノナリト成シ牧太郎ヨリ出金致シ居候引當ニモ致スヘキ存意ヨリ証書面諸建物ト申サハ藏モ酒藏等モ籠リアルニ付之ヲ嘉十郎紋二郎等ト談合セ居宅建家ノミノ証書ニ書換へ伊平次へ嘉十郎ヨリ差入タル返リ証ノ割賦ヲ減シテ伊平次へ自分ヨリ貸付トナツタル無證據ノ分ト差引致ス積リニテ致シタル儀ニ有之候尤此節ハ嘉十郎ト自分トハ睦シキ時ニ付万事自分都合ヨキユウ談シ吳候事

夫ヨリ嘉十郎ニ於テハ自分ヨリ賣渡シタル酒造具外賣却致シ大西甚一平方へ辨金致スヘキ處右品賣捌ケ不申ヨリ遷延相成居候内右甚一平ヨリ該証書ヲ播磨國加西郡中野村三宅忠藏へ讓渡シ忠藏代言荒木重太郎ヨリ明治九年十一月一日神戸裁判所姫路支廳へ訴訟

致シ候ニ付紋二郎ト自分ト兩人ニテ原告へ取絶金調中日延願等致シ候上酒造藏二棟長藏ニケ所ヲ播磨國加西郡笹倉村今井久右衛門へ金百廿五圓ニ賣拂ヒ酒造道具ハ同郡畑村河原善八へ金百圓ニ賣拂ヒ都合二百廿五圓ニ相成候ヨリ自分倅_二男_一牧太郎へ相談シ二百圓ノ金調致シ貫ヒ合シテ四百廿五圓ノ金高トナリ内四百廿圓ヲ原告代言荒木重太郎へ相渡シ候事

右重太郎へ相渡シタルハ紋次郎ヨリモ自分ヨリモ嘉十郎ノ代人トナリ相渡シ候事

右三宅忠藏ヨリ訴訟致シ候金高ハ元利四百六拾圓ニ候へハ訴訟中元金ノ利子并ニ入費等ニテ五百廿圓ニテ濟方致候事

自分ヨリ金調シ嘉十郎カ忠藏へ辨償シタル金高ハ四百廿圓有之候へハ當時自分ノ爲メニ嘉十郎等ト耕地ヲ書入金借致シタル宮永伊

平次ト外債主ヨリ訴訟セラレ身代限リ致シタルニ付右書入タル耕地ハ糶賣トナリ金百圓ニテ荒木重太郎へ落札セシニ付右百圓ヲ合シテ忠藏方ノ濟口ト相成候事

其後宮永伊平次ヨリ嘉十郎へ係リ前々申上タル自分ヨリ嘉十郎宛ノ賣端書割賦金請求ノ儀ヲ勸解願出テタル趣ニテ如何ノ示談致シタルヤ詳ニ承知不致候へヒ願下ケ相成候事

右ノ後チ又候宮永伊平次へ係リ荒木重太郎三宅忠藏代人ヨリ地券書替ノ勸解願出テ則其地券書替へハ伊平次ヨリ自分ノ爲メニ三宅忠藏へ書入タル末同人ハ身代限リ致シ重太郎へ落札相成タル耕地ニ御坐候事

右地券書換ノ御勸解ニ付テハ長谷川紋二郎安富嘉十郎安富三右衛門増田甚五郎ヨリ上伸中ニ四百圓ノ金員ヲ藤岡仲兵衛貢租ニ差支

候ニ付我等所有ノ耕地ヲ書入借用シタル云々有之候事

右ノ次第ニテ紋二郎等ヨリ自分へ金員貸呉タルハ明瞭ニ有之其金員ヲ借用致スニ付テハ自分ヨリ紋二郎等へ何一品モ相渡サスシテ各所有ノ耕地ヲ書入他ニテ借金致シ自分へ貸呉ル、筈ハ決テ無御坐自分ヨリ財産ヲ賣渡シタル故貸呉タル譯ニ有之候事

田先喜平へ酒賣渡シタルハ聊カ相違モ無之ニテ八拾五石ヲ三百圓余ニ賣拂ヒ其後右酒ヲ同人ヨリ賣拂吳トノ頼ヲ受ケ自分ヨリ諸所へ賣却致シ候事

右賣拂ヒ代金ハ未ダ決算致シ居不申候へ共金員並ニ酒ニテモ差入有之ニ付今計算致シ候ハ、二百圓程辨償致サハ皆濟ト相心得候事
喜平へ必ス賣拂タト申証據ニハ出切手ト申喜平方ヨリ今日ハ何程出テ吳ト申証書モ有之候事

右証據ノ切手ハ此度持參ハ致シ不申候へ共倅共へ搜シ出セト申付
置キ候ニ付倅紋次郎へ御達被下候ハ、持參可致ト存候事

喜平ハ自分ノ妾ノ姉聳ニテ自分カ喜平へ勘定滞リ居ニ付自分ノ妾
姉喜平ノ妻へ此金ヲ催促シテ取テ來テハ家へ歸ルヲナラン杯ト申
スヨリ今ニ自分妾方ニ同居致シ居候ヨリ一端妾ノ隣家小林忠吉ト
申者カ仲裁致シ吳候へ共自分カ金調出來不申ヨリ歸參相叶不申候
事

右段々ト申陳候通り自分ハ決テ財産ヲ隱匿等致シタルモノニ無之
喜平紋次郎嘉十郎伊平次三右衛門甚五郎等自分ノ頼ヲ受ケ財産ヲ
隱匿セシトノ自首ハ全ク不實ニ有之候事

明治十二年五月十三日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シ
タリ

其方儀明治九年四月中神東郡田尻村多田常次郎ヨリ詞訟ヲ受ケ身
代限致スノ際所有ノ財産取隱シタル儀無之旨申立ルト雖モ共犯安
富嘉十郎外四名於テハ其方ノ囑託ニ應シ建家酒造道具悉皆嘉十郎
へ買取リタル偽証書取捺へ及ヒ清酒ハ八拾五石壹斗貳合ハ田先喜
兵衛ヨリ預ケ置キタル証書ヲ詐爲シ訴出全ク詐欺ノ身代限ヲ助成
シタル旨悔悟出首ニ及ヒ已ニ處斷ヲ經タル上ハ罪証明白タルヲ以
テ賊盜律詐欺取財條ニヨリ懲役十年ノ處一罪先キニ獲シ答五十ノ
處斷ヲ受ルヲ以テ五十日ヲ扣除シ懲役九年ト三百十五日申付ル
藤岡仲兵衛於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年五月十五日大
審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

自分義ハ兼テ酒造營業罷在候處去ル明治八年分村方貢租米凡三百

石ヲ買取代金ハ自分ヨリ上納可仕約定致シ則代金凡千五百圓ノ處
米價下落ニテ此半金凡七百七拾圓餘リ不足トナリ金調方無之一時
當惑仕候處明治九年四月中同村長谷川紋二郎宮永伊平次安富嘉十
郎増田甚五郎安富三右衛門此五名ノ者上納金催促トシテ自宅へ罷
越候ニ付其時差當リ金調ノ目途無之甚々因却仕候ニ付供々心配致
シ吳侯様相談シ候處右五名ノ者モ名々貢租米ヲ相任シタル人名ノ
内ナリ尙其節ハ五名トモ伍長役相勤居候ニ付輒ク承諾致シ吳侯上
尙私シへ諭シ吳タル義ハ自分ノ建造物及ヒ酒造道具悉皆五名ノ者
へ賣渡シテ置ケハ七百七拾圓餘不納ノ内四百圓ハ調金致シ吳ルト
ノヲナルニヨリ尙私ニ於テモ戶長職務中ニ村方へ損亡相掛ケ候ヲ
ハ不濟事ト相心得此教諭ニ任セ則建造物ニ及ヒ酒造道具ヲ賣渡シ
証文相認メ熟議ヲ以テ其已前ノ月附ヲ以テ同人等ノ指揮ニヨリ五

名ノ内安富嘉十郎宛名ニテ仕渡罷在候處其際集會所ヨリ上納方嚴
敷催促有之故ニ右嘉十郎ト私シトノ連印ニテ貢租金上納延期願ヲ
差出吳然ルニ右建家酒造道具ニテ四百圓ノ抵當見込無之依テ自分等
ノ耕地ヲ差入五月十一日當國印南郡見土呂村大西甚一平取次ヲ以
テ同國加西郡中野村三宅忠藏方ニテ金四百圓借受ケ私シへ相渡吳
直ニ同月十二日自分ヨリ舊飾磨縣租稅課へ上納仕則同課ヨリ受取
証ヲ御渡ニ相成即今自分ニ所藏アリ猶五名ノ者ヨリ三宅忠藏ニテ
借入吳タル四百圓返金ノ儀ハ自分ヨリ金調シタルヲ明瞭タル証據
ニハ四名ノ証印押シタル証據トナスへキ書類モ有之最モ該書類ヲ
入手スル譯ハ明治十年八月中三宅忠藏代人荒木重太郎ヨリ宮永伊
平次へ相掛飾磨區裁判所へ出願ノ節引合人長谷川紋次郎外三名ヨ
リ上呈ナシタル處披見ノ上御下渡ニ相成タルヲ自分へ申受候尤其

節自分義モ引合人トシテ出頭仕候義ニ御座候且別紙相添畧シテ言
 ス尙夫而已ナラス建家酒造道具類ヲ悉皆賣渡シ且嘉十郎ヲモ買受
 タルコト判然タル証據ヘハ安富嘉十郎ト自分ト連署ニテ上納金延期
 願書ニ建家酒造道具トモ賣渡且買請ノ云々明記アル則嘉十郎証印
 押アル書面モ有之然ハ是ヲ事實ニオキテ觀レハ決シテ隱藏ノ廉無
 之コトハ言ウチマダス尙亦廉々確証上ニ於テミルモ尙更取隠シタル
 譯無之然ル處今仮ニ五名ノ者申立ノ如ク是ヲ隱藏トセハ現在建家
 賣却スル代金自分ニ所藏スヘキ筈然ルニ其義ナク賣却ノ代金ハ悉
 皆仕拂先キ判然ナルヲ何チ以隱藏ト曰ウヤ自分ニオキテ隱藏シタ
 ル理由無之亦理由ナケレハ賊盜律ニ處刑被仰付候義ハ何分ニモ了
 解難相成候事

第二條

前一條ニ記載スル四百圓金調ノ上右五名ヘ相渡シタル義ハ元來嘉
 十郎ヘ賣却ノ時四百圓ニ利子ヲ相加ヘ同年十二月マテニ返金セハ
 元々ヘ取戻シ可貫約定ニ有之故ニ彼我協議ノ上建家酒造道具賣却
 仕其代金ヲ以テ四百圓金調仕尙殘金百圓ノ義ハ五名ノ内宮永伊平
 次壹名ニテ私シヘ借受ニ相成タル譯ハ四名連印アル別紙書面ニテ
 明瞭ナリコノ百圓借用ナルカ故ニ賣渡シ証文相戻シ不吳未タ嘉十
 郎ノ手元ニ有之候事

第三條

同郡北條町田先喜平ヨリ相掛清酒隱藏ノ自首スルト雖モ決シテ然
 ラス此義ハ私ヨリ清酒八拾五石壹升余代金三百八拾二圓余ニテ賣
 渡シ則喜平方ヘ該酒引取ノ際右喜平ノ都合ニ依テ細桶壹本此酒拾
 石余同人ヘ引取タル節酒出シ切手等モ有之然ルニ喜平申立ノ義ハ

別途買受タル清酒杯ト相偽リ候へ共別途賣買ノ酒トセハ何ッ金目
記シタル送り算用書ニテモ有之管然ルニ其義ナク只升目而已記載
アルハ預リ酒ノ出シ切手ニ相違無之其余悉皆私シ方へ買戻シ其代
金未タ不遂計算ヲ故ニ隱藏杯ト相唱へ自首スル譯ハ事實無根ノ迷
惑ヲ申掛是等ノ義モ五名ノ内長谷川紋次郎ノ指揮ニ依テナシタル
所業ニ有之候事

第四條

兼テ口供ヲ以テ上伸仕候得共右五名ノ者ヨリ私へ相掛無根ノ迷惑
申掛タル理由ハ去ル明治七年中姫路堅町中川瀬平方ニテ連署借用
金有之此返濟方ニ行違ノ廉有之逆右五名ノ者ヨリ私へ相掛警察署
へ御吟味出願セシ時ヨリ互ニ意見違ノ廉有之故此度右様ノ迷惑申
掛タル此明細ハ口上ト御見合被下候ハ、事實判然仕候事

第五條

前條々ノ理由ナルニ依リ証書面月附金高齟齬シタルチ不都合ト心
得其段自首仕尙其他自首狀ニ記載無之トモ口供ヲ以テ自首仕候處
段々確証ヲモ有之ヲ御閱檢モ無之上伸スル廉モ明細御取調無之尙
相手方へ對決爲致貰度段上伸スルト雖モ御採用不被下事實不調ニ
シテ突然宣告狀御下渡ニ相成驚入該狀拜見仕候處自分ヨリ自首シ
タル云々更ニ明記無之只御掛官ノ御見込ヲ以テ右様御處刑被仰付
候テハ何分ニモ了解難相成依テ御手数數ノ段奉恐縮候得共不服ニ付
上告仕候間此上ハ事實御取調ノ上公明正大ノ御處分奉仰候也
大審院ニ於テ裁判スルヲ左ノ如シ

上告ノ主点

上告人藤岡仲兵衛カ請求スルヲ左ノ條件ナリトス

第一 建造物及ヒ酒造道具ハ悉皆安富嘉十郎外四名ノ者へ賣渡シ
証書ハ熟議ノ上以前ノ月附ニ爲シ置キ又清酒八拾五石餘モ同様
田先喜兵衛ニ賣渡シ同人ノ都合ニヨリ自分ニ預リ置キタルモノ
ニシテ隱藏セシ理由ナキテ賊盜律ニ擬問シ所刑セラレシハ了解
致シ難キトノ事

第二 安富嘉十郎外四名ノモノトハ先前意見違ノ稜アリシヨリ此
度自首シテ無根ノ迷惑ヲ申掛ケタリトノ事

第三 証書月日ノ不都合ハ自首スルモ宣告書ニ明記セラレス且確
証アルモ取調ナク相手方へ對決モ免サレス掛官ノ見込ヲ以テ處
斷セラレシハ不服ナリトノ事

辨明

第一條

藤岡仲兵衛カ明治九年四月中他ノ詞訟ニ係リ身代限リ處分ヲ受ケ
シ際所有ノ財産等隱藏セシ之レナシト申立レ共犯者安富嘉十
郎田先喜兵衛外四名カ明治十一年十月三日明治十一年十月十一日
姫路警察署ニ差出シタル自首狀ヲ閱スルニ左ノ如シ

安富嘉十郎外四名ノ自首狀

右安富嘉十郎外四名ノ者ト今般自首セシ顛末左ニ奉陳述候

第一條

該自首スル源由ハ同區同村藤岡仲兵衛ナル者當國第九大區一小
區田尻村多田常次郎ヨリ懸ル負債淹滞ノ訴訟ニ去ル明治九年四
月中身代限リヲ受ケタル際右仲兵衛并同人次男植太郎兩名ヨリ
自分共へ依頼スルニハ該訴訟ニ付身代限ヲスルニ他ノ財産ハ悉
皆隱藏セシ處尙建造物及ヒ酒造器械アリ該所有物ヲモ隱藏スル

ニ自分共五名へ該品買受ケノ姿ニ爲シ吳ノ度段依頼セリ然レモ不正ナルニ付再三相斷ルト雖モ仲兵衛父子只管依頼ニ任セ其不正ナルヲ自分共ニ於テ承諾シ然ルニ各五名へノ買受証書製スルモ不都合ノ由ヲ以テ仲兵衛父子且自分共各七名協議ノ上去ル明治九年四月日ハ不覺安富嘉十郎壹名へ金四百圓ニテ仲兵衛所有ノ建造物及酒造器械共買受ケタル証文ヲ製シ〔該証八年十一月ニ賣渡ノ姿ニ爲シタリ〕仲兵衛自筆ノ証ニシテ榎太郎モ証印セリ斯ノ如キ不正ニモ仲兵衛父子ヨリ詐偽ノ依頼ヲ承諾シ仲兵衛身代限御處分ノ際債主共へ該品分配ニ加ヘサル段奉恐入候事

第二條

藤岡仲兵衛身代限御處分濟ノ後明治九年十一月日ハ不覺右詐偽セシ隱藏物ノ内仲兵衛居宅雪隠并風呂場三点ノ外悉皆賣却仕度

由同人申出タリ前陳ノ如ク素ヨリ其實自分共ヨリ金錢ヲ以テ買受ケシモノニ無之ニ付其意ニ任セ置シ處仲兵衛ヨリ次男藤岡榎太郎ナル者へ右居宅外三点ヲ除クノ外悉皆賣却ヲ爲シタリ該代百圓未滿ノ風聞アリト雖モ關係セサルニ付不分明ナリ依テ同月中別紙証文寫ノ如ク建家賣渡証書ヲ製シ自分共へ受取藝キニ製シタル証文ハ仲兵衛へ返戻シ該建家ニハ仲兵衛長男松次郎次男牧太郎トモ今ニ住居セシ次第ニテ該建造物ニ於テハ安富嘉十郎ノ所有物ニ無之候事

第三條

前陳述ノ如ク仲兵衛父子ヨリ不正ノ依頼ヲ承諾シ仲兵衛ヲ救助セシノミニテ自分共ニ於テハ右父子ノ者ヨリ金圓等壹錢モ貰ヒ受ケ不申候事

前條々ノ如ク自分共ニ於テ不正ノ仕業ヲ爲セシヲ先非後悔シ乍

恐縮今般自首セシ次第ニ付何卒出格ノ御哀憐ヲ以テ此上何分ノ御處置奉願候以上

田先喜兵衛自首狀

自分儀不正ノ仕業ヲナシタルニ仍リ今般自首セシ始末乍恐縮左ニ奉上伸候

第一條

該件原由ハ去ル明治九年四月中日ハ忘却右同區畑村藤岡仲兵衛儀私宅へ罷越シ申スニハ飾磨區裁判所ニ於テ負債滯ノ訴訟ニ付身代限ヲナシタリ然ルニ戸長奉職罷在候ニ付村方ヨリ貢租米ヲ取立該米ヲ以テ自儘ニ酒造ヲナシタルニ付貢租上納金ノ引當テ所有ノ造酒ヲ隱藏スルニ自分へ買受ケタル姿ニナシ吳度段依頼スト雖モ不正ナルニ付數度相斷候處仲兵衛ヨリ只管依頼ニ任セ

自分ニ於テ其不正ナルヲ承諾シ別紙証文二通ノ如ク清酒八拾五石壹升貳合此代金三百八拾貳圓五拾五錢四厘ニテ自分へ買受ケ該酒封印ノ儘預ケタル姿ニ証文ヲ製シ該証明治九年二月一日ト記載アレトモ全ク同年四月中ニ製シタル爲該証明治九年二月一日ト記載アレトモ全ク同年四月中証ニ之レアリ尙仲兵衛ノ依頼ヲ受ケ恐多モ該証書ヲ以テ同年四月十七日舊飾磨縣裁判所へ不實ノ訴ヲナシ之レカタメニ仲兵衛へ係ル真正ナル債主トシテノ權利ヲ妨害シ該酒少シモ分配ニ加ヘサル段重々奉恐縮候事

第二條

前上伸ノ如ク仲兵衛ヨリ詐偽ノ依頼ヲ承諾セシ儀ニ付素ヨリ自分金錢ヲ以テ買受ケシ酒ニ不非依テ仲兵衛ノ意ニ任セ同人身代限御揭示中同人へ該酒不殘賣戻シノ姿ニナシタルニ付同人ヨリ私ノ名儀ヲ以テ該酒勝手ニ賣却ヲナシタル次第ニ有之トノ風聞

アレヒ酒代金等ハ仲兵衛ヨリ壹錢モ貰ヒ受ケ不申候事

第三條

前陳ノ如ク自分ニ於テ不正ノ仕業ヲナセシテ今更後悔罷居候處方今風聞ニハ仲兵衛儀官へ御損害ヲ相係ル爲メ詐偽ノ身代限ヲナシタカト思料ス然ルニ隣村ノ貢租米ヲ寄ノ酒ニ製シタルハ前顯貢租米ノ事故多人數へ出格ノ損害ヲ蒙ムラセタルヲ初テ聞取驚入不正ノ仕業日ニ不退何共筆紙ニ難盡種々奉恐入候事

前條々ノ如ク自分ニ於テ不正ノ仕業ヲセシテ先非悔悟シ今般自首仕候間何卒格別ノ御憐愍ヲ以テ此上相當ノ御處分奉願候以上右ヲ參觀スレハ仲兵衛ハ安富嘉十郎外五名ニ依頼シ所有ノ建造物酒造道具ヲ嘉十郎へ明治八年十一月ニ賣渡シタル姿ニ取替へ又清酒八拾石余ハ喜兵衛へ賣渡シ封印ノ儘該酒預リ置キタルニ通ノ証

書ヲ詐爲シ財産隠匿セシテ明確ナリトス左スレハ仲兵衛カ嘉十郎喜兵衛へ賣渡シタルハ俱ニ真正ノ賣買ニシテ隠藏セシモノニ之レナキトノ申立ハ不相立申立ナリトス

第二條

安富嘉十郎外五名トハ先前意見違ヨリ遺恨ヲ挾ミ今般自首シテ自分ニ迷惑申掛ケタル旨申立レヒ既ニ嘉十郎外五名ノ者ハ仲兵衛ノ囑托ヲ受ケ財産隠藏セシ不正ノ所爲ヲ首出セシニヨリ相當ノ處斷ヲ受ケ夥多ノ賍金ヲ賠償スルニ依レハ嘉十郎外五名ニ於テ仮令遺恨アルモ自ラ犯カサル罪ヲ犯シタリト自首シ態ト其刑ヲ求メテ人ニ損害ヲ掛ルノ理由ナキモノナリトス依テ該申立ハ不條理ノ申立ニシテ相立サルモノトス

第三條

安富嘉十郎宛建造物等賣渡シ證書ニ前年ノ月日ヲ記載セシ不都合
ハ自首セシト申立ルニ因リ仲兵衛カ明治十二年四月七日ノ自首狀
ヲ閱スルニ左ノ如シ

私シ儀明治十一年十月中勤解事件御審理中病氣且ハ聊事故有之
自儘ニ出立仕リ能勢并ニ信貴山へ參籠仕リ當時迄大阪邊ニテ養
生致シ漸昨六日歸宅仕リ俸トモニ聞取候へハ警察署ヨリ御呼出
ニ相成就テハ同村長谷川紋二郎外四名并ニ田先喜兵衛ヨリ明治
九年中私シ共身代限リ御處分ヲ受ケ候節建家釀酒等ヲ隱藏致候
様自首仕リ居候由然レトモ事實齟齬致シ隱藏ニアラス候へ共逸
々口供ヲ以自首仕候間御吟味ノ上事實御聞取至當ノ御處分被成
下度此段奉願上候以上

右ニ依レハ仲兵衛ハ自ラ犯シタル罪ヲ首出スルニアラスシテ嘉十

郎外五名カ建造物清酒等隱藏セシトノ自首ハ事實ニ於テ齟齬シタ
リトノ辨護ニ止マリ悔悟自首スルノ意ニ非ザルニ付仲兵衛カ犯セ
シ刑ニ差異ナキモノナレハ之ヲ宣告書ニ掲クヘキモノニ非ス又確
證アルモ取調ナク對決モ免サレヌ官吏ノ見込ヲ以テ處斷セラレタ
ルト申立レヒ凡罪ヲ斷スルハ證ニ據ルモノナレハ裁判官ニ於テハ
前ニ掲ケシ共犯者六名カ首出ニ及ヒ相當ノ處刑ヲ受ケシ明瞭ナル
證左ニ據リ仲兵衛カ犯セシ罪ヲ確認セシ上ハ敢テ對質スルニ及ハ
サルモノトス如斯衆證明白ナルヲ以テ神戸裁判所姫路支廳ニ於テ
賊盜律詐欺取財條ニ依リ處斷セシハ相當ノ裁判ナリトス

判決

九八四 右ノ如クナルヲ以テ明治十二年五月十三日神戸裁判所姫路支廳ニ於
テ藤岡仲兵衛ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀

○九四

却下スルモノ也

第四百九十三號

○判文詐欺取財ノ件 明治十二年四月廿一日上告
明治十二年十一月十三日判決

東京京橋區靈岸島銀町

一丁目六番地平民

木村爲右衛門

明治十二年三月
五十四年八月

右爲右衛門カ明治十二年三月二十八日東京裁判所ニ於テ爲シタル口
供左ノ如シ

自分儀曾テ詞訟人ノ依頼ニ應シ代言等致シ居リ明治十年八月頃ヨ
リ廻船問屋營業罷在リ候處同十一年五月中當今行衛知レサル山口
縣士族花田隆允ナル者ヨリ近衛兵營賄方相勤テハ如何ト申ニ付宜

一九四

シ頼ミ入ル旨申答ヘタル所右ハ入札ノ上被申付テ故豫テ米ノ用意
致シ置クヘシ旨談受ケ因テ南葛飾郡西宇喜田村林巳之助口入レニ
テ同村田中義茂ヘ去米八百俵壹圓ニ付壹斗四升五合ノ相場ヲ以テ
買入レノ及相談代價ハ其都度米ト引替ノコニ相定メ置キタル處同
年六月四日五日兩度ニ義茂ヨリ三百俵送り來タルニ付代金五百三
拾七圓八十錢餘引替ニ相渡シ置タル處未タ賄方落札ニモ相成ラサ
ル間右米ハ同月七日神田關口町六番地森清右衛門ヘ代金五百三拾
七圓九拾三錢ニテ賣却致シタリ然ルニ同年六月十八日右義茂ヨリ
前約ノ通り尙又三百俵送り來リ代價ハ約定通り引替ノ筈故未タ水
揚ケセサル内前文花田隆允金圓持參スヘキ約束致シ置キタルニ未
タ來ラス因テ義茂ヘ其趣申談シタル處然ラハ右代金ハ一時貸遣ス
間花田方ニ到リ金圓受取り來ルヘクト申ニ付同日夕刻迄延期相頼

ミ因テ右米ハ自分名前ニテ深川秋元藏白井藏へ積入レサセ船賃ト
 シテ金三圓自分ヨリ相拂ヒ義茂ハ自宅ニ待セ置キ自分ハ直チニ花
 田方ニ到リ候處同人不在ニ付空ク立チ戻リ義茂へ對シ今夜二時頃
 迄コハ是非共代金調達致ス間明曉迄待具レ候様相頼ミ尙義茂ヲ自
 宅ニ待セ置キ再ヒ出宅シタル儘所々金策ニ尽カスレモ行キ届カス
 因テ同年六月十九日前文森清右衛門へ右米三百俵買取り吳ノ候様
 申談シタルモ不用ノ趣ニ付同人周旋ヲ以テ深川堀川町三番地岩部
 爲藏へ抵當トナシ金六百圓借受ケ自宅へハ使ヲ頼ミ無理ナル都合
 ナリ以テ金六百圓調達シタル内金コテハ宇喜田義茂住居ノ村名ナリへ差出
 シ難キニ付歸宅相成兼ル旨申遣シ置キ尙其頃曾テ高知縣海南學校
 ヨリ借用金貳百五拾圓有之ヲ嚴シク催促ニ及ハレ時機ニ依レハ巡
 査チ差向ル等ノ督責ニ逢ヒ彌ヨ歸宅致シ難ク就テハ一旦函館ニ行

キ鰯ヲ買入レ利益ヲ得タル上義茂へ米代價返辨スヘクト決心シ同
 月廿二日千住宿ヨリ差配人ニ宛テ函館へ旅行ノ届書差出シ義茂へ
 モ前文三百俵ノ代價借用證書可差遣ト存シ候處郵便局ノ都合ニ依
 リ右證書認メタル儘ニテ所持致シ宇都宮ニ到リ同所立場茶屋ニテ
 不圖舊雇人山崎喜助ナル者ニ出逢ヒタル間前文ノ事情ヲ話シ右認
 メ置キタル證書ヲ義茂へ渡シ吳レ候様依託シ相別レ途中ニ於テ車
 夫又ハ商人ヨリ函館表鰯ノ景氣不宜趣キ承リ遂ニ函館行キハ相止
 メ下野國阿久津ヨリ船ニテ引返シ關宿松戸ヲ經テ浦和驛ニ到リ三
 木屋ト稱フル旅人宿へ折原重行ト詐稱シテ投宿シ同所ノ景況ヲ觀
 ルニ代言或ハ旅籠渡世杯致シタラハ随分利益モ有之様存シタルモ
 公然名前モ差出シ難ク因テ竊ニ出京シ自宅へモ立寄ラス三番町森
 屋ト稱フル旅人宿ニ止宿シ以前雇ヒ置キタル神田松枝町十番地内

田龜吉姉「キノ」ヲ竊ニ呼出シ浦和驛ニテ旅人宿營業ノ儀示談シタルニ幸ヒ同所ニ相應ナル明キ家有之趣ニ付明治十一年十月ヨリ浦和驛ニ於テ内田「キノ」名前ヲ以テ山田宇八所有ノ家屋一ヶ月金六圓ノ家賃ニテ借受ケ敷金トシテ金百圓相預ケ旅人宿營業相始メ候得共少モ利益無之預ケ置キタル敷金ノ内五十圓ヲモ取戻シ費用罷在候處明治十二年一月廿一日同所ニ於テ捕縛相成候尤モ前文岩部爲造ヨリ借用シタル金六百圓ハ旅行又ハ旅人宿營業等ノ諸雜費ニ殆ト遣ヒ尽シ殘金四圓所持罷在リ候事

明治十二年四月十日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀田中義茂ヨリ代金引換ノ約定ニテ送附シタル米三百俵ヲ受取ル際當今行衛知レサル花田隆允ナル者金圓持參セサル所ヨリ義茂ハ代金拂ノ延期ヲ示談セシメ付即チ該代金ハ一時借用金ノ譯

ニ相成タル旨申立ルト雖モ果シテ其承諾ヲ經テ一時借用シタルナラハ何ソ義茂ニ對シ隆允方ニ到リ金圓受取り來ル旨ニテ延期ヲ頼ミ同人ヲ自宅ニ待セ置クヘキ謂レアラシヤ且若シ代金ノ一時不融通ヨリ延期ヲ請フモノナラハ現ニ該米ヲ岩部爲藏ニ抵當ニシ六百圓ヲ借用シ得ル上ハ設ヒ全額ヲ拂フニ不足スルモ不取敢其事由ヲ義茂ニ謝シ先ツ其所持丈ケノ金圓ヲ交付スル手續ヲ爲ス等ニ毫モ無其儀直ニ該金圓ヲ携ヘ函館ニ旅行スル旨ニテ途中ヨリ借用証書ヲ遞送シタルモ其所在ヲ隱シ又ハ氏名ヲ詐リ營業スル所ノ情况ニ依レハ唯一時ノ急追捕縛ヲ緩ニセシメノ爲メノ黠意ニ出タルモノトス是レ最初ヨリ奸計ヲ以テ玄米買取ルヲ名義トシ一旦ハ殊更ニ其代價相拂ヒ三百俵ニ到テ代價ノ金策ヲ口實トシ竊ニ遁逃シ終ニ該米ヲ欺キ取タルモノト認定ス因テ右科詐欺取財條ニ依リ贓金八

百圓餘竊盜ニ準シテ論シ懲役十年申付ル

木村爲右衛門ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年四月廿一日及ヒ四月三十日並七月四日九月廿二日大審院ニ差出シタル上告狀及ヒ上告補正書ノ旨趣左ノ如シ

抑今般贓物トナリタル玄米三百俵ハ宣告狀ニ田中義茂ノ所有ナル旨明記アレヒ然ラス該米ノ所有者ハ田中源兵衛ニテ義茂ハ米賣買ノ周旋人ナリ始メ米買入約束タルヤ代金引換ノ約ナリシカ金主タル花田隆允ナルモノ金圓持參セサル所ヨリ自分金策即成能ハス因テ米岸上ケ前同所ニ於テ田中源兵衛及義茂ニ對シ代金渡シ方差支ユルニ因リ一時借用致度旨依頼セシニ源兵衛ト義茂ト合談ノ上義茂ヨリ貸與ナス旨承諾ノ應答アリ依テ船賃三圓ヲ相渡セリ尤代金ハ同日夕方相拂ヘキ約定ス斯ノ如ク示談行届タルニ因リ該米ハ引

渡ヲ受ケ而シテ義茂カ自分ノ代理トナリテ該米ヲ自分所有物トナシ藏積ナセリ然ルニ自分ハ百方金策ノ爲ニ奔走ナスモ右期限マテニ調金ナラス因テ不得止自宅ニ歸リ源兵衛及義茂ニ面會ノ上其事面ヲ以テ明朝マテ金圓償却ノ延期ヲ依頼ナセシニ承諾シ源兵衛ハ該代金受取方ヲ義茂ニ委託シ歸村ス後チ自分義茂ニ對シ若シ内金ニテ受取相成ル上ハ六百圓程相渡スヘキ旨ヲ申聞ケタルニ彼レハ源兵衛ニ對シ不躰裁ニ付是非皆金受取度旨申聞ケタリ然ルニ自分ノ金策ト手違ト成リタルニ因リ該代金渡方違約トナリタリ然レハ該約定ニ背戾ナシタルマテニシテ何ソ詐欺ノ性質アレヤ

一該米代價ヲ借用ナシタル證據ハ即チ義茂カ自分ノ代理トナリテ該米ヲ藏積シ之レ該米ヲシテ引渡シテナシタル所以ナレハナリ因テ船賃ヲ自分ニ於テ仕拂セリ若シ仮ニ貸與セサルモノトシテ原起ノ

約ノ如ク代金ト引換ノコナレハ何ソ金圓ヲ受取ラサルノ以前該米ヲシテ自分ノ名義ニテ藏積ナスノ理アルヘカラス之レ中途ニシテ改約シ一時代金ヲ貸與ヘタルモノナレハナリ加之詐欺受〔原ノ〕財ノ性質タル他人ノ財産ヲ詐リ取リタルトノ名稱タリ然ルニ該米ニ於テハ然ラス已ニ所有權ハ自分ヘ移轉ナシタルモノナレハ其所有者ニ於テ如何スルモ敢テ詐偽トスルハ甚シキ不當ト存候尤翌日代金相渡ストテ自宅ヘ相待セ居キ其儘旅行ナスハ情ニ於テ聊詐偽ノ如クナレモ法律上ニ於テ大イニ異ナルモノトス如何トナレハ米賣主タル源兵衛及義茂共已ニ前段ノ如ク代金ハ一時貸與シ返償方再度ニ一晝夜間ノ猶豫ナシ吳レタル上ハ已ニ賣掛ケ代金ノ性質ニアラスシテ何ソヤ將義茂ヲ自宅ニ待セ置ナカラ出先ヨリ金策ノ爲メニ旅行ナスハ義茂ヲ欺キタル如クナレモ何ソ詐偽シテ財ヲ得タルモ

ノニ非ス其財ト稱スル米ハ既ニ約束上疾ニ受取渡シ濟コテ自分ノ所有物ナリ然レハ即チ啻該代金ヲ返償方違約トナリタルモノナリ一宣告狀中岩部爲藏ヘ抵當ニシ金六百圓借用シ得ル上ハ金額ヲ拂フニ不足スルモ不取敢其事由ヲ義茂ヘ謝シ先ツ其持丈ノ金ヲ交付スル手續ヲ爲ス等ニ毫モ其儀ナク云々トアリ左スレハ爲藏ヨリ借用ナシタル金圓ヲ持參シ謝スルニ於テハ犯罪ノナキトノ文意ナラン果シテ然ラハ已ニ其當時内金ヲ以テ受取吳度旨依頼ナセシニ内金ニテハ受取カタク皆金相渡吳度彼レ相答タリ然ルニ前書ノ如ク宣告文ニハ毫モ無其儀トハ之レ事實ト相違セルノ宣告ナリ一前陳ノ理由ナレハ一時代金貸與ヘシハ明々白々タリ故ニ源兵衛及義茂等ニ於テモ詐欺受〔原ノ〕タルモノニ非ラサルモノト存居シニ一時代書者ノ誤認ニ因テ終ニ詐欺ノ如キノ届書ニ及ヒタリ因テ其代

書者タル高木直候ナル者ヨリ別紙之通上申書ヲ警視本署第三課へ捧呈シ尙糺問官へ自分長男直太郎ヨリ該書面ヲ證據トシテ差出スモ御採用無之却下ト相成タル由該書面ノ如キハ刑事裁判ノ必要タル證據ト存候ニ却テ其證據人タルモノヨリ捧呈ナシタル證據物ヲ故サラニ不問ニ置キ原告カ届書ニ拘泥シ獨斷認定ストハ即チ裁判ノ手續ヲ盡サ、ル裁判ナリ之レ改定律例第三百拾八條ニ因ラサル不當ノ御裁判ニシテ最モ服シカタク候

四月三十日差出シタル上告補正書

一宣告書中直ニ該金圓ヲ携へ函館へ旅行スル旨ニテ途中ヨリ借用證書ヲ遞送シタルモ其所在ヲ隱スト有リ此儀ハ時トシテ八百圓ノ金策ニ支へ依テ買取ル所ノ米三百俵ヲ抵當トシ先ツ六百圓ヲ借り尙貳百圓借受可クト三四日間奔走中松田徹外兩名へハ別テ切ニ歎求

大レトモ彼是不都合終ニ全額ヲ借り得ス去リ逆内金ニテハ承諾セヌ趣キハ曾テ斷リテ受ケ居タリ然リト雖モ已ニ六百圓調へタル事實ハ使チ以テ其節申遣ス程ニテ更ニ欺ノ意ナク若シ是レカ詐欺取財タラハ該米ヲ賣却ナシ成丈ケ金高ノ多數ヲ求ム可キノ情ナルニ代價借用中ナルニ依リ抵當ニ爲シタリ是則返濟淹滞ニ報ユルノ義務ナレハナリ豈物品ヲ欺取リ遁逃スルニ金ノ少數ヲ欲スヘキヤ是亦返濟ス可キノ情見ルニ足ルトス且ツ旅行スルニ該リ彌返金淹滞スルヲ以テ印紙貼用米代金借用証書差遣シタリ何ソ所在ヲ隱スカ爲メニ斯ノ如ク工夫ヲ費スノ暇有ランヤ將又氏名ヲ詐リ營業シタル譯ニハ之レナク夫レハ雇人ノ名義ニ依リ公然區務所ノ送籍ヲ經營業シタルモノニテ只自分旅行ノ際氏名ヲ變シタル迄ニ止リ何ヲ以テ自分氏名ヲ詐リ營業スル所ノ情況ニ依ルトスルヤ殊ニ未タ其

情況ノ事跡無キ以前義茂不實ノ告訴ニ及ヒタリ如何トナレハ被局
 騙御届ケト書シ其文意ハ自カテ局騙ニ非ラス全ク其代書ノ作意ニ
 成リタルモノニテ所謂一犬虚ヲ吠ユレハ万犬ニ傳ヘ守人亦是レヲ
 証トシテ實ヲ以テ防キニ備フルノ理ニテ是レヲ警視局三課星野殿
 杜撰ノ詮議ヲ以テ該米不正品ナリトシ是レヲ東京御裁判所へ移シ
 同所ニ於テ岩部爲藏儀木村爲右衛門ヨリ質ニ取立米ハ詐欺ニ係ル
 ナ以テ追徴申付候事トノ宣告書ヲ下サレタリ依テ爲藏不服ヲ訴ヘ
 タリ然ルニ義茂該米受取トシテ相越タリ之レニ答フルニ控訴ス可
 クシテ米渡スヘカラス同人復タコノ事由ヲ三課ニ報告セリ依テ直
 ニ同課ヨリ爲藏ヲ召シ其宣告ヲ受ケ該米渡シ方拒ムニ於テハ拘留
 スヘキノ責アリ不得止飯ニ御受ヲ爲シ退テ又不服ヲ訴ヘ控訴期限
 内執行スヘキ謂レ之レ無キ旨ニテ肯セス則上等御裁判所へ控訴シ

タリ就テ上申候ハ元來田中源兵衛同義茂ト俱ニ藏積入ヲ爲シ其節
 爲右衛門ノ物品タルヲ以テ他人ノ藏へ入數日間該米ヲシテ敢テ眷
 顧保有ノ念ナシ之レ金穀引換ノ約熟議一變シ該代金貸與明瞭シ其
 御判決ニ依リ爲藏始テ安堵スルニ及ヒタリ依テ三課ノ命終ニ行レ
 ヌ所ヨリ追捕ヲ急ニシ爾來トモ自談ヲ許サス宛モ負債償却ヲ拒ム
 ニ似テ其勢貪ツテ一ツノ罪人ヲ得ントスルカ如シ他人ノ事件ハ自
 談ヲ許ルシ獨リ自分ノ件而已許サス若シ自談セハ原告義茂ヲシテ
 反坐ス可シトテ手續書ナリトテ摺印ヲ取り是レヲ東京御裁判所糺
 問判事香川殿ニ移サレタリ是レ亦不服ノ一端ニ候ナリ

一 最初ヨリ奸計ヲ以テ立米買取ルヲ名義トシ一端ハ殊更ニ其代價ヲ
 相拂フトノ文意了解シカタク思フニ曾テ糺問掛リ香川殿御訊問ノ
 際約定米八百俵ノ内貳百俵受取代價相拂フト雖モ未タ納米落札セ

大殊ニ精米ニ之レ無クテハ用便ニ給セス旁以精米商買森清右衛門
 へ俄頃入用ノ節ハ精米用辨致シ吳侯筈ニテ則チ買取ノ代價ヲ以テ
 兩度ニ受取置タル貳百俵トモ賣渡シタリ然ルニ田中源兵衛同義茂
 方へ再三相越又ハ該米引取藏入等ノ費用モ之レ有ルコト付壹俵三斗
 九升入ニテ買取ノ上是ヲ辨リ立平均四斗入ノ量目ニ成リタリ依テ
 貳百俵ヨリノ出米則チ貳石アリ此代價金拾三圓七拾九錢三厘ノ利
 益ナリ其段再三申立ツルト雖モ清右衛門へノ受取書ニ符合致サス
 迎其時ノ船賃金貳圓ヲ差引賣買上ニ金壹圓八十壹錢ノ損失アリ是
 則後三百俵ヲ得ル爲ノ奸策ナリトノ責アリ然レトモ該米三百俵ハ
 其數偶然ニ出タリ素ヨリ百俵宛ナラテハ積入難キ小舟ヲ以テ送ル
 ナレハ敢テ一度ニ三百俵受取ルチ期ス可ケンヤ先々ノ如ク百俵宛
 運送スルヤモ計リ難ク全ク義茂ノ都合ニ依リ三百俵差越ス旨受取

ノ前日承知シタリ且ツ該米買賣同價ナレハ拾九錢ノ差ヒ有ル可キ
 謂レ決テ之レ無ク是レヲ清眼ニ照ラシ之レヲ正心ニ問ハ、時ヲ經
 ルトモ紊レザルノ算計何ソ證トスルヲ得ンヤ何ヲ以テ殊更ニ此代
 價拂フトスルヤ

一金策ヲ口實トシ竊ニ遁逃ストアリ是レ旅行ノ届書差配人ヲ以テ區
 務所へ差出シ已ニシテ途中ヨリ臨機方向ヲ替シハ全ク金策ノ急務
 ヨリ出タル所爲ナルニ自分留守中親戚共ヨリモ返濟方屢申入ル、
 モ警視局三課御調中又ハ上等御裁判所ノ御調中トテ原告自談ヲ聽
 カス且ツ自分儀未タ返金全額調ハス追々淹滯本懷ヲ果サスウチ縛
 セラレ御糺彈ニ依リ終ニ該米ヲ欺キ取リタルト全不實ノ認定ヲ以
 テ罪名ヲ着ケ刑セラレシハ冤ナリ枉ナリ元來該代金返濟期ノ違約
 ナリ自分違約セシト法官ノ詐欺ト認ルトハ其間毫末ヲ隔ツモノナ

リ所謂毫ノ誤リ千里ヲ差フト之レニ因テ尙補正ヲナシ以テ明覽ニ供ス仰願クハ前顯ノ如キ怨恨私情ノ判決ヲ破毀シ更ニ公明盛大正理純一ノ御審判被成下度晝夜悲痛シ待奉リ候也

七月四日差出シタル上告再補正書

一東京御裁判所宣告書彌熟見テ遂ケ候處情況ニ依レハ云々該米ヲ欺キ取り候モノト認定シ竊盜ニ準シ懲役十年申付ルトアリ抑各罰其當ヲ得ルヤ悉ク法律ニ依ラサルハナク其律タルヤ素ヨリ至嚴至密尙モ其二者ニ觸ル、モ只情狀ニ於テ酌量減等ノ法アリ未タ情ヲ以テ刑ニ處スルヲ聞カストス果シテ然ラハ其事ノ情況ニヨリ既ニ物品取與相和セシモノヲ以テ枉ケテ欺キ取ルト認メ殊更ニ其名ヲ着ケ擧テ型ニ容ル、ハ是則法律ニ違フモノトス將々綱領給沒贓物條中若シ取與俱ニ和セス恐喝詐欺強賣買科斂求索等ノ贓ハ並ニ本主

へ追還ストアリ之レニ依ツテ是レヲ觀レハ嚮ニ東京御裁判所ニ於テ該米追徴ノ命アルモ被告典賣主岩部爲藏肯セス原告田中義茂被局騙御届書ト表題セシヲ寫シ取則チ是レヲ上等御裁判所へ控訴ニ及ヒタリ然リ而シテ其届書文意ハ事主自然ニ眞實ノ手續ニ就キ自分ニ於テ聊局騙詐欺ノ狀之レナキヲ以テ其節ニ至リ該米岩部爲藏ノ所有ニ歸シ事主義茂ニ於テモ亦承服シテ上告ニモ及ハス然ル上ハ該米ハ既ニ正品ニシテ贓物ニ非ラス自分儀醜情有リトスルモ既ニ權利十分ノ証書ヲ差シ入レタリ又其欺ムカサルノ情ニ於テ判然見ルニ足ルモノトス此段再補正書ヲ以テ明覽ニ供奉リ候也

九月二十二日差出シタル上告明細

補正書

一東京裁判所ノ御宣告書ニ就キ其情況ニ依ツテ科斷セラレシヲ討

辨シ再補正書ヲ捧ケタル後又心付キ候ハ明治九年六月十日御布告
 ニ凡罪ヲ斷スルハ証ニ依ルトアリ然ルニ自分へ下シ給ハル宣告書
 ノ如キハ其方儀云々一時借用金ノ譯ニ相成リタル旨申立ルト雖果
 テ其承諾ヲ經テ一時借用シタルナラハ云々同人ヲ自宅ニ待セ置ク
 へキ謂レアラシヤ云々六百圓ヲ借用シ得ル上ハ設ヒ全額ヲ拂フニ
 不足スルモ不取敢云々其事由ヲ義茂ニ謝シ先ツ其持丈ケノ金圓ヲ
 交付スル手續ヲ爲ス筈ニ毫モ無其儀云々氏名ヲ詐リ營業スル所ノ
 情況ニ依レハ云々一旦ハ殊更ニ其代價相拂フ云々等ノ督責ニ過キ
 ス此四者ハ曾テ其原由實際ノ答辨アルニ付復タ爰ニ贅セスト雖モ
 僉詐欺ノ確証トスルニ足ルモノナシ如何トナレハ其答辨ニ付証ト
 スルニ足ラサルヲ見ル然ル上ハ只想像ノ認定ニ出タル無証ノ御處
 分ト愚考仕候是則御布告ニ悖戾スルモノ顯然タリ

一自分儀熟議ノ貸借タル証アルヲ掲ク左ノ通

第一 深川藏前兼テ約セシ金穀引換ノ場所ニ於テ代金差支ヘタル
 儀ハ明ニ白セシニ依ツテ荷主田中源兵衛賣主田中義茂ト協議シ代
 金其日夕方迄貸與シ該米三百俵直ニ賣渡ス可ク旨答タルニ依リ則
 先規ノ如ク船賃百俵ニ付金壹圓宛都合三艘分相拂タリ是レ始テ物
 品自分ノ所有ニ屬シタル明証タリ若果シテ其承諾ヲ經ス引換ノ先
 約存在スルモノナレハ其品物ハ未タ事主等ノ所有ナリ何スレソ他
 人ノ物品運漕賃ヲ拂フノ理有可キヤ誰人ヲ問ハス決テ之レナキ筈
 ナリ是レ果シテ事主等ノ承諾ヲ經タル証據ナリ

第二 該米三百俵深川兩所ノ藏へ事主等兩人ノ指揮ヲ以テ水上ケ
 且ツ積入ヲ爲シ木村爲右衛門所有ノ物品タル由ヲ以テ藏守へ預ケ
 去リタルナリ是又事主等自然眞實ノ所爲ニシテ取與俱ニ和セシ確

乎タル明証アリ若未タ引換ノ先約ヲ追フトスレハ必シモ事主等宛名ノ預リ証ヲ取り其日暮兩人自宅へ來リシ時金穀引換ノ議問有ル可キニ敢テ其議ヲ爲サス殊ニ事主等ニ於テハ只一面式ノ藏守ニ對シ預リ証ヲ取得ス如何シテ其儘立歸ルヘキノ謂レアテイヤ是レヲ以テ之レヲ推スモ事主義茂ニ於テ局騙ヲ被リタルニ非ラス自分義該米ヲ欺キ取りタルニ非ラサルヲ明著確証アリ

第三 其夕へ事主等兩人自分宅ニ待居リ自分モ亦歸宅面謁シ尙金策不調ニ付今夜二時或ヒハ明朝迄ノ延期ヲ依頼セシニ即チ承諾シ源兵衛ハ直チニ立歸リ義茂ハ居殘リタリ是レ再三應熟議貸借ノ証據明々瞭々タリ若シ不熟ノ取與トスレハ該米事主等ノ積入タル藏ニ現在セリ何スレソ藏守へ對シ更ニ預リ証ヲ取ラサル可カラス其現在ノ物ヲ願ミサルハ則チ嚮ニ代金貸與賣渡シタル又明証アリ

第四 義茂ト約セシ返濟金圓全額ニ充タス是際止ムチ得サルニ依リ旅行途中ヨリ全額借用ノ証書ヲ差入タリ欺クニ何ソ債主將來返金ヲ請求スルノ源因タル証據ヲ送ル可ケンヤ是又欺カサルノ一証タリ

第五 事主等被局騙御届書ト表題シ該事件ノ始末ヲ陳述シ詐出三課ノ糺彈ヲ經東京裁判所ノ御裁斷ニ依リ始テ自分義詐欺取財ノ名ヲ蒙ムルト雖モ其節ノ被告人不服控訴スルニ及ヒ其届書ノ手續文意ヲ省察シ之レヲ討論辨駁スルニ其届書ノ隻言ニ就キテモ自ら眞實見ハレ到底局騙詐欺ノ行狀見ヘサルノ御判決ニ依リ曾テ三課ノ嚴令ニ依ツテ該米仮執行トシテ賣拂代價原被兩印ノ封金田中源兵衛へ預ケ置タルチ是ニ於テ速ニ被告岩部爲藏方へ取戻シタリ是レ被局騙ニ非サルノ証タリ

第六 若シ實ニ局騙ヲ被リ玄米欺キ取ラレタルナラハ何スレソ其理由ノ明細ヲ書シ以テ上告セサルヤ其上告セサルモノハ詐欺トスル違約トナル殆大同彷彿ニ依テ其名ヲ仮リ以テ他人ヲ惑ハスモ抑其二者ノ原種ニ於テハ實ニ菽麥ヲ分別スルノ易キニ似タリ故ニ事主等先非ヲ悔ヒ右第五條上等御裁判所大公無私ノ御判決ニ承服シ上告ニ及ハス是亦確乎トシテ拔ク可カラサル明証タリ

一前條ニ掲クル數端ハマ、明細書等ニ重複スルモノ有リト雖モ彼レハ宣告書ノ答辨ニ供ヘ是レハ則チ証トシテ揚ルモノニテ其効力自然異ナルモノアリトス然リト雖モ俄ニ卑賤ノ身ヲ忘レ敢テ忌憚ナシ喋々拙議ヲ建言シ既ニ貴重ノ尊大院ニ馴ル、ニ似テ願ミレハ實ニ恐懼ノ至リニ候ヘモ自分一身上ニ取リテハ今日ノ極ニ至リ已ニ浮沈ノ中間ニ立チ又幸ニ言路洞開ノ時ニ際シ言ハント欲シテ止可

カラサルモノアリ理有リテ又盡サ、ル可カラサルモノ有所以ナリ依テ前顯數條ノ證據ヲ擇ヒ捧ルモノナリ宜敷御審判奉仰候也
大審院ニ於テ裁判スルノ左ノ如シ

上告ノ主点

上告人木村爲右衛門カ請求スル處ハ左ノ條件ナリトス

第一 玄米三百俵ノ所有者ハ田中源兵衛ニシテ田中義茂ハ米賣買ノ周旋人ナリ且内金ニテモ可渡ト申セシニ義茂ハ受取ラサルト
ノ

第二 該米ノ代金ハ源兵衛及ヒ義茂共已ニ一時貸與シタルモノナレハ乃チ賣掛代金ノ性質ナルニ詐欺取財ヲ以テ處斷セラレシハ不服ナリトノ

第三 宣告文ニ六百圓ノ金員ハ不取敢交付スヘキニ云々トハ事實

ト相違セルヲ以テ不服ナリトシテ
第四 田中義茂カ代書者タル高木直候ノ誤認ニ因テ終ニ詐欺ノ如
キ届書ニ及ヒタリトシ

辨明

第一條

木村爲右衛門ニ於テハ玄米三百俵ノ所有者ハ田中源兵衛ニシテ田
中義茂ハ米賣買ノ周旋人ナリト申立レトモ最初口入人ナル林巳之
助カ明治十二年三月八日警察官ニ差出シタル始末書中ニ〔木村爲右
衛門外一人同道ニテ私宅へ參リ葛西米八百俵入用ノ由申越候ニ付
私同道ニテ西宇喜田村十八番地田中義茂方へ右米申込候處其節同
人方ニテ當時金圓入用無之趣ヲ以テ斷ニ相成候へ共尙又私ヨリ少
々ニテモ宜敷旨押テ相頼候云々〕トアリ又義茂カ明治十一年七月二

日警視第一方面第四分署へ差出シタル届書ニモ〔明治十一年六月十
八日第一大區十六小區靈岸島銀町六番地平民木村爲右衛門近衛兵
御屯所用ニ付米入用ノ趣ヲ以テ私所持ノ米三百俵代金引替ノ約條談
示致置云々〕トアルヲ見レハ即チ該米ハ義茂カ所有物ナルヲ判然タ
リ且義茂ニ對シ内金六百圓相渡スヘキ旨ヲ申聞ケタルニ義茂ハ是
非皆金受取度様申聞ルヨリ金策手違トナリ云々申立ルト雖モ爲右
衛門カ明治十三年三月二十八日東京裁判所ニ於テノ口供中ニ〔岩部
爲藏へ抵當トナシ金六百圓借受ケ自宅へハ使テ頼ニ無理ナル都合
ヲ以テ金六百圓調達シタル内金ニテハ宇喜田義茂居住ノ村名ナリト差出
シ難キニ付歸宅相成兼ル旨申遣シ云々〕トアリ左スレハ義茂ニ對シ
内金六百圓ニテモ受取リ吳レヘクト申スニ義茂ハ肯セサル杯申立
ルト雖モ咸ナ虚言ノ甚シキモノト認ム何トナレハ其當時ニ在テハ

未タ米抵當トナシ金六百圓ヲ得サル以前ニアレハ只口實ニ過キカ
ルモノコシテ相立サル申立ナリトス

第二條

爲右衛門ニ於テハ該米既ニ藏積シ自分所有物トナリテ一晝夜間モ
猶豫ナシ吳ノタル上ハ已ニ賣掛代金ノ性質ナリ然レハ該米所有者
ニ於テ如何スルモ敢テ詐欺ニ非スト申立ルニ依リ義茂カ明治十二
年三月十三日東京裁判所糾問掛リニ於テ申立タル供狀ヲ左ニ掲ク
自分儀明治十一年五月中東宇喜田村林己之助ナル者木村爲右衛
門ヲ同道シ來リ葛西米買受度相談有之當時金ノ入用モ無之ニ付
一應相斷候處右爲右衛門ナル者近衛兵賄方致シ居賄米ニ差支候
間是非八百俵賣吳候様頼ニ付則二百俵賣却ノ約束ヲナシ同年六
月四日五日兩度ニ深川堀江町三番地岩部爲藏差配藏ニ積送り代

金五百三拾七圓八拾錢餘爲右衛門ヨリ受取候事

一明治十一年六月中旬猶又爲右衛門ヨリ代金引換ニテ三百俵買
入度旨談判有之右二百俵賣渡ノ節モ約束通り代金受取候ニ付此
度逆モ必相違有之間敷ト存シ前同様ノ相場ニテ則三百俵代金八
百三圓ニ賣却ノ約定致シ六月十八日深川ニ積送り候處爲右衛門
モ待合セ居二百俵ハ秋元藏ニ積入吳候様申ニ付然ラハ先其代金
受取度旨申候處手代花田某ナル者持參ノ筈ノ處未タ相見ヘス併
殘百俵ハ平井藏ニ積込ム筈ニ付同所ニ待居ルヘクト存候間兎モ
角積入吳候様申ニ付事實ト心得二百俵ハ秋元藏ニ入レ殘百俵平
井藏ニ積込ム時ニ到リ猶又代金及催促候處未タ花田ナル者不來
甚不都合ニハ候ヘレ後尅迄ニハ無相違相渡シ候間米ハ積込吳候
様申ニ付平井藏ニ積入候處爲右衛門ハ花田方ニ到リ代金受取

リ來ル趣ニテ立去リ候ニ付自分ハ爲右衛門宅ニ相待居候處夜ニ入爲右衛門歸宅シ花田不在ニテ金策出來兼候へ共今夜二時迄ニハ必取揃可相渡ニ付夫レマテ待吳候様頼ムニ付無據承知シ猶爲右衛門宅ニ待居候處同人其儘歸宅不致翌日ニ至リ使テ以テ六百圓出來候へ共内金ニテハ難相渡ニ付金策云々ノ手紙ヲ同人宅へ差越シ候へ共住所モ不詳其翌日差配人方へ行右始末相届候處爲右衛門出先ヨリ郵便ニテ函館へ旅行ノ旨届書差越シタル旨被申聞大ニ相驚キ全被街取候義ト存候ニ付警視分署へ訴出候處御取糺ノ末當御裁判所ニ於テ右米質入先岩部爲藏ヨリ追徴ノ上御引渡シ有之候ヲ爲藏不服ニテ上等裁判所へ控訴致シ同所ノ御裁判ニテ再ヒ爲藏へ御引渡相成候義ニ御座候

右義茂カ供狀ヲ參觀スルニ該米積込ニ終リシモ未タ花田ナル者金

員持テ來ラス因テ後尅迄コハ無相違可渡旨ニテ爲右衛門ハ花田方ニ到リ義茂ハ爲右衛門宅ニ相待居ルニ夜ニ入爲右衛門歸宅シテ曰ク花田不在ニテ金策出來兼候へ共今夜二時迄ニハ必ラス取揃可相渡ト云フヲ以テ漸々爲右衛門カ詐言ニ罹リ遂ニ翌日迄待明シタル始末ヲ視レハ爭カ爲右衛門ニ貸與シテ所有權ヲ讓リシモノニアラシヤ又義茂カ該米積込ニナセシモ後尅相違無ク金員可渡ト申聞ルヲ以テ事機止ムヲ得サル場合ニ出シモノニテ之レヲ以テ賣掛代金ノ性質ナリトハ甚シキ姦舌ニシテ相立サルノ申立ナリトス

第三條

宣告狀中ニ米抵當トシ金六百圓借用シ得ル上ハ不取敢義茂へ其金圓交付スヘキニ其義ナク云々トアレハ其當時義茂ニ對シ内金ヲ以テ受取吳レ度依頼ナセシ云々申立ルト雖モ第一條ニ辨明スル如キ

ト右第二條ニ掲クル義茂カ供狀等ヲ以テ見レハ爲右衛門ニ於テ幾回論スルト雖モ咸ナ犯事ヲ蔽ハントナスノ辨護ニシテ相立サルノ申立ナリトス

第四條

田中義茂ノ代書人タル高木直侯ヨリ警視三課へ差出シタル告訴書ヲ以テ一時代書者ノ誤認ニ依テ終ニ詐欺ノ如キ届書ニ及ヒタリ云々申立ルト雖モ右書面タル田中義茂ヨリ眞心詐欺ニ非サルヲ訴出シタルモノナレハ該件取消ヲ請フトノ文意モアルヘキヲ其儀ナク唯代書者高木直侯ヨリ寛典ノ處置ヲ請フノミノ書面ナリ又其文中ニ「局騙ト覺知致候義ニモ其犯刑如何ヲ認定致サ、ルヨリ右事實ヲ御訴申候云々」トアリ然ラハ其犯罪ノ性質如何ノヲ自定スヘカラサルニ單ニ局騙ト認メシヲ云フモノニシテ之レヲ以テ取消ノ一証ト

シ且詐欺ニ非ストハ相立サルノ申立ナリトス

右ノ外明治十二年四月三十日ニ差出シタル上告補正書ヲ閱スルニ其文中若シ是レカ詐欺取財タラハ該米ヲ賣却ナシ成丈ケ金高ノ多數ヲ求ムヘキノ情ナルニ代價借用中ナルニ依リ抵當ニ爲シタリ是則返濟淹滞ニ報ユルノ義務ナレハナリ豈物品ヲ欺取リ遁逃スルニ金ノ少數ヲ欲スヘキヤ是又返濟ス可キノ情見ルニ足ルトス且ツ旅行スルニ該リ彌返金淹滞スルヲ以テ印紙貼用米代金借用証書差遣シタリ何ソ所在ヲ隠スカ爲メニ斯ノ如ク工夫ヲ費スノ暇アラソヤ云々申立ルト雖モ爲右衛門ハ逃亡ノ際ニ金員ヲ圖ルニアレハ其緩急便宜ニ由ルノ黠意ナラソ何ソ他ヨリ金ノ少ナキ且抵當コナシタル一端ヲ以テ返償ノ念アルモノト看認ムヘケソヤ又旅行先ヨリ米代金借用証書ヲ送リシト云フト雖モ其所在分明ナラサルノミナ

ラス素ヨリ義茂承諾ニ非ラサル証書ヲ以テ詐欺ニアラストハ相立
タサル申立ナリトス

明治十二年七月四日ニ差出シタル上告補正書中ニ其律タル素ヨリ
至嚴至密苟モ其二者ニ觸ル、モ只情狀ニ於テ酌量減等ノ法アリ未
タ情ヲ以テ刑ニ處スルヲ聞カストス果シテ然ラハ其事ノ情況ニヨ
リ既ニ物品取與相和セシモノヲ以テ枉ケテ欺キ取ルト認メ殊便ニ
其名ヲ着ケ掣テ型ニ容ル、ハ是則法律ニ違フモノトス云々申立ル
ト雖モ其レ詐欺取財ノ如キハ始メ取與俱ニ和スルニ似タルモ到底
人ヲ瞞過セシムル詐術ニ外ナラサレハ其所爲賣掛代金ニ似テ非ナ
ルモノアリ此ノ如キハ相當官吏ノ檢探ヨリ出テ以テ証憑ヲ擧ケ面
シテ詐欺取財ノ性質ニ至ルモノナレハ外面ノ景況ヲ推シテ刑罰ヲ
加フルモノニアラストス

右ノ如シナルヲ以テ明治十二年四月十日東京裁判所ニ於テ木村爲右
判決

明治十二年九月二十二日ニ差出シタル上告補正書中ニ凡罪ヲ斷ス
ル証ニ依ルトアリ云々僉ナ詐欺ノ確証トスルニ足ルモノナシ如何
トナレハ其答辨ニ付証トスルニ足ラサルヲ見ル然ル上ハ只想像ノ
認定ニ出タル無証ノ御處分ト愚考仕候云々ト申立レヒ素ヨリ爲右
衛門カ詐欺取財ニ於ケル前數條ニ掲ケシ如ク詐欺ノ証蹟顯然ナル
ノミナラス僞名ヲ唱ヒ蹤跡ヲ晦マス等ヲ以テ觀ルモ亦該米ヲ欺キ
取リシヲ明白ナリトス其他爲右衛門カ縷述スル如キハ到底犯狀ヲ
蔽ハントスル申立ナレハ渾テ相立サル事ナリトス因テ東京裁判所
ニ於テ爲右衛門カ罪ヲ斷スルニ詐欺取財條ニ依リ贓金八百圓余竊
盜ニ準シテ論シ懲役十年申付タルハ不適當ノ裁判ニアラストス

五 衛門ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル
四 者也

第四百九十四號

○判文〔持兇器強盜ノ件〕明治十二年六月五日上告
明治十二年十一月十四日判決

千葉縣上總國長柄郡茂

原驛本宿出生當時無籍

平民

鈴木大助

明治十二年五月
四十年四月

右大助カ明治十二年五月三日横濱裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左
ノ如シ

明治十年四月九日横濱區裁判所ニ於テ氏名ヲ詐稱シ竊盜賍金壹

圓以上ノ科ニ依リ杖六十ニ處セラレ

明治十一年六月十二日横濱區裁判所ニ於テ尙ホ偽名ヲ唱ヘ再犯
ヲ初犯ト申偽リ竊盜財ヲ得サル科ニ依リ笞四十ニ處セラレ

自分儀前御處刑受ル前明治十一年一月十六日武藏國神奈川驛新宿
路傍ニ差置キ有之持主知レサル荷籠ノ内ヨリ衣類二品盜取リ右品
ハ同驛質渡世石田理兵衛方ヘ金三十壹錢貳厘五毛ニ質入致候事

明治十一年二月四日日光街道武藏國埼玉郡加倉村其時氏名不知中
村菊次郎方見世先ニ有之衣類四品盜取リ内一品ハ名住所不知屑買
ヘ代金貳拾錢ニ賣拂ヒ殘三品ハ所持ノ腹掛一ツヲ加ヘ石田理兵衛
方ヘ兩度ニ金壹圓拾八錢七厘五毛ニ質入致候事

五二五
明治十一年二月廿日頃武藏國橘樹郡生麥村氏名不知農家ニ干シ有
之木綿腹掛一ツ盜取リ右石田理兵衛方ヘ金二拾五錢ニ質入致シ候

事

明治十一年一月十六日頃武藏國神奈川驛小傳馬町氏名不知魚店ニ有之衣類壹品盜取リ右石田理兵衛方へ金拾八錢七厘五毛ニ質入致候事

明治十一年二月十八日同國神奈川驛神明町海濱ニ於テ漁師体ノ者船ヲ洗居ル傍ニ脱キ有之衣類三品盜取リ右品ハ不殘石田理兵衛方へ兩度ニ金五十錢ニ質入致候事

明治十一年二月二十七日横濱橋町鶴鳴學校へ忍入矢貝安五郎所持ノ衣類二品盜取内一品ハ石田理兵衛方へ金貳拾五錢ニ質入シ殘一品ハ人目ニ觸レサル様隱置候事

明治十一年二月十四日頃武藏國荏原郡大森村橋本藤次郎方洗湯場ニ脱キ有之木綿紺腹掛一ツ並金拾八錢盜取リ右品ハ石田理兵衛方

へ金三拾七錢五厘ニ質入致候事

右盜致シタル始末ハ押隱シ其上初犯ト申詐リ明治十一年六月十二日横濱區裁判所ニ於テ竊盜財ヲ得サル科ニ依答四十ノ御處刑ヲ受ケ尙又所々徘徊中盜ミタル所業左ニ申上候

明治十一年七月中武藏國橘樹郡根岸村岩田吉左衛門方土藏際ニ于シ有之衣類一品盜ニ取リ右石田理兵衛方へ金三拾壹錢貳厘五毛ニ質入致シ候事

明治十一年七月中同國神奈川驛神明町濱邊ニ於テ漁師体ノ者船ヲ洗居ル傍ニ脱置有之衣類一品盜取リ右品へ前鶴鳴學校ニテ盜タル品ヲ合セテ金三拾六錢貳厘ニ石田理兵衛方へ質入致候事

明治十一年七月十四日相摸國鎌倉郡腰越村土屋權三郎方ニ于シ有之衣類三品盜取リ同日同村藤田菊松方留守宅へ立入衣類共外共五

品盜取リ尙同夜同村和田三郎兵衛宅へ忍ヒ入金三拾錢衣類其外共十三品盜取リ都合二十一品ノ内四品ハ途中へ取落シ六品ハ神川驛内海甚右衛門方へ金四圓ニ質入シ三品ハ石田理兵衛方へ金六拾貳錢五厘ニ質入レシ殘リ八品ハ名住所不知者へ代金貳圓拾錢ニ辻賣致候事

明治十一年九月三日頃武藏國多摩郡小山村ニ於テ持主知レサル荷車ノ上ニ有之衣類七品盜取リ神奈川驛高坂勘次郎ヲ相頼ニ金壹圓ニ質入致シ候事

明治十一年九月三日相摸國鎌倉郡片瀨村鱈屋ノ腰掛臺ニ差置有之橫濱平沼町大塚琴次郎所持ノ衣類其外共四品布呂敷包ノ儘盜取内一品ハ遺失致シ二品ハ伊勢町六町目丸山權太郎方へ代金七拾五錢ニ賣拂ヒ殘一品ハ名住所不知者へ代金拾錢ニ辻賣致候事

明治十一年九月廿日頃武藏國神奈川驛海岸ニ脱キ有之衣類二品盜取リ石田理兵衛方へ金三拾七錢五厘ニ質入致候事

明治十一年九月廿三日夜橫濱伊勢山太神宮ニ於テ招魂祭ノ節神樂堂ニ差置キ有之林次郎兵衛所持ノ衣類其外共五品布呂敷包ノ儘盜取リ内二品ハ取落シ三品ハ丸山權太郎へ代金壹圓廿錢ニ賣拂ヒ殘一品ハ内海甚右衛門方へ金六拾貳錢五厘ニ質入致候事

明治十一年九月廿四日橫濱區宮崎町十六番地國上時與宅へ忍入衣類其外共二品盜取内一品ハ丸山權太郎方へ預ケ置キ殘一品ハ外衣類二品ヲ加へ石田理兵衛方へ金壹圓四拾三錢七厘五毛ニ質入致候事

明治十一年九月廿七日兼テ懇意ナル橫濱伊勢町六丁目丸山權太郎方へ相越候處生國并氏名不知字大坂熊ト申者モ同家へ參リ雜話ノ

末近在へ行き盜可致誰發意トナク三人中合セ自分ハ大阪熊同行シ
 テ武藏國都筑郡長津田村木錢宿渡世本多^{チヨ}方へ相越シ跡ヨリ丸
 山權太郎モ參リ都合三人ニテ同月廿八日飲食致シ夜ニ入り同家ヲ
 立出テ所々徘徊致シ候得共盜ヲ爲ス可キ人家モ無之空シク夜ヲ明
 シ翌日則チ明治十一年九月廿九日原町田村山中ニ於テ銘々身仕度
 ヲ成シ自分ハ長サ三寸餘ノ庖丁ヲ持テ大坂熊ハ長サ三尺計リノ棒
 丸山權太郎ハ三尺餘リノ竹切ヲ携へ同日午后十二時頃同國都筑
 郡奈良村荒物並小間物類渡世石井文太宅雨戸敷居下ヲ掘穿テ押入
 年老タル夫婦ノ寢間へ相越シ見ルニ夫婦ノ者打驚キ聲立ントスル
 ニ付大坂熊ハ聲立テハナラヌト申威シ其場ニ附添ヒ居自分ト權太
 郎ハ家搜シ致シ金三圓並反物衣類其外共百三品奪取内一品ハ石田
 理兵衛方へ外品ヲ加へ金壹圓四拾錢ニ質入レシ一品ハ高取勘次郎

ヲ以テ古平尙平方へ金三拾七錢五厘ニ質入致シ殘二品ハ所持罷在
 賣拂金ノ内六圓五拾錢配分受ケ候義ニ有之候事
 右盜奪品ノ内竊盜ノ五十六品ハ代積金拾貳圓五拾九錢ニテ盜金共
 合金拾三圓七錢ニ相成リ其内包藏ノ贓ハ貳圓六拾六錢ニ有之奪取
 候百三品ハ代積金五拾四圓貳拾三錢五厘ニテ奪金共合金五拾七圓
 廿三錢五厘ニテ都合金七拾圓三拾錢五厘ニ相成申候

明治十二年五月三日

右口供御讀聞ニ相成候處兼テ御吟味ノ節右ノ通吐露シタルニ相違
 無之然リト雖モ其口供中石井文太宅ニ於テ強盜セシトノ事ハ事實
 自分ニ於テ強盜ノ所爲無之前顯ノ顛末ハ大坂熊ヨリ曾テ聞及ヒ候
 手續キテ申立タル儀ニ有之且右文太方ニ奪ハレタル品ノ内木綿反
 物壹品石田理兵衛外一人方へ質入致シタルハ不正物ト知テ大坂熊

ヨリ相頼マレ質入ノ世話致シ遣シタル儀ニ有之候事

明治十二年五月三日

這ノ口供ヲ録シテ摺印セシメントスル際ニ至リ俄ニ前供ヲ反異
シ拒テ摺印ヲナサス

明治十二年五月三十一日横濱裁判所ニテ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀窃盜再犯ノ節初犯ト偽リ又ハ中村菊次郎外六ヶ所於テ衣類
其外盜取ル賍金貳圓六拾錢余ヲ包藏シ處刑受ル身分尙ホ藤田菊松
外九ヶ所於テ金子其外盜取ル賍金拾圓四拾錢余其上行方未知大坂
熊弁丸山權太郎俱々兇器ヲ携ヘ石井文太宅ニ押入リ金子其外奪取
タル覺ナシト云ト雖モ其奪品ヲ所持シ且ツ兇器ノ現在スルヲ加之
高取勘次郎石田理兵衛ノ供狀及ヒ事主文太父石井九左衛門并ニ同
人妻（原ノ）ノ明狀等ニ因リ曩キニ警察署ニ於テナシタル口供ハ

其事實ヲ吐露セシモノト確認ス右科ノ内改定律例第二百二十七條中

改正條款ニ照シ懲役終身申付ル

鈴木大助ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年六月五日大審
院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

自分儀明治十一年九月二十九日夜武藏國都筑郡奈良村ニ於テ姓名
不明荒物吳服店有之其家ノ裏ヨリ貳尺計リ成竹木ノ折ヲ拾ヒ來リ兩
戸敷居下ヲ掘穿テ其竹木ノ類ハ同所庭先ニ捨置其穴ヨリ大阪熊ト
申者這入中ヨリ戸ヲ明ケ吳候故其内へ這入候處突當リニ貳間程ノ
戸柵アリ其内ヨリ反物等取出シ居リ候處家内ノ者目ヲ覺シタル故
直物品ヲ持其儘逃去リ夫ヨリ横濱へ參リ右物品ハ伊勢町六丁目丸
山權太郎ニ賣拂ヒ其後同郡長津田村和田千代方ニ止宿致シ居リ候
處十月十一日夜八時頃下河井村警察署ヨリ巡查方御出張ニ相成直

ニ捕縛ニ相成翌十二日横濱戸部町警察署ニ御差送ニ相成戸部町警察署ニ於テ右石井文太方ニ盗ニ行キ候コ不殘申上尙又石井文太方ニ於テ兩戸敷居下ヲ掘候器械ハ同家ノ裏ヨリ拾來リ其竹木ハ庭先ニ捨置這入候事申上尤自分義兇器ヲ携ヘ押入タル覺ヘ更ニ無之候口供ニテ摺印仕同廿六日監獄横濱支署ニ御拘留ニ相成同廿八日檢察掛リニテ壹度御呼出シニ相成御掛リノ御姓名ハ不明ニ御座候夫ヨリ糺問掛リ山崎様ノ御調ヲ請ケ尤四度程御呼出シ有之候得共其日ハ悉皆失念仕候糺問掛ニ於テモ戸部町警察署ニテ申上候通り兇器携ヘ押入タル覺更ニ無之口供ニテ摺印仕十二月二十七日刑事審庭ニ御呼出シニ相成御掛リ阪本様ヨリ御申聞ニ自分兇器ヲ携ヘ右石井文太方ヘ押入候哉ト申聞ラレ候コ付其義ハ更ニ覺ヘ無之ト申上其日ハ御白洲モ無之翌廿八日戸部監獄本署ニ入獄被申付明治

十二年五月二日三日兩日御呼出シ有之刑事審庭ニ於テ石井文太方ニ押入候事御調ニ相成前ニ警察署監獄横濱支署並糺問掛ニ於テ申上候通りニテ未タ摺印不仕候故御調中ト心得居候處同三十一日御呼出シニテ持兇器強盜ノ科ニ依リ懲役終身ト御判決ニ相成自分義持兇器強盜致シタル覺ヘ無之候處石終身被申付候テハ不服ニ付乍恐上告奉願上候也
 大審院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ
 上告ノ主点
 上告人鈴木大助カ請求スル所ハ左ノ條件ナリトス
 石井文太方ニテ竊盜ヲナシタルニテ持兇器強盜ヲナシタル覺ヘ無之ヲ持兇器強盜ノ科ニヨリ懲役終身ニ處セラレタルハ不服トノ事
 辨明

石井文太方兩戸敷居下チ竹木ノ折ニテ掘鑿チ右竹木ハ庭先へ捨置其穴ヨリ大坂熊ト申者這入内ヨリ戸ヲ明ケ吳レタル故内へ這入反物等取出シ居ル際家内ノ者目覺タル故直チニ物品ヲ持逃去横濱へ行其物品ハ丸山權太郎ニ賣拂ヒタルニテ自分義兇器ヲ携へ右石井文太方へ押入リタル覺無之旨申立ルト雖モ横濱戸部町警察署ニ於テ吟味ヲ受ケ及ヒ横濱裁判所糾問掛ニテ取調ヲ受ケタル節ノ口供及事主石井文太父隱居石井久左衛門及ヒ其他ノ者ノ始末書ヲ閱スルニ左ノ如シ

横濱戸部町警察署及ヒ横濱裁判所糾問掛ニテノ口供ノ要旨
 明治十一年九月十一日其頃住所姓名不知石橋菊彌ト大坂出生ノ熊ト申ス者ト横濱伊勢崎町ニ於テ惡意トナリ其ノ節自分ハ武州都筑郡長津田村安泊渡世本多「チ」方へ止宿シ居ルカラ尋テ參

ル様申聞ケ相別シ其後明治十一年九月二十七日伊勢町六丁目紙屑買渡世丸山權太郎方へ罷越シタル處引續キ大坂熊モ尋來リ權太郎大坂熊自分トモ都合三人トナリ其ノ節三人ニテ誰ノ發意トナク近在ニ行キ盜ニ致スヘクト相談シ約束整フタルヨリ大坂熊ニ自分ノ兩人ハ權太郎方チ出發シ先立テ武州都筑郡長津田村安泊渡世本多「千代」方へ罷越シ引續キ丸山權太郎モ尋テ來リ候得共同夜ハ三人トモ他行セス權太郎及ヒ自分ノ兩人ハ本多「千代」方へ大坂熊ナル者ハ向フ家へ寢臥シ明治十一年九月二十八日晝飯ヲ仕舞三人連レニテ本多「千代」方チ出行シ盜ニチ致スヘク所々歩ミタルモ盜ニニ這入ヘク家屋モナク空シク夜ヲ明シタルヲ以テ明治十一年九月二十九日晝ノ間ハ本原町田村ノ山中へ三人トモ寢臥シ夜ニ至リ午後第十二時頃トモ覺ヘ自分ハ唐棧淺黃豎編單物

ニ紺ノ腹掛ケ脚半足袋ヲ着ケ面体ハ露シ頭髮而已チ手拭ヲ以テ包ミ刺身庖丁長サ三寸程ノヲ持チ大阪熊ハ茶小辨慶ノ單物小倉男帶紺ノ腹懸ケ脚半足袋ヲ着ケ面体ヲ露シ頭髮ハ手拭ニテ包ミ栗ノ木ノ三尺位ノ棒ヲ携ヘ丸山權太郎ハ紺カスリ單物古小倉帶紺ノ脚半足袋ヲ着シ三尺程長サノ竹ヲ携ヘ武州都筑郡奈良村其ノ節姓名不知石井文太居宅荒物小間物類ヲ買フ新店往還端ノ雨戸ノ中央ノ戸袋ノ敷居下ヲ自分及ヒ權太郎ノ兩人ニテ堀リ穿チ其ノ穴ヨリ大阪熊カ這入り内ヨリ締リテ外シ吳レタルヨリ兩人トモ這入突當リノ座敷ニ年老ヒタル夫婦ノ寢臥シ居ル居間ニ三人トモ這入其ノ居間ニ於テ兼テ用意キタリシ早附木ニテ蠟燭ニ火ヲ燈シタル節姓名不知年老ヒタル兩人ノ者カ驚キタル体ニテ聲立ツル摸樣ニ付聲ヲ揚ケテハナラヌト大阪熊カ制止シタルヨ

リ兩人トモ默シ居リ依テ戸棚ヨリ錢箱ヲ出シ及ヒ其戸棚ニアル物品掠奪スル左ニ
 一金三圓餘 拾錢貳拾錢札取交ニテ五十錢程銀貨銅錢文久天保青錢交リニテ貳圓八拾錢程
 右ノ外其節員數ハ知ラス御取調ニテ始メテ承知仕候物品ノ員數左ニ
 一 黒絹吳呂服 壹カマ 但シ五丈八尺
 以下畧之
 計百〇三品
 右ノ品々ヲ白麻或ハ藁繩ニテ括リ自分及ヒ權太郎ノ兩人ニテ先立テ持出シ大阪熊ハ暫時跡ヘ残り店先ヘ据アル酒樽ヨリ酒ヲ出シ吞ミ居リ自分權太郎ノ兩人道程壹町半モ行キタル時分跡ヨリ大阪熊カ退付夫ヨリ三人ニテ八王子街道星川村ノ山中ヘ持越シ

大阪熊丸ノ二人ハ盜品ニ附添居自分ハ其ノ盜品ヲ包ミ持運ヲ爲
 山權太郎ノ芝生村其ノ節姓名不知荒物渡世土橋三左衛門方ニテ新規ノ駕
 籠ヲ壹荷分代金拾四錢五厘及ヒ糸立二枚ヲ三錢五厘ニテ相求メ
 右ノ山中へ持行キ其ノ駕籠へ盜品ヲ積込ニ三人連レニテ翌三十
 日朝東京府下八丁堀迄東海道筋ヲ人力車ニテ權太郎及ヒ自分ノ
 兩人ハ罷越シ大阪熊ノ懸意ノ方ニ行キ盜品ヲ賣捌ニ持越シ大阪
 熊ハ神奈川驛ヨリ瀛車ニテ行キ八丁堀ノ目鏡橋ニ於テ權太郎及
 ヒ自分ノ兩人ハ品物持ナカラ相待大坂熊ハ其ノ懸意ノ方八丁堀
 岡崎町トヤラへ行キ暫ラクシテ立戻リ其ノ品ヲ捌キ吳レヘキ本
 人カ不在ナルニ何分當所ニ付テハ捌キカ運ハヌト申ス故ニ三人
 トモ人力車へ乗込ニ東海道筋ヲ經テ伊勢町六丁目丸山權太郎居
 宅へ持越シ盜品ハ其儘丸山權太郎へ相預リ置キ神奈川驛人足宿

吉川屋へ至リ止宿シ大坂熊モ丸山權太郎方ハ直チニ立歸リ候

明治十一年十月二日晝頃丸山權太郎方へ行キ盜品ノ内左ニ

一紺股引 壹足

一紺足袋 壹足

右ノ二品ハ自分御召捕ノ際所持居タリ

一小辨慶茶縞物ニ仕立タリ

右品ハ明治十一年十月三日神奈川驛石田理兵衛方へ國上時
 奧方ニテ盜ミタル紺カスリ單物ト共ニ代金壹圓四拾三錢七
 厘五毛ニ質入レス

一豎三筋縞太物 壹反

右明治十一年十月二日神奈川驛質渡世古
 平尙平方へ代金三十七錢五厘ニ質入レス

其外盜物ハ丸山權太郎ニ於テ賣捌キ吳レ明治十一年十月一日ト
 覺ヘ金六圓五拾錢ヲ配分受取候事

石井文太方ニ於テ盜取ル金三圓余ハ東京表へ往返セシ費用ニ三人ニテ遣捨候事

大阪熊トハ其後面會セサルニ付盜ニ品ノ内何品ヲ持參セシヤ亦丸山權太郎ト金圓何程ヲ配分セシヤ更ニ承知不致候事

明治十一年十月十一日長津田村本多千代方へ止宿中午後第九時過キ巡查方御出張相成御取押ノ末戸部町警察署ニ於テ御取調ヲ受重々恐入候事

前書盜取ル金三圓八拾六錢余物品百六拾三品此質入及ヒ賣却シタル代金合計貳拾四圓貳拾錢六厘ハ總テ遣捨現在不致候事

右

明治十一年十月廿六日

鈴木大助摺印

前顯都筑郡奈真村石井文太方へ這入ル前ニ各々携へ行キタル兎

器ハ宅前へ捨置キタリ家内ノ者ヲ縛リシト等ハ無之候事

右

明治十一年十月廿六日

鈴木大助摺印

右鈴木大助横濱裁判所糾問掛審庭ニテ申上候明治十一年十月二十六日附テ以テ戸部町警察署ニテ爪印シタル口書ヲ讀聞ケラレ

候處自分ノ申立ハ前書文面ノ通相違無之候尙ホ御尋テノ義ハ左ニ申上候

石井文太ノ宅ニ忍入ル節同家ノ土臺下ヲ掘リ其場所ニ捨置候庖丁ハ自分ノ所持品ニ候其庖丁ハ只今示サレタル庖丁〔此時糾問掛ヨリ賊ノ捨置タト訴ヘタル刺〕ニ相違無之候然レモ此庖丁ハ勿論身庖丁ノ折レ品ルモノヲ示ス〔相違無之候然レモ此庖丁ハ勿論〕其外抜刃ヲ携へ強盜致シ候儀ニハ決テ無御座候事

明治十一年十二月十八日

鈴木大助摺印

石井久左衛門始末書 明治十一年十二月九日

自分儀明治十一年九月二十九日ノ夜強盜ニ押入テ候始末御尋
テノ義ニ付申シ上候
一自分隠居ノ身分ニ付妻トヨ俱々出店ノ方へ相越シ居リ商業ノ
手傳ヲ致シ夜分ハ出店ノ方へ泊リ候其出店ハ本家ヨリ凡ソ壹丁
計リモ離レ居候

一明治十一年九月二十九日ノ夜ハ午後十時過トモ存シ候頃ロ戸
締リテ致シ打臥シ候處凡ソ半時間モ過キタル頃ロ歟ト存シ枕許
トニテ靜カニセロ聲ヲ立テルナシノビヨウニシロトニタ、ヒ三
タヒ聲懸ケテ驚キ目ヲ覺シ候處最早三人枕元ニイミ居リ果シ
テ盜賊ノ押入りタルト心付見世先ノ入口ヲ見及ヒ候處戸ノ明
ケテアル場處モ無之太々不審ニ存シ居候場合彼ノ三人ノ内ニテ

二尺計モ可有之ト存候拔刃ヲ携へ居ル人が自分ノ兩腕ヲ後ロノ
方へ廻シ候其時自分ハ昨年中ヨリ肩ニ痛ミ所ヲ覺へ帶モ後ロテ
ハペラレヌ位ニ付其痛ミニ堪へ難キヨリ後ロへ廻サレテハ痛ク
テ叶ハナイト叫ビ候付亦タ其手ヲ前ニ廻シ側ニ差置候自分ノ帶
ヲ以テクル々々巻ニ縛リ候而シテ其人ハ〔刀ヲ以テ居〕自分ノ肩ヲ
押へ拔刃ヲ自分ノ頭ノ上ニアテ、居リ候外ノ二人リハ何レモ素
手ニテ店内コアル戸棚ヲ引明ケ反物並ニ切地等ヲ引出シ其傍ニ
在ル麻苧ヲ以テ其品物ヲ縛リ店入口上リ段ノ脇迄持出シ置然シ
テ店内ノ板ノ間ニアル煮素麵ヲ土鍋ニ入レタル儘ニテ取出シ參
リ亦タ小賣ヲ致ス酒樽ヨリ茶碗ヲ以テ酒ヲツキ凡ソ三四杯モ吞
タル様ニ認メ候亦タ一人ノモノハ土鍋ニアル素麵ヲ喰ヒ盡シ候
今一人ハ酒モ吞マヌ素麵モ喰ハス候右三人ノ内拔刃ヲ持テタル

モノ、外ハ一端奪品ヲ表ノ方へ持出シ程モ無ク立戻リ又蝙蝠傘
 五本ヲ奪取リ此ノ度ハ三人一同ニ立出テ候其時拔刀ヲ携へ居ル
 モノハ一番跡ヨリ立出候付店セ入口ノ戸ヲ外ヨリ建寄セ置キオ
 レハ夜ノ明ケル迄此所ニ立テ居ルツ外へ出ルコトハナラヌト申
 威サレ候間暫ラク其儘罷在候處程無ク盗人モ立去リタル様子ニ
 シテ且ツハ便所ニモ參リ度相成リ候故エ妻「ソヨ」ニ自分ノ縛ラレ
 タル帶ヲ解カセ便ヲ達シタル後チニ戸締其外ヲ改メ候所店入口
 土臺ノ下チ凡二尺余リノ巾ニシテ深サハ壹尺五寸計リモ掘穿チ
 アリシヨリ賊ハ此所ヨリ這入リタルモノト其時初テ心付キ候コ
 ニ之レ有リ候又其掘リタル穴ノ中チニ長サ三寸計リナル刺身庖
 丁カ捨テアリ候其庖丁ニテ穴ヲ掘リタルモノト考へ候此庖丁ハ
 御届ケ致ス節一所ニ納メタル庖丁ニ候

一妻「ソヨ」モ兩手ヲ前ニテ縛ラレ候得共是レハ麻苧ニテ緩ルヲ縛
 リ候故エ歎直ニホドクテ仕舞候夫レ故盗人カ出テ行際キ〔原ノ〕ニ
 摺附木ヲ出セト申セシキモ摺附ケ木ヲ渡シ遣リ候又其跡ニテ自
 分ノ腕ヲモ解キテ呉レタルコトニ候
 一其盗人ノ年頃並人相衣類ハ自分モ恐怖致シ居候事故エ確トハ
 認メス候得共其キ認メタル丈ケノコトヲ左ニ申上候
 一右三人ノ盗人ハ何レモ黒カ又ハ紺ノ極ク細カキ縞ノアル衣
 類ノ様ニ見受ケ候且ツ此ノ三人ハ皆ナ紺足袋ヲ履キテ居リ候
 得共股引又ハ脚半等ヲ附ケタルモノハ無之候
 一右三人ノ内一人ハ四十余歳五十ニ近キ人ニ候又壹人ハ三十
 余歳ト認メ候今一人ハ二十八九歳位ニ見受ケ候
 一其ノ五十ニ近キト見へタル人ハ俗ニ獅子鼻ト申ス鼻ツキニ

テ眼口其外ハ確トハ認メ申サス候又三十余歳ト見ヘタル人ハ
顔ハ丸キ方ニシテ随分太リテ居ル方ニ候眼鼻口ハ皆ナ常体ノ
男ニ候廿八九歳ニ見ヘタルモノハ色ハ黒キ方ニシテ顔ハ長キ
方ニ見受ケ候目鼻ノ形チハ何レモ常体ナル方ニ候又此若者ハ
少シ菊石(アバ)ガアリタル様ニ覺ヘ候

一其節奪ヒ取ラレタル金銭物品ハ倅文太ヨリ御訴ヘ申上候義
ニ付別ニ申立ハ仕ラス候

一只今示サレタル二人ノ四人(此時糺問掛ハ丸山權太)ハ九月廿

九日ノ夜自分ノ宅ヘ押入り候強盜ニ相違ナキ様ニ認メ候亦タ

拔刃ヲ携ヘ自分ノ兩腕チ前ニ廻シ自分ノ帶ニテ縛リ候モノハ

先ニ示サレタル(先ニ示シタルハ)丸山權太郎(是レハ鈴木)四人ニ有之様ニ存シ候后チニ

示サレタル四人ハ(是レハ鈴木)素手ニテ押入りタル様ニ存シ候

其節素麵ヲ喰ヒ酒ヲ呑タルモノハ彼ノ二人ノ様ニ存シ候左レ

トモ余程日數モ立チタルコト故エニ素麵ヲ喰ヒタルモノハ彼レ

酒ヲ呑タルモノハ是レト只今其人ヲ別ケテハ申上難ク候

事主石井久左衛門妻ソヨ始末書明治十一年十月十日

自分儀明治十一年九月二十九日ノ夜強盜ニ逢ヒタル始末ヲ御

尋テニ付申上候

一自分ハ夫ノ久左衛門ト倅文太ノ商ヒ店セノ方ニ參リ居リ多

クハ其方ヘ寢宿リテ致シ居リ明治十一年九月二十九日ハ午後

十時ヨリ十一時ノ間ニ寢臥シ候處耳元ニテシンビヨウニ致セ

ト申ス聲ニ驚キ覺メ直チニ起キ上リ候處何者乎三人枕元ニ立

テ居リ候其内一人ハキラ々々光ル拔身ヲ提ケテ居リシ故エ扱

ハ泥棒(盗人ナ)ニ這入ラレタルコト初テ心付其儘蒲團ノ上ニ据

リテ居リ候處其ノ盜人ハ聲ヲ擧ケテハナラヌツ動ヒテハナラ
 スツト申聞クル故エ只怖シテナリマセヌ故エ何トモ申サス据
 リテ居リ候然ル處其盜人共(三人ナ)ハ夫久左衛門ノ兩手ヲ取り
 其ノ兩腕ヲ後口へ廻シ候付痛々々ト呼ハリ候故其手ヲ前ニ廻
 シ久左衛門ノ帶ヲ以テクル々々卷ニ縛リ候而シテ自分ノ兩手
 ナ前ニテ縛リ置拔身ヲ持テタル盜人ハ久左衛門ノ肩ヲ押へ其
 ノ拔身ヲ久左衛門ノ頭シテ上ニサシカサシ金ノ有ル處ヲ言
 へト責メタル后ナニ外ノ二人ハ(素手ニテアリタ)店內ノ戸棚ヲ
 引明ケ反物其外(盜難訴ニ)ヲ取出シ側ノ柱ラニ掛ケテアル麻苧
 ナ引キ卸シ其麻苧ヲ以テ奪品ヲ二ツニカラケ其品物ハ一端店
 ノ上リ鼻迄持出シ置キ三人ノ盜人ハ又坐敷ニ立歸リ内一人ハ
 店内板ノ間ニ差置候養素麵ヲ土鍋ノ儘ニテ取出シ又タ一人ハ

小賣致シ候酒樽ヨリ酒ヲ茶碗ニツイテ參リ夫レチ二人シテ給
 へ盡シ候今一人ハ酒モ呑マヌ素麵モ給へヌニ立テ居リタル様
 子ニ候
 一其ノ盜人ノ内呑ミ喰シタル一人リノモノト呑喰セサル一人
 リノモノハ二ツニカラケタル奪ヒ品ヲ持テ表ノ入口ヲ明ケ外
 ノ方へ立出テ候其跡ニハ拔身ヲ持テタル一人ノ男カ残りテ居
 タルコトニ候其内前ニ表ノ方へ出テ行キタル二人ノモノハ立戻
 リ今度ハ一同ニテ(盜人ノ二)立出テ候其際キ拔身ヲ持テタルモ
 ノカチレハ夜ノ明ケル迄戸ノ外ニ立テ居ルカラ聲ヲ立ルコトハ
 ナラヌツ又何處へモ出ルコトハ成ラヌツト威シテ外へ出テ參リ
 候尤モ暫ク戸ノ外ニ立テ居リタル様子ニ候其中久左衛門ハ圓
 ニ參リ度由ヲ申スニ付自分ハ拔キ足ニテ戸ノ隙キ間ヨリ表ノ

方ヲ覗キ候處最早何レハ歎立去リタル様子ニテ又自分ノ手ハ至テ緩ルク縛リテアリシ故エ漸ク引ホトキ而シテ久左衛門ノ縛ラレタル帶ヲ解キ裏口ヨリ密ニ便所ヘ遣シ候

一其盗人ノ年頃並人相衣類ノ縞柄等ノ御尋ニ付申上候

一此義ハ自分モ只々恐怖ヲ致シテ居リシ故エ能クハ認メス候得共其概畧ヲ申上ケ候

一脊ハ皆ナ低キ方ニ候其ノ三人ノ内壹人ハ年頃四十歳先五十歳ニ近キモノト見受ケ候跡ノ一人リハ三十歳先ト見受ケ候今

一人ハ二十八九歳三十前ト見留メ候

一衣類ノ縞柄等ハ少シモ覺ヘハ無之候左レモ皆ナ紺地歟又ハ紺ノ極ク細カキ縞トモ見受ケ候白地等ノ衣類ヲ着シテ居リタルモノハ一人モ無之候

一此三人(賊ヲ云フ)ハ皆ナ紺足袋ヲ履キテ居タル様ニ覺ヘ居候得共股引又ハ脚半ヲ着キテ居タルモノハ無之様ニ存シ候

一此ノ盗人ハ何レモ面体ハ手拭ヒニテ隠シ居リ候付確トハ認メス候得共其ノ人相ノ荒増ヲ申上候

一右四十先五十ニ近キ男ト申スハ色ハ黒キ方ニシテ鼻ハ俗ニ獅子鼻ト申ス鼻ノ形ヲニ候又顔ハ横ニヒラタキ方ニ候

一三十歳先四十歳前ノ男ト申スハ前ノ人ヨリ少シ色白キ方ニ候又目鼻口ハ先ツ常体ノ人ニ候

一二十歳先三十歳前ト申上ケタルモノハ顔ハ細長キ方ニ候色ハ黒キ方ニハ無之候眼鼻ヲチモ悪ルキ方ニハ無之候

右之通りニ申上候處囚人二人リヲ御示シニナリ彼ノ囚人ノ顔ニ見覺ヘカアルカトノ御尋子ニ候

一只今示サレタル二人ノ囚人(此時糺問掛ハ丸山權太)ハ九月二十九日ノ夜自分ノ方へ押入りタル盗人ノ様ニ見受ケ候亦タ拔身ヲ提ケテ居リタルモノハ先キニ示サレタル囚人(此ノ囚人ハ丸山權太郎)ノ様ニ存シ候此ノ人相ハ前ニ申上ケタル四十先五十ニ近キ人ト申上ケタル人ト存シ候後ニ示サレタル囚人(此時ハ鈴木大助ヲ示ス)ハ素手ニテ押入り戸棚ヨリ反物其外ヲ取出シタル人ノ様ニ認メ候此ノ人ノ年格好并ニ人相ハ前ニ申上ケタル三十先四十前ノ男ト申立タル人ト存シ候又其(二十九日ノ夜)素麵ヲ喰ヘタリ酒ヲ呑タルモノハ彼ノ二人ノモノト存候左レモ素麵ヲ給ヘタル方ハ彼レ酒ヲ呑ミタルモノハ是レト只今其人ヲ別ケテハ申上ケ難ク候

土橋三左衛門始末書 明治十一年十月廿日

明治十一年九月三十日午前第八時頃ト覺ヘ年齢二十歳位ニテ頭總髮中肉中丈目鼻口常体衣類淺黃紺縞ノ單物ヲ着シ紺無地三尺帶ヲベタル男買物ニ罷越候ニ付竹籠貳ツ代拾貳錢五厘系立貳枚代三錢五厘ニテ賣渡シ候義ニテ其儘右ノ者ハ立去リ候義ニ御座候

右各書ヲ參觀スレハ横濱戸部町警察署ニテナシタル口供ト事主石井久左衛門並同人妻ソ土橋三左衛門等ノ申立ル處ト符合スルヲ以テ右警察署ニテノ口供ハ其事實ヲ吐露セシモノトス依テ大助カ持兇器強盜ヲ爲サ、ルトノ申立ハ相立サル上告ナリトス故ニ横濱裁判所ニ於テ改定律例第二百二十七條中改正條款ニ照シ懲役終身ニ處シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

六五五

右ノ如クナルヲ以テ明治十二年五月三十一日横濱裁判所ニ於テ鈴木大助ニ申シ渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也

第四百九十五號

○判文持兇器強盜ノ件明治十二年六月五日上告
明治十二年十一月十四日判決

神奈川縣横濱伊勢町六

町目第二百七十九番地

海老塚治右衛門借店平

民紙屑買渡世

丸山權太郎

明治十二年五月
四十七年四月

右權太郎カ明治十二年五月二日横濱裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供

左ノ如シ

自分儀明治十一年九月上旬日失念兼テ惡意ナル上總國長柄郡茂原宿出生鈴木大助自宅へ相越シ忍ヒノ品カアルカラ賣捌キ吳レト相頼マレ自分モ盜品ト心付ナカラ利慾ニ迷ヒ承諾シ同月中同人三度ニ持參ル衣類其外共五品代金二圓十五錢ニ買求メ内二品ハ代金壹圓拾錢ニ名住所不知者へ賣拂ヒ一品ハ伊勢町五丁目大久保六右衛門方へ金二拾五錢ニ質入シ壹品ハ同町小系ルイ方へ金拾錢ニ質入シ殘一品ハ賣拂フ約定ニテ同町四丁目岡本源次郎方へ預ケ置候事

明治十一年九月二十四日頃右鈴木大助鐵瓶一個持參リ前同様盜物ト乍存預リ置候事

七五五

明治十一年九月卅日午后十時頃右鈴木大助ナル者反物并衣類等入タル荷籠一個持參リ賣捌キ吳ル様申聞ケ同人ハ其儘立歸リ翌日則

明治十一年十月一日大助ハ大阪熊ト申者同道自宅へ参リ尙又賣拂方催促サレ其節兩人ノ者荷籠ノ内ヨリ衣類反物等員數不知取出シ持歸リ残り預品ノ内木綿反物其外共三品ハ前書岡本源次郎ニ代金二圓五十錢ニ賣拂ヒニタ子木綿反物其外共七品ハ同人方へ預ケ置キ同一品ハ右小糸ルイ方ニ金拾錢ニ質入シ同三品ハ大久保六右衛門ニ代金七十錢ニ賣拂ヒ同三品ハ名住所不知者ニ代金八十錢ニ賣拂ヒ同反物其外共六十三品ハ伊勢町五丁目梅澤文七口入ニテ青木金七方へ代金二拾二圓五十錢ニ賣拂ヒ残り反物其外七品ハ自宅ニ預リ置キ追テ賣拂ヒ代金トシテ大助へ金六圓五十錢大阪熊へ七圓相渡シ申候然ルニ右物品ハ明治十一年九月二十九日夜石井文太方ニ於テ自分並鈴木大助大阪熊ト三人申合セ奪取タル趣大助ニ於テ申立テ候へル自分ハ明治十一年九月二十七日午后三時頃横濱居留

地字清水屋敷ニ博奕ノ催シアルヲ承リ直チニ同所へ相越シ名住所不知者共ノ手合ニ加リ同月卅日朝迄賭奕致居尤其中九月廿九日午后一時頃ヨリ同五時過迄要用アリテ横濱北方上野町窪田源兵衛方ニ参リ居候儀ノ旨申上候處實ハ鈴木大助並大阪熊ト申合セ銘々乃物或ハ棒等ヲ携へ石井文太宅ニ於テ同人父石井久左衛門外一人ヲ縛置キ金子并反物衣類等奪取タル儀ニ可有之再應御吟味有之候得共右等ノ所爲一切無之候事

明治十二年五月三十一日横濱裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方義盜贓ト知テ鈴木大助ヨリ衣類其外買取ル贓金貳圓余其上同人並行方未知大坂熊俱々兇器ヲ携へ石井文太宅ニ押入金子其外奪取タルヲナシト主張スト雖モ黨類鈴木大助カ警察署ニ於テ爲シタル口供及ヒ事主文太父石井久左衛門并同人妻ムメ其他和田千代等

ノ明狀アルヲ以テ罪跡著明タリ右科ノ内改定律例第二百二十七條中
改正條款ニ照シ懲役終身申付ル

丸山權太郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年六月七日大
審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

自分儀千葉縣上總國長柄郡茂原驛本宿出生無籍當時神奈川縣都筑
郡長津田村和田〔チヨ〕方止宿鈴木大助成者昨明治十一年九月廿五日
自分宅ニ相越同夜一泊シ翌廿六日住所不存大坂熊ト申者尋テ參ル
旨ニテ右大助待合居候處午前第十時頃熊ナルモノ罷越夫ヨリ酒宴
ヲ催シ其際談言致候ニハ大助并熊トモ是ヨリ程ヶ谷ニ相廻リ大助
方ニ立歸同夜盜スル心組ニ付盜品賣捌方自分ニ相托サレ兩人共正
午十二時過キ立歸リタリ然ルニ翌廿七日午前十時頃ト覺ヘ姓名不
知者大助ヲ尋來リ候得共居合不申旨申聞候ハ、大助止宿所ニ罷越

度故同人宅迄人力車雇吳候様依頼ニ依リ雇遣シ置夫ヨリ金子所持
致シ兼テ約定通り大助方ニ罷越候處盜取タル品未タ無之旨申答ニ
付其夜一泊翌廿八日朝同人方ヲ立出歸宅ノ途中當港埋地水屋敷ナ
ル賭博場ニ罷越翌廿九日正午十二時頃迄其場ニ連リ居リ晝食ノ爲
メ一時立出同港元村姓名不存割烹店ニテ一飯ヲ喫シ然ル后チ北方
妙光寺下久保田源兵衛方ニ諸用有之ニ依リ相越同午后五時頃用濟
尙又右賭博場ニ立戻リ賭博致居候處同夜十時頃自分宅近傍ノ苗字
不存左官職善吉ト申者同所ニテ出會互ニ挨拶致シ立別レ候儘其後
ハ何レニ參候哉逢不申翌卅日午前第八時頃其場ヲ立出テ歸宅仕候
ハ、前顯大助儀豫メ依頼有之盜品〔反物凡八十反程〕持來リ相待居ル
處ニ歸宅スト雖モ近隣ノ者居合候故賣捌方ノ相談モ出來兼退テ賣
捌遣スヘク旨申聞兎モ角物品其儘預リ置候處翌日十月大助右品賣

捌否ヤ尋參リ候ニ付未タ賣込口モ無之旨申聞候ハ、其品物中ヨリ反物二三反ヲ取出シ持歸尙又同夜大坂熊相越候ヘ右同斷之儀ニ付是モ兩三反ヲ持歸リ翌二日ニ至リ漸ク自分近傍同稼業梅澤文七ヲシテ右殘品金廿貳圓五拾錢ニ爲賣拂本人共ハ金拾三圓ヲ遣シ殘金九圓五拾錢ハ自分落手仕候次第然ルニ同月七日巡查御出張御召捕相成戸部町警察署ヘ御引立ノ上始本御尋問ニ付逐一御答申上候所鈴木大助口供ニ依リ強盜ノ御嫌疑相掛リ尙御尋問相成候ヘ共決テ右等ノ覺ヘ無之不正品取扱候耳申上候ハ、其儘拇印濟ニテ檢察係ヘ御差送該御係於テモ御尋問有之ト雖モ前述ノ通申上其後糾問係ヘ相廻リ數度御調相成候得共唯不正品取扱候耳ニテ素ヨリ大助俱々兇器ヲ携ヘ石井文太宅ヘ押入強盜相働キ候覺毛頭無御座ニリ其段御答申上置候然ルニ去ル五月卅一日御呼出ノ上懲役終身ト

御所刑相成候ヘ共自分儀持兇器強盜致シタル覺無之ニヨリ右御裁判不服ニ付乍恐此段奉告候也

大審院ニ於テ裁判スルノ如シ

上告ノ主點

上人丸山權太郎カ請求スル所ハ左ノ條件ナリトス

鈴木大助等ヨリ被頼盜物賣捌遣タルニテ彼等ト共々持兇器強盜ヲナシタル覺無之ヲ持兇器強盜ノ科ニヨリ懲役終身ニ所セラレタルハ不服トノコト

辨明

明治十一年九月二十五日鈴木大助尋來同夜一泊翌九月二十六日大坂熊ト申者大助ヲ尋テ自分宅ヘ罷越右兩人ヨリ同夜盜スル心組ニ付盜品賣捌方相托サレ其日大助熊共立歸リタルニ付翌九月二十七

日約束ノ通り金子持參ニテ大助止宿先神奈川縣都筑郡長津田村和田「チヨ」方へ罷越候所未タ盗品無之旨相聞ルニ其夜ハ「チヨ」方ニテ一泊翌九月二十八日出立歸宅ノ途中横濱埋地水屋敷ナル賭博場へ罷越翌九月二十九日正午十二時頃其場立出同港元村姓名不存割烹店ニテ晝飯ヲ喫シ夫ヨリ所用アルニヨリ北方妙光寺下久保田源兵衛方へ罷越午後五時頃所用相濟タルニ付尙又右賭博場へ立戻リ賭博致居翌九月三十日午前第八時頃歸宅致シ候所大助儀曾テ依頼セシ盗品持來リ居候ニ付預リ置候上右品々賣捌遣シタルニテ唯不正品取扱タル儀ニテ明治十一年九月二十九日石井文太方へ大助等俱々兇器ヲ携押入強盜相働タル覺無之旨申立ルト雖モ同夥鈴木大助カ横濱戸部町警察署ニ於テ吟味ヲ受タル節ノ口供及事主石井文太父隱居石井久左衛門其他ノ者ノ始末書ヲ閱スルニ左ノ如シ

鈴木大助横濱戸部町警察署ニテノ口供要旨

明治十一年九月十一日其ノ頃住所姓名不知石橋菊彌「大坂出生ノ熊」ト申ス者ト横濱伊勢崎町ニ於テ懇意トナリ其節自分ハ武州都筑郡長津田村安泊渡世本多「チヨ」方へ止宿シ居ルカラ尋テ参ル様申聞ケ相別レ其後明治十一年九月廿七日伊勢町六丁目紙屑買渡世丸山權太郎方へ罷越シタル處引續キ大坂熊モ尋テ來リ權太郎大坂熊自分トモ都合三人トナリ其ノ節三人ニテ誰ノ發意トナク近在ニ行キ盜ニ致スヘクト相談シ約束整フタルヨリ大坂熊ニ自分ノ兩人ハ權太郎方ヲ出發シ先立テ武州都筑郡長津田村安泊渡世本多「千代」方へ罷越シ引續キ丸山權太郎モ尋テ來リ候得共同夜ハ三人トモ他行セス權太郎及ヒ自分ノ兩人ハ本多「千代」方へ大坂熊ナルモノハ向フ家へ寢臥シ明治十一年九月二十八日晝飯

ヲ仕舞三人連レニテ本多「テヨ」方ヲ出行シ盜ミテ致スヘク所々歩
 ミタルモ盜ミニ這入ヘク家屋モナク空シク夜ヲ明シタルヲ以テ
 明治十一年九月二十九日ノ晝ノ間ハ本原町田村ノ山中へ三人ト
 モ寢臥シ夜ニ至リ午後第十二時頃トモ覺へ自分ハ唐棧淺黃縵縞
 單物ニ紺ノ腹掛ケ脚半足袋ヲ着ケ面体ハ露シ頭髮而已ヲ手拭ヲ
 以テ包ミ刺身庖丁長サ三寸程ノヲ持テ大阪熊ハ茶小辨慶ノ單物
 小倉男帶紺ノ腹掛ケ脚半足袋ヲ着ケ面体ヲ露シ頭髮ハ手拭ニテ
 包ミ栗ノ木ノ三尺位ノ棒ヲ携へ丸山權太郎ハ紺カスリ單物古小
 倉帶紺ノ脚半足袋ヲ着シ三尺程長サノ竹ヲ携へ武州都筑郡奈良
 村其節姓名不知石井文太居宅荒物小間物類ヲ買フ新店往還端ノ
 雨戸ノ中央ノ戸袋ノ敷居下ヲ自分及ヒ權太郎ノ兩人ニテ掘穿テ
 其ノ穴ヨリ大坂熊カ這入り内ヨリ締リテ外シ吳レタルヨリ兩人ト

モ這入突當リノ坐敷ニ年老ヒタル夫婦ノ寢臥シ居ル居間ニ三人
 トモ這入其ノ居間ニ於テ兼テ用意シタリシ早附木ニテ蠟燭ニ火
 チ燈シタル節姓名不知年老ヒタル兩人ノ者カ驚キタル体ニテ聲
 立ツル摸樣ニ付聲ヲ揚ケテハナラヌト大阪熊カ制止シタルヨリ
 兩人トモ黙シ居リ依テ戸棚ヨリ錢箱ヲ出シ及ヒ其ノ戸棚ニアル
 物品掠奪スル左ニ
 一金三圓余拾錢貳拾錢札取交ニテ五十錢程銀貨銅
 錢文久天保青錢交リニテ貳圓八十錢程
 右ノ外其節員數ハ知ラス御取調ニテ始メテ承知仕候物品ノ員數
 左ニ
 一黒絹吳呂服 壹カマ 但シ五丈八尺
 以下畧之
 計百〇三品

右ノ品々ヲ白麻或ハ藁繩ニテ括リ自分及ヒ權太郎ノ兩人ニテ先立テ持出シ大坂熊ハ暫時跡へ残り店先キへ据へアル酒樽ヨリ酒ヲ出シ吞ミ居リ自分權太郎ノ兩人道程壹町半モ行キタル時分跡ヨリ大坂熊カ退付キ夫ヨリ三人ニテ八王子街道星川村ノ山中へ持越シ大坂熊ノ二人ハ盜品ニ附添居リ自分ハ其ノ盜品ヲ包ミ持運フ爲メ芝生村其ノ節姓名不知荒物渡世土橋三左衛門方ニテ新規ノ駕籠ヲ壹荷分代金拾四錢五厘及ヒ糸立二枚ヲ三錢五厘ニテ相求メ右ノ山中へ持行キ其駕籠へ盜品ヲ積込ニ三人連レコテ翌三十日朝東京府下八丁堀迄東海道筋ヲ人力車ニテ權太郎及ヒ自分ノ兩人ハ罷越シ大坂熊ノ懇意ノ方ニ行キ盜品ヲ賣捌コ持越シ大坂熊ハ神奈川驛ヨリ瀛車ニテ行キ八丁堀ノ目鏡橋ニ於テ權太郎及自分ノ兩人ハ品物持ナカラ相待大坂熊ハ其懇意ノ方八丁

堀岡崎町トヤラへ行キ暫ラクシテ立戻リ其ノ品ヲ捌キ吳レヘキ本人カ不在ナルニ付何分當所ニテハ捌キカ運ハヌト申ス故ニ三人トモ人力車へ乗込ニ東海道筋ヲ經テ伊勢町六丁目丸山權太郎居宅へ持越シ盜品ハ其儘丸山權太郎へ相預ケ置キ神奈川驛人足宿吉川屋へ至リ止宿シ大坂熊モ丸山權太郎方ハ直チニ立歸リ候

明治十一年十月一日晝頃丸山權太郎方へ行キ盜品ノ内左ニ

一紺股引 壹足

一紺足袋 壹足

右ノ二品ハ自分御召捕ノ際所持居タリ

一小辨慶茶縞物但シ持參ノ上單

右品ハ明治十一年十月三日神奈川驛石田理兵衛方へ國上時興方ニテ盜ミタル紺カスリ單物ト共ニ代金壹圓四拾三錢七

厘五毛ニ
質入レス

一 豎三筋縞太物

壹反

右明治十一年十月二日神奈川驛質渡世古
平尙平方へ代金三拾七錢五厘ニ質入レス

其外盜品ハ丸山權太郎ニ於テ賣捌キ吳レ明治十一年十月一日ト
覺へ金六圓五拾錢ヲ配分受取候事

石井文太方ニ於テ盜取ル金三圓余ハ東京表へ往返セシ費用ニ三
人ニテ遺捨候事

大阪熊トハ其後面會セサルニ付盜ニ品ノ内何品ヲ持參セシヤ亦
丸山權太郎ト金圓何程ヲ分配セシヤ更ニ承知不致候事

明治十一年十月十一日長津田村本多千代方へ止宿中午後第九時
過キ巡查方御出張相成御取押ノ末戸部町警察署ニ於テ御取調ヲ
受ケ重々恐入候事

前書盜ニ取ル金三圓八拾六錢余物品百六拾三品此質入及ヒ賣却
シタル代金合計貳拾四圓貳拾錢六厘ハ總テ遺捨現在不致候事

右

明治十一年十月廿六日

鈴木 大助 摺印

前顯都筑郡奈良村石井文太方へ這入ル前ニ各々携へ行キタル兇
器ハ宅前へ拾置キタリ家内ノ者ヲ縛リシヲ等ハ無之候事

右

明治十一年十月廿六日

鈴木 大助 摺印

石井久左衛門始末書
明治十一年
十二月九日

自分儀明治十一年九月二十九日ノ夜強盜ニ押入ラシ候始末御尋
テノ義ニ付申上候

一 自分義隱居ノ身分ニ付妻ソヨ俱々出店ノ方へ相越シ居リ商

業ノ手傳ヲ致シ夜分ハ出店ノ方へ泊リ候其出店ハ本家ヨリ凡
ソ壹丁計リモ離レ居候

一明治十一年九月二十九日ノ夜ハ午後十時過トモ存シ候頃
戸締リヲ致シ打臥シ候處凡ソ半時間モ過キタル頃口歟ト存シ
枕許コテ靜コセロ聲ヲ立テルナシンビユウニシロトニタ、ヒ
三々ヒ聲掛ケテ驚キ目ヲ覺シ候處最早三人枕元ニイミ居リ
果シテ盜賊ノ押入りタルト心付見世先ノ入口ヲ見及ヒ候處
戸ノ明ケテアル場處モ無之太々不審ニ存シ居リ候場合彼ノ三
人ノ内コテ貳尺計リモ可有之ト存シ候抜刃ヲ携へ居ル人カ自
分ノ兩腕ヲ後ロノ方へ廻シ候其キ自分ハ昨年中ヨリ肩コ痛ミ
所ヲ覺へ帶モ後ロテハペテレヌ位ニ付其痛ミニ堪へ難キヨリ
後ロへ廻サレテハ痛クテ叶ハナイト叫ビ候コ付亦々其手ヲ前

コ廻シ側ニ差置候自分ノ帶ヲ以テクルクル巻ニ縛リ候而シテ
其人ハ(刀ヲ以テ居)自分ノ肩ヲ押へ抜刃ヲ自分ノ頭ノ上ニアテ
、居リ候外ノ二人ハ何レモ素手ニテ店内ニアル戸棚ヲ引明ケ
反物並ニ切地等ヲ引出シ其傍ニアル麻苧ヲ以テ其品物ヲ縛リ
店入口上リ段ノ脇迄持テ出シ置然シテ店内ノ板ノ間ニアル煮
素麵ヲ土鍋ニ入レタル儘ニテ取出シ參リ亦々小賣ヲ致ス酒樽
ヨリ茶碗ヲ以テ酒ヲツキ凡ソ三四杯モ呑タル様ニ認メ候亦々
一人リノモノハ土鍋ニアル素麵ヲ喰ヒ盡シ候今一人ハ酒モ呑
マヌ素麵モ喰ハス候右三人ノ内抜刃ヲ持チタルモノ、外ハ一
端奪品ヲ表ノ方ニ持出シ程モ無ク立戻リ又蝙蝠傘五本ヲ奪取
リ此ノ度ハ三人一同ニ立出テ候其キ拔身ヲ携へ居ルモノハ一
番跡ヨリ立出候付店セ入口ノ戸ヲ外ヨリ建寄セ置キテレハ夜

ノ明ケル迄此處ニ立テ居ルソ外へ出ルコトハナラヌト申威サ
 レ候間暫ラシ其儘罷在候處程無ク盜人モ立去リタル様子ニシ
 テ且ツハ便所ニモ參リ度相成候故ニ妻ソヨニ自分ノ縛ラシタ
 ル帶ヲ解セ便ヲ達シタル後チニ戸締リ其外ヲ改メ候處店入口
 土臺ノ下チ凡ソ貳尺餘リノ巾ニシテ深サハ壹尺五寸計リモ掘
 穿チアリシヨリ賊ハ此所ヨリ這入リタルモノト其キ初メテ心
 付キ候コトニ之レ有リ候又其掘リタル穴ノ中チニ長サ三寸計リ
 チル刺身庖丁カ捨テアリ候其庖丁ニテ穴チ居リタルモノト考
 へ候此ノ庖丁ハ御届ケ致ス節一所ニ納メタル庖丁ニ候
 一妻ソヨモ兩手チ前ニテ縛ラレ候得共是レハ麻苧ニテ緩ルク
 縛リ候故ニ歟直ニホドケテ仕舞候夫レ故ニ盜人が出テ行際原
マキニ摺附ケ木チ出セト申セシトキモ摺附ケ木チ渡シ遣リ候

又其跡ニテ自分ノ腕チモ解キテ呉レタルコトニ候
 一其盜人ノ年頃並ニ人相衣類ハ自分モ恐怖致シ居候事故確ト
 ハ認メス候得トモ其片認メタル丈ケノコト左ニ申上候
 一右三人ノ盜人ハ何レモ黒カ又ハ紺ノ極ク細カキ縞ノアル衣
 類ノ様ニ見受ケ候且ツ此ノ三人ハ皆チ紺足袋チ履キテ居リ候
 得共股引亦ハ脚半等チ附ケタルモノハ無之候
 一右三人ノ内一人ハ四十余歳五十ニ近キ人ニ候又壹人ハ三十
 余歳ト認メ候今壹人ハ二十八九歳位ニ見受ケ候
 一其五十ニ近キト見ヘタル人ハ俗ニ獅子鼻ト申鼻ツキニテ眼
 口其外ハ確トハ認メ申サス候又三十餘才ト見ヘタル人ハ顔ハ
 丸キ方ニシテ随分太リテ居ル方ニ候眼鼻口ハ皆チ常体ノ男ニ
 候廿八九歳ニ見ヘタルモノハ色ハ黒キ方ニシテ顔ハ長キ方ニ

見受ケ候目鼻ノ形ナハ何レモ常体ナル方ニ候又此ノ若者ハ少
 シ菊石(アバ)ガアリタル様ニ覺ヘ候
 一其節奪ヒ取ラレタル金銭物品ハ倅文木ヨリ御訴ヘ申上候義
 ニ付別ニ申立ハ仕ラス候
 一只今示サレタル二人ノ囚人(此時糺問掛ハ丸山權太)ハ九月廿
 九日ノ夜自分ノ宅ヘ押入り候強盜ニ相違ナキ様ニ認メ候亦マ
 拔刃ヲ携ヘ自分ノ兩腕ヲ前ニ廻シ自分ノ帶ニテ縛リ候モノハ
 先ニ示サレタル(先キニ示シタル丸山權太郎ナリ)囚人ニ有之様ニ存シ候后チニ
 示サレタル囚人ハ(是レハ鈴木大助ナリ)素手ニテ押入りタル様ニ存シ候
 其節素麵ヲ喰ヒ酒ヲ呑タルモノハ彼ノ二人リノ様ニ存シ候左
 レモ余程日數モ立チタルコト故エニ素麵ヲ喰ヒタルモノハ彼レ
 酒ヲ呑タルモノハ是レト只今其人ヲ別ケテハ申上ケ難ク候

事主石井久左衛門妻ソヨ始末書明治十一年十月十日

一自分儀明治十一年九月二十九日ノ夜強盜ニ逢ヒタル始末ヲ
 御尋テニ付申上候

一自分ハ夫ノ久左衛門ト倅文太ノ商ヒ店セノ方ニ參リ居リ多
 クハ其方ヘ寢宿リテ致シ居リ明治十一年九月二十九日ハ午後
 十時ヨリ十一時ノ間ニ寢臥シ候處耳元ニテシンビユウコ致セ
 ト申ス聲ニ驚キ覺メ直チニ起キ上リ候處何者カ三人枕元ニ立
 テ居リ候其内一人ハキラキラ光ル拔身ヲ提ケテ居リシ故エ扱
 ハ泥棒(盗人ナリ)ニ這入ラレタルコト初テ心付其儘蒲團ノ上ニ据
 リテ居リ候處其ノ盜人ハ聲ヲ舉テハナラヌコト動ヒテハ成ラヌ
 ヲト申聞クル故エ只怖クテナリマセヌ故エ何トモ申サス据リ
 テ居リ候然ル處其盜人共(三人ナリ)ハ夫久左衛門ノ兩手ヲ取リ其

ノ兩腕ヲ後口へ廻シ候付痛々々ト呼ハリ候故エ其ノ手ヲ前ニ
廻シ久左衛門ノ帶ヲ以テクル々々卷ニ縛リ候而シテ自分ノ兩
手ヲ前ニテ縛リ置拔身ヲ持タル盜人ハ久左衛門ノ肩ヲ押サヘ
其ノ拔身ヲ久左衛門ノ頭シラノ上ニサシカザシ金ノアル處ヲ
言ヘト責メタル后チニ外ノ二人ハ（素手ニテアリタ
ルモノヲ云フ）店內ノ戸糊
ヲ引明ケ反物其外（盜難訴ニ
詳カナリ）ヲ取出シ側ノ柱ニ掛ケテアル麻苧
ヲ引キ卸シ其ノ麻苧ヲ以テ奪品ヲ二ツニカラケ其品物ハ一端
店ノ上リ鼻迄持出シ置キ三人ノ盜人ハ又坐敷ニ立歸リ内一人
ハ店内板ノ間ニ差置候素麵ヲ土鍋ノ儘ニテ取出シ又一人ハ
小賣致シ候酒樽ヨリ酒ヲ茶碗ニツイテ參リ夫レチ二人シテ給
ヘ盡シ候今マ一人ハ酒モ呑マヌ素麵モ給ヘスコ立テ居リタル
様子ニ候

一其ノ盜人ノ内呑ミ喰ヒシタル一人リノモノト呑喰セサル一
人リノモノハ二ツニカラケタル奪ヒ品ヲ持テ表ノ入口ヲ明ケ
外ノ方へ立出候其跡ニハ拔身ヲ持テタル一人ノ男カ殘リテ居
タルコトニ候其内前ニ表ノ方へ出テ行キタル二人リノモノハ立
戻リ今度ハ一同ニテ（盜人ノ三人
ヲ云フ）立出テ候其際（原ノ
マ）拔身ヲ持
テタルモノカオレハ夜ノ明ケル迄戸ノ外ニ立テ居ルカラ聲ヲ
立ルコトハナラヌ又何處へモ出ルコトハ成ラヌト威シテ外ト
へ出テ參リ候尤モ暫ラシク戸ノ外ニ立テ居タル様子ニ候其中久
左衛門ハ剛ニ參リ度由チ申スニ付自分ハ拔足ニテ戸ノ隙キ間
ヨリ表ノ方ヲ覗キ候處最早何レへ歎立去リタル様子ニテ又自
分ノ手ハ至テ緩ルク縛リテアリシ故エ漸ク引キホトキ而シテ
久左衛門ノ縛ラレタル帶ヲ解キ裏口ヨリ密ニ便所へ遣シ候

一其盗人ノ年頃並入相衣類ノ縞柄等ノ御尋ニ付申上候
 一此儀ハ自分モ只々恐怖ヲ致シテ居リシ故ニ能クハ認メス候
 得共其概畧ヲ申上ケ候
 一脊ハ皆ナ低キ方ニ候其ノ三人ノ内一人ハ年頃四十歳先五十
 歳ニ近キモノト見受ケ候跡ノ一人リハ三十歳先ト見受ケ候今
 一人ハ二十八九歳三十前ト見留メ候
 一衣類ノ縞柄等ハ少シモ覺ヘハ無之候左ノ皆紺地カ又ハ紺
 ノ極ク細カキ縞トモ見受ケ候白地等ノ衣類ヲ着シテ居リタル
 モノハ一人モ無之候
 一此三人(賊ヲ云フ)ハ皆ナ紺足袋ヲ履キテ居タル様ニ覺ヘ居候得共
 股引又ハ脚半ヲ着キテ居タルモノハ無之様ニ存シ候
 一此ノ盗人ハ何レモ面体ハ手拭ヒニテ隠シ居候付確トハ認メ

ス候得共其ノ人相ノ荒増ヲ申上候
 一右四十先五十ニ近キ男ト申スハ色ハ黒キ方コシテ鼻ハ俗ニ
 獅子鼻ト申ス鼻ノ形ヲニ候又顔ハ横ニヒラタキ方ニ候
 一三十歳先四十歳前ノ男ト申スハ前ノ人ヨリ少シ色白キ方ニ
 候又目鼻口ハ先ッ常体ノ人ニ候
 一二十歳先三十歳前ト申上ケタルモノハ顔ハ細長キ方ニ候色
 ハ黒キ方ニハ無之候眼鼻ヲチモ悪ルキ方ニハ無之候
 右之通ニ申上候處囚人二人リヲ御示シニナリ彼ノ囚人ノ顔ニ
 見覺ヘカアルカトノ御尋ニ候
 一只今示サレタル二人ノ囚人(此時糺問掛ハ丸山權太郎鈴木大助ヲ指示ス)ハ九月廿
 九日ノ夜自分ノ方へ押入りタル盗人ノ様ニ見受ケ候亦タ拔身
 ヲ提ケテ居リタルモノハ先キニ示サレタル囚人(此囚人ハ丸山權太郎ナリ)

ノ様ニ存シ候此ノ人相ハ前ニ申上ケタル四十先五十ニ近キ人ト申上ケタル人ト存シ候後チニ示サレタル囚人(此キハ鈴木大助チ云フ)ハ素手コテ押入り戸棚ヨリ反物其外チ取出シタル人ノ様ニ認メ候此ノ人ノ年格好并ニ人相ハ前ニ申上ケタル三十先四十前ノ男ト申立タル人ト存シ候又其(二十九日ノ夜)素麵ヲ給ヘタリ酒ヲ吞ミタルモノハ彼ノ二人リノモノト存候左レモ素麵ヲ給ヘタル方ハ彼レ酒ヲ吞タルモノハ是レト只今其人チ別ケテハ申シ上ケ難ク候

久保田源兵衛始末書 明治十一年十二月十二日

自分儀横濱伊勢町六丁目丸山權太郎ニ於テ明治十一年九月二十九日自分ノ宅ヘ立寄リタルカトノ御尋子ニ付申上候

一此ノ日(明治十一年九月廿九日)自分ハ稼業ニ立出テ午後三時過キ歸宅致

シ夫ヨリ翌日迄宿許ニ罷在リ候得共丸山權太郎ハ立寄り申サス候又此ノ日(九月二)妻マシハ武州八王子宿ヘ出立致シ候付宿許ニハ居ラス候

一丸山權太郎カ自分ノ方ヘ参リ呉レ候ハ今年(明治十一年)九月ノ二十日歟二十一日ト存シ候夫レハ妻マシガ持病ノ癩ニテ打臥シ居リ候キニ候其日ハ自分モ稼業チ早ク仕舞ヒ藥チ買フテ歸リタル節丸山權太郎ハ自分ノ宅ヨリ立出タル際ニ候夫レ故ニ門口ニテ挨拶ヲ致シ立別レタルコトニ候此ノ后チ同人ノ参リタルコトハ無之候

久保田源兵衛妻マシ始末書 明治十一年十月十二日

自分儀被召出横濱伊勢町六丁目丸山權太郎ト申スモノカ今年(明治十一年)九月ノ二十九日ニ自分ノ方ヘ参リタルカトノ御尋子ニ

候

一此ノ日(明治十一年)九月廿九日(明治十一年)自分ハ八王子宿へ出立致候ニ付宿許ニハ居ラス候尤モ晝立ニイタシ候ニ付晝前ハ宿ニ居リ候得共丸山權太郎ハ參ラス候

一九月二十九日途中原町田村ノ石井屋ト申ス宿屋ニ泊リ候夫レ故其翌日(九月三)ノ晝頃ニ八王子ニ參リ候又其キハ北方千代崎町ノ三野輪重四郎ノ娘ヲ連レテ參リ候

一丸山權太郎カ參リタルハ今年(明治十一年)九月ノ廿日歟廿一日ト存シ候

一又八王子ハ小門宿ノ伊藤豊四郎ト申スモノ、力ヘ參リタル事ニ候

右各書ヲ參觀スレハ權太郎カ持兇器強盜ヲナシタル覺ナシトノ申

立ハ相立タヌ同夥鈴木大助カ横濱戸部町警察署ニテノ口供及ヒ石井久左衛門同人妻ソヨノ始末書等ニテ權太郎カ大助等ト俱々兇器ヲ携ヘ強盜ヲナシタルコトハ判然タリ故ニ横濱裁判所ニ於テ改定律例第二百二十七條中改正條款ニ照シ懲役終身ニ處シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十二年五月三十一日横濱裁判所ニ於テ丸山權太郎ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也

第四百九十六號

○判文(船稅規則違犯ノ件)明治十二年九月十六日上告
明治十二年十一月十四日判決

東京京橋區采女町二十

二番地平民當時渡島國
龜田郡函館東濱町六十
番地運漕社寄留瀛船通
濟丸船長岩崎幹一代

酒崎忠助

右忠助カ明治十二年七月七日函館裁判所へ差出シタル始末書ノ趣旨
左ノ如シ

一瀛船通濟丸御鑑札之義者東京へ入船運漕社へ預リ置キ該地出船
ノ際所持可致之處今回ハ積荷約定有之且ツ目下傳染病豫防專一
故乘客等ヲ深ク注意可仕爲メ社員可參越儀ニ付御鑑札モ擔當可爲
致答ニテ船長義ハ出船前日ヨリ乘込居社員ハ右手配相尽シ居候處
豫テノ出帆時刻ニモ相成候ニ付全備候儀ト相心得拔錨仕候處右社

員乗後ノ自然御鑑札モ取忘候次第ニ御座候尤東京社ヨリ直ニ電報
ヲ以テ其旨通達有之本船義ハ六月廿九日入港翌三十日隅田丸東京
ヨリ入津便ニ付右御鑑札參着仕候ニ付當船御改所へモ上願仕猶右
御鑑札上納御届濟相成候儀ニ御座候社員ハ全ク前條ノ手配相運ヒ
居リ候爲メ時刻ヲ移候ニ付品川港ヨリ取急キ解下船ニテ漕出シ候
ヘトモ不被退付詮方ナク乗後ノ候趣ニ御座候此段以始末書奉申上
候也

右ノ始末書ニ依リ明治十二年七月七日函館裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ
申渡シタリ

其方儀瀛船通濟丸船長代トシテ東京ヨリ函館港ニ廻漕之砌船稅鑑
札ヲ所持セサル科明治五年第二百二十六号布告船稅規則改正第三
則ニ依リ該船ハ西洋形瀛船積高四百噸餘ナルニ付常稅五倍ノ罰金

三百圓申付ル

大審院詰兼務檢事長岸良兼養ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年九月十六日ヲ以テ大審院ニ上告セシメ左ノ如シ

所持之鑑札ヲ一時遺忘シ他港ニ入船スルモ速ニ取寄其筋ニ届出タルモノナレハ船税規則ニ依リ其罪ヲ問フ者ニアラスト然ルニ函館裁判所於テ該規則ニ違フモノトナシ之レヲ科罰セシ裁判當チ得サルモノト考量ス右明治九年第八号公布ニヨリ司法卿ノ旨ヲ受ケ上告期限外ノ破毀ヲ求メ書類差進候條御判決有之度候也
大審院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ

辨明

酒崎忠助カ漁船通濟丸船長岩崎幹一代ト爲ツテ東京ヨリ函館港へ航海ノ節過ツテ鑑札擔當ノ社員乗後レ該船ハ明治十二年六月二十

九日入港翌三十日隅田丸東京ヨリ入津ノ處右へ托シ鑑札送達ニ付船改所へモ届出タルトノ口供ナルニ因リ果シテ鑑札送達船改所へモ届出タルヤ否本院ヨリ函館裁判所へ問合セタル處函館船改所ヨリ函館裁判所へノ回答寫差廻シタルニ因リ之レヲ閱スルニ左ノ如シ

函館船改所ヨリ函館裁判所へノ回答ノ要旨 明治十二年十月廿一日

東京府平民當時函館區東濱町運漕社寄留通濟丸船長岩崎幹一代酒崎忠助義囊ニ船税規則違犯ノ廉ニヨリ貴所ニ於テ御處斷濟ノ處云々通濟丸入港ハ六月二十九日午後八時過ニテ船税鑑札不携帶赴チ届出タルハ六月卅日午前九時比ニ有之同日直チニ求刑ノ手續ニ相運ヒ警察署へ引渡候處七月一日隅田丸入港同日午後三時過通濟丸ノ鑑札上納且願書ヲモ差出候得共既ニ求刑ノ後ニ付